

平成29年度

# 柏市学力・学習状況調査

## 結果報告及び改善案

**「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」**

平成29年8月

柏市教育委員会



## 平成29年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 分析により「+One」の教育を	4
■柏市学力・学習状況調査概要及び結果について	5
□柏市学力学習状況調査内容について	
□学力状況結果一覧	
□過去5年間の学力状況の推移一覧	
■学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む4つのCについて	10
■【国語】学力状況調査結果及び指導改善案	16
■【社会】学力状況調査結果及び指導改善案	28
■【算数・数学】学力状況調査結果及び指導改善案	36
■【理科】学力状況調査結果及び指導改善案	52
■【英語】学力状況調査結果及び指導改善案	58
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	62
□ICT活用	
□学校図書館	
■分析用エクセルシートの使用法	66

## 分析により「+One」の教育を

柏市教育委員会

教育長 河 篤 貞

柏市が独自に実施している「柏市学力・学習状況調査」は、本年で6年目となりました。市全体としては、小中学校共にすべての教科・学年において、全国とほぼ同程度の結果であり、良好な状況といえます。しかし、これまでに6年間分のデータが蓄積されているのですから、各校においては、子ども一人一人の学びの状況に目を向け、より細やかな分析が必要です。そこで、今年度より、算数・数学において各校で正答率が低かった問題を分析し、学年や学級ごとに「課題のある問題」として配付しました。「学年分析データ」では、自校の子どもがつまずきやすい単元や内容が明確になっているので、日々の授業改善に活用してほしいと思います。また、たとえ、学年や学級の平均値が高くても、その中には学んだことが定着していない子どももいるはずです。したがって、「学級分析データ」により、一人一人の子どもの学びの状況を把握し、個別の支援を行うことが重要です。このように、自校の状況を知ることには止まらず、結果を分析し、改善に向けた具体的な手立てを講じることが、本調査を継続して実施している趣旨なのです。

人は、「努力により、自分が変わることができた。」という実感を得ることによって、それが意欲の向上へと繋がり、新たな一步を踏み出します。そのためには、本調査によって得られた、一人一人の子どもの実態をきちんと把握し、変化への「+One」を与えていくことが大切です。この報告書に記されている授業改善策を一助に、意欲の向上に繋がる授業アイデアを出し合い、全ての学級で達成可能な「+One」を促す授業が、日々展開されることを切に望むところです。

## 柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 平成29年4月6日(木)～21日(金)の期間中で、各学校が設定した日。

実施校 柏市内小中学校(小学校 42校 中学校 20校)

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,634人	2年から6年国語及び算数(2教科) 生活・学習意識調査(柏市独自アンケート) 6年は、社会及び理科を加えた4教科
	3年	3,635人	
	4年	3,622人	
	5年	3,506人	
	6年	3,478人	
中学校	1年	3,230人	国語、数学、社会、理科(4教科) 生活・学習意識調査(柏市独自アンケート)
	2年	3,217人	国語、数学、社会、理科、英語(5教科)
	3年	3,201人	生活・学習意識調査(柏市独自アンケート)

### 柏市学力・学習状況調査内容について

#### 【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査。
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題。
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題。
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題。
- ・記述論述問題を一定量(35～50%)出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題。

#### 【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣、学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査。  
小2(一部小4)から中3まで、同一設問で調査。調査項目のうち40項目は、学ぶ意欲と習慣を図る指標として数値化する。

#### 【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。

まず、当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。

次に、経年変化として、本年度の当該学年教科の平均正答率と、同一児童生徒の1年前のものとの比較、前年度同学年の児童生徒のものとの比較を、レーダーチャート図にまとめております。子供たち自身の成長を把握すると同時に、前年度の子供たちとの比較をし、経年変化を2側面から分析した。

調査結果から把握できる、子供たちの良さ(強み)と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示した。

【生活・学習意識調査について】

学ぶ意欲，学校図書館活用，ICT活用の度合いと，学習状況との比較を行い，よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

学年	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	国語					社会					算数/数学					理科					英語										
		基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用								
				思考・判断力	表現力				思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力						
小2年	目標値	78.0	82.6	56.3	55.0	57.5						79.2	83.5	62.5	63.6	55.0																
	市町村 平均正答率	80.6	85.8	56.3	54.5	58.1						83.6	88.9	62.7	63.3	58.9																
	全国 平均正答率	80.8	86.2	55.4	54.5	56.4						84.3	89.6	63.9	64.2	61.3																
	評価	≡	≡	≡	≡	≡						≡	△	≡	≡	≡																
小3年	目標値	74.6	77.8	62.0	65.0	57.5						72.0	75.6	53.3	56.3	47.5																
	市町村 平均正答率	78.4	81.6	65.7	70.5	58.6						76.1	79.9	56.4	60.5	48.2																
	全国 平均正答率	79.7	82.8	67.4	72.6	59.5						77.1	80.7	58.6	63.1	49.7																
	評価	≡	≡	≡	△	≡						≡	≡	≡	≡	≡																
小4年	目標値	68.0	72.6	47.0	48.3	45.0						67.2	73.4	43.1	45.8	35.0																
	市町村 平均正答率	71.5	76.3	49.1	50.6	46.9						74.6	80.2	52.6	56.0	42.2																
	全国 平均正答率	70.3	74.9	48.9	51.1	45.7						74.5	80.0	52.9	55.7	44.5																
	評価	≡	≡	≡	≡	≡						△	△	△	△	△																
小5年	目標値	68.4	71.3	55.0	60.0	47.5						63.9	66.9	48.3	50.0	45.0																
	市町村 平均正答率	75.4	79.1	57.5	61.9	50.9						70.0	72.8	55.1	54.8	55.6																
	全国 平均正答率	74.1	77.8	56.3	60.6	49.8						70.9	73.7	56.3	56.4	56.2																
	評価	△	△	≡	≡	≡						△	△	△	≡	△																
小6年	目標値	68.1	72.1	49.0	53.3	42.5	66.4	69.6	49.0	50.0	47.5	63.3	68.1	42.1	48.0	27.5	69.5	72.8	59.4	55.8	70.0											
	市町村 平均正答率	72.9	77.7	49.7	53.9	43.4	67.4	70.6	49.8	52.4	46.0	67.6	72.7	44.7	52.5	25.3	70.9	74.9	58.4	55.8	66.4											
	全国 平均正答率	74.7	79.4	52.4	57.4	45.0	69.2	72.1	53.4	55.7	50.1	69.5	74.3	48.4	54.9	32.1	71.9	75.7	60.0	56.4	70.6											
	評価	≡	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡											
中1年	目標値	66.2	69.8	54.3	60.0	40.0	61.2	63.4	50.8	55.0	30.0	67.1	68.1	61.7	70.0	45.0	62.4	64.2	56.9	57.0	56.7											
	市町村 平均正答率	69.2	73.0	56.6	62.9	40.7	62.1	65.7	45.3	50.1	21.4	68.7	69.2	66.2	76.4	45.8	65.1	65.9	62.5	66.3	56.1											
	全国 平均正答率	68.6	72.3	56.5	62.4	41.8	62.3	65.8	45.9	50.4	23.4	68.4	69.0	65.3	76.4	43.2	62.7	64.6	56.5	58.5	53.1											
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▼	≡	▼	≡	≡	≡	△	≡	≡	≡	≡	△	△	≡										
中2年	目標値	69.4	71.8	60.7	63.0	55.0	52.3	54.2	42.0	38.3	47.5	58.2	61.8	44.4	48.3	32.5	56.0	60.4	41.9	41.7	42.5	57.1	62.0	45.0	58.8	35.8						
	市町村 平均正答率	72.2	74.5	63.9	67.3	55.2	54.7	55.0	53.1	48.1	60.7	62.6	66.4	48.3	53.0	34.0	54.8	58.7	42.2	42.4	41.8	62.6	66.7	52.4	64.3	44.4						
	全国 平均正答率	72.0	74.1	64.4	67.2	57.4	54.6	54.9	53.1	48.0	60.7	60.4	64.4	45.4	49.4	33.1	56.5	61.6	39.8	41.2	35.7	58.7	62.7	48.7	61.8	40.0						
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	△	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	≡	△	△	△						
中3年	目標値	65.8	69.4	52.1	46.0	67.5	56.6	59.8	40.0	40.0	40.0	56.4	59.4	40.8	42.5	37.5	54.3	58.1	41.3	40.0	43.3	57.3	63.4	42.0	52.5	35.0						
	市町村 平均正答率	68.9	72.3	56.1	48.4	75.5	57.5	60.5	42.1	35.3	52.1	59.0	62.4	41.7	41.4	42.3	55.4	59.5	41.4	40.4	43.2	62.5	67.5	50.1	61.3	42.6						
	全国 平均正答率	69.5	73.0	56.3	48.0	77.0	58.6	61.5	43.6	37.3	53.2	58.1	61.5	40.4	40.3	40.8	53.9	58.1	39.8	39.1	41.0	59.7	65.0	46.3	59.0	37.8						
	評価	≡	≡	≡	≡	△	≡	≡	≡	≡	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	≡	△	△	△						

【目標値とは、問題作成時に十分に学力が備わっている状況として設定され、統計的に処理されている期待値】

### 【小学校の結果】

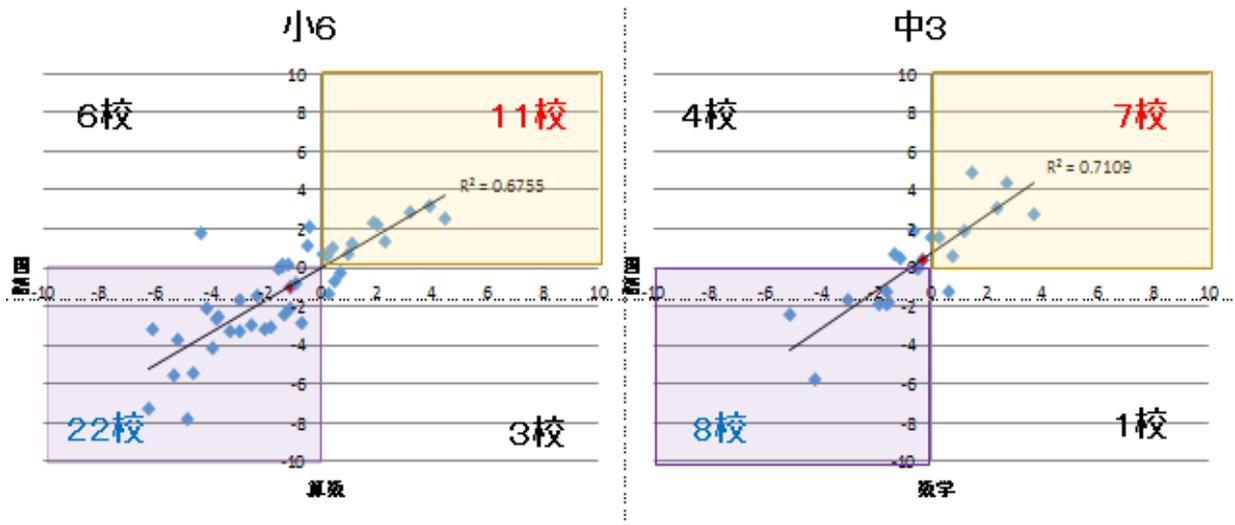
学年別に見ると、全学年が全国とほぼ同程度で、良好な状況である。特に小学4年生に日ごろの指導の成果が表れている。小学6年生は全教科(4教科)において、若干ですが標準スコア(全国値の正答率を50としたときの換算値)が平均以下となっているため、改善を図る必要がある。教科別に見ても、全教科が全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

### 【中学校の結果】

学年別に見ると、全学年が全国とほぼ同程度で、良好な状況である。特に、中学1年生に日ごろの指導の成果が表れている。教科別に見ても、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。特に、6年連続して英語では良い結果が見られる。

ただし、学校ごとに差が大きい状況にある。下図は、小学校6年と中学校3年の結果について、縦軸を算数・数学、横軸を国語として、標準スコアとの差を表したものである。中心が、全国標準となり、右上に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを上回っている、良好な結果となる。反対に、左下に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを下回っている、課題がある結果となる。小学校6年、中学校3年共にばらつきがあり、特に小学校は、その差が大きい。従って、各学校に送付されている結果について、校内で詳細に分析することが重要である。また、分析結果について、中学校区の学校と共有し、中学校区として子供をどう育てるか協議し、授業改善につなげることを期待する。

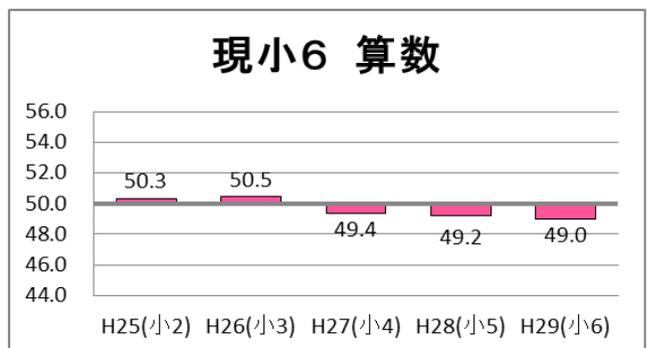
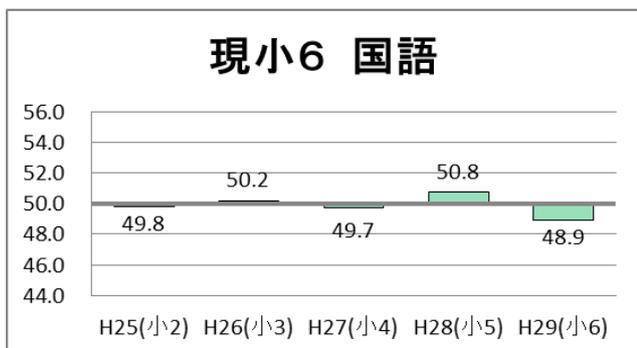
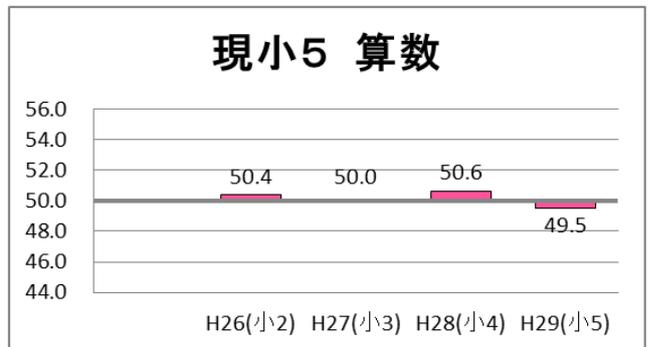
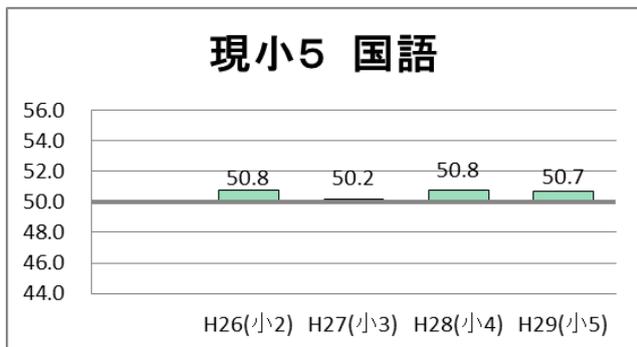
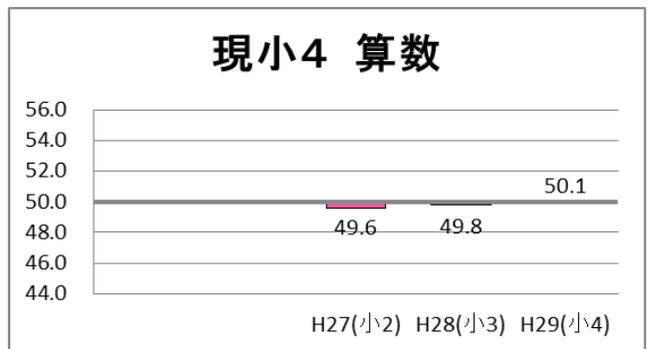
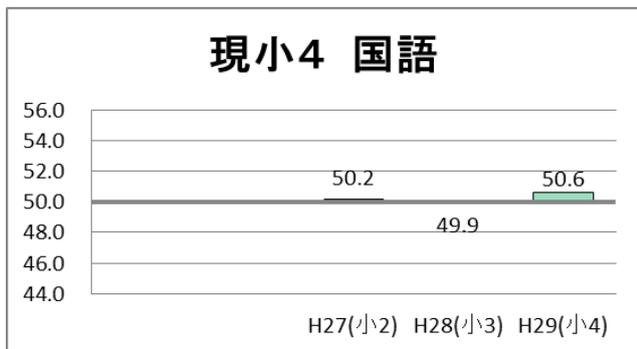
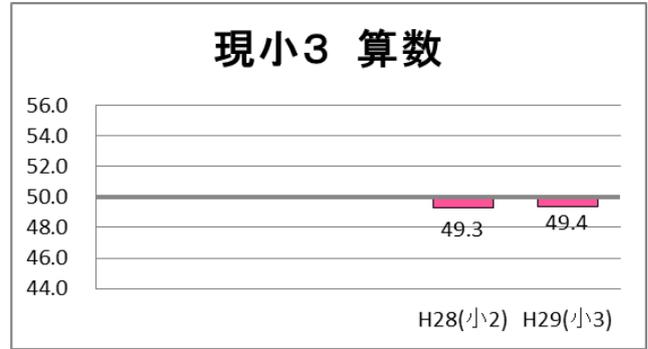
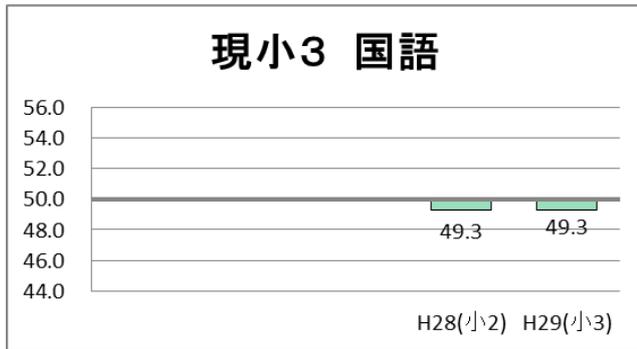
標準スコアとの差による学校の分布(国語-算数/数学)

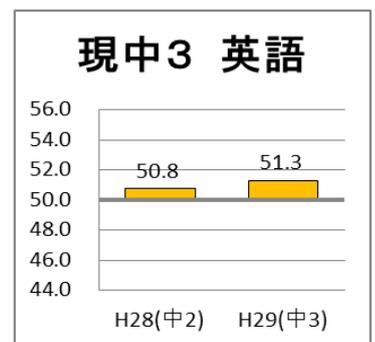
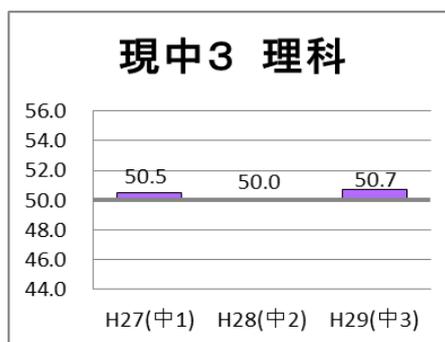
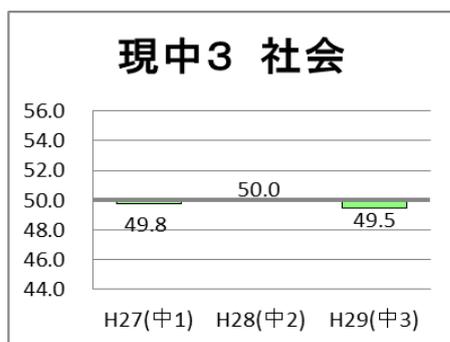
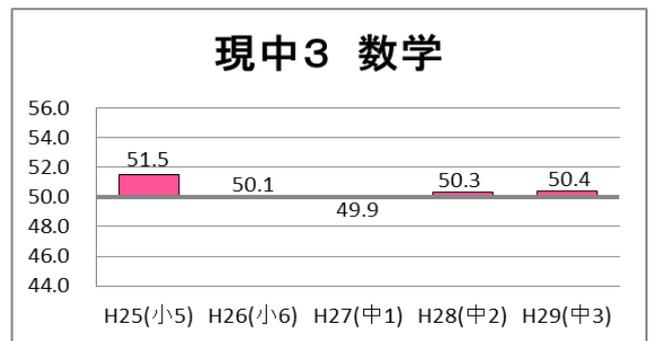
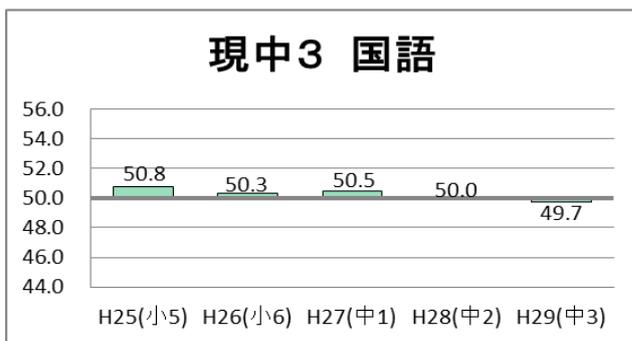
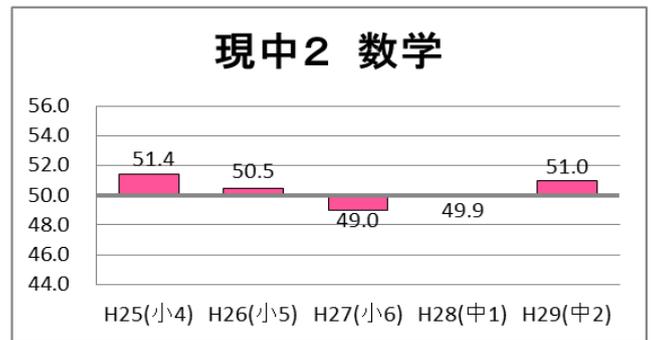
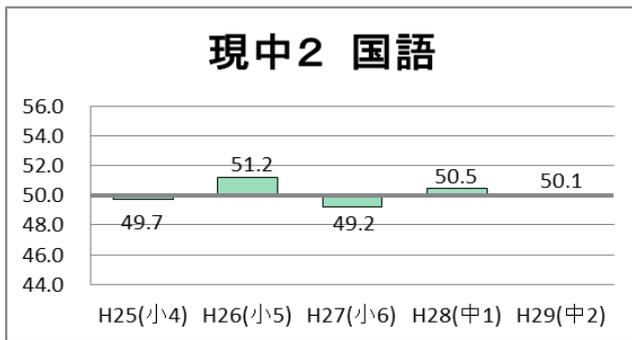
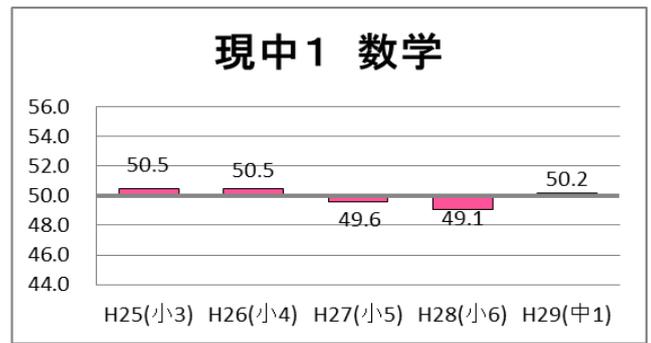
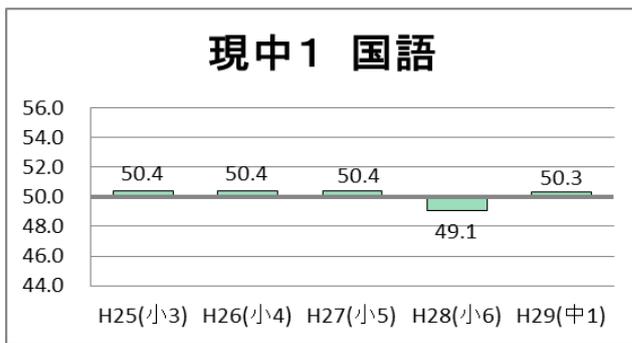


## 過去5年間の学力状況の推移一覧

過去5年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。

【中央の線が標準スコアとなり、良い場合は上向き、劣る場合は下向きに表示】





今年度より、算数・数学において各校で正答率が低かった問題を分析し、学年や学級ごとに『課題のある問題』として全校に配付した。子どもがつまずきやすい単元や内容を明確にすることで、日々の授業を改善し、個別の支援に役立てることをねらいとしているので、ぜひ役立ててほしい。

また、柏市の同一集団の児童生徒の状況を全国（標準スコア）と比較すると、経年により力が落ちていく集団が見られる。この危機感を柏市全教職員で共有し、児童生徒が意欲を持って学べるよう、授業改善を強く押し進める必要がある。

## 学ぶ意欲と学ぶ習慣を可視化するための「4つのC」について

柏市教育委員会では、児童生徒の学力向上において、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけることが最重要課題であるとしている。

なぜ、意欲と習慣に焦点を当てているのか。

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、知識基盤社会と言われ、“正解と言われる解”の無い課題に対して、他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、第四の産業革命と言われるロボットの台頭により無くなるだろうと言われ、数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就くだろうとも言われている。

このような近未来社会へ向けて「学力」を育む時、「学力」を「学んだ結果」として捉えるのではなく、「学ぶ力」として捉えることが、21世紀を生き抜く為の「学力」の実態に即していると考えられる。そして、この学ぶ力の根底となるものが学ぶ意欲と学ぶ習慣である。

ここに示す4つの力「見通す力（Concept）」「挑戦する力（Challenge）」「関わり合う力（Communication）」「自律する力（Control）」は、変化の激しい時代を生き抜く柏市の児童生徒に身に付けて欲しい力である。即ち「4つのC」＝学ぶ力であり、それは困難に直面したとき乗り越える為に学ぼうとする力であり、生涯学び続ける力である。我々は、日々の学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む教育活動の中で児童生徒の学ぶ力が培われていくものと考えている。

本年度学習状況調査では、児童生徒一人一人の「4つのC」の定着状況を数値化できるよう、全学年共通で40の質問項目を設定した。この数値が62校共通の指標となり、児童生徒の学ぶ力が全校で共有化され、授業改善を図る為の指標となることを目指すものである。

### 学ぶ意欲と学ぶ習慣を支える4つの力（4つのC）はこう決まった

平成25年度第2回調査結果から、学校が好き、国語や算数が好きと回答する児童生徒の方が正答率が高く、学ぶ意欲と正答率の相関関係が認められた。さらに、好きと回答する割合は、小学校高学年から急激に低下し、その低下と正答率の低下にも相関が認められ、学ぶ意欲を持続することが課題であると認識された。

さらに、学ぶ習慣の指標とされる家庭学習時間30分以内と回答する児童生徒が、小学校4年生で50%存在するが、中学校3年でも40.6%存在するという事実を把握し、学ぶ習慣を身につけることの重要性も認識された。

平成26年度第3回調査結果を元に、児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況について分析を行った。分析の結果から、中学校区単位で取り組んだり、学校全体の授業改善を通して取り組んだり、組織的に授業における指導改善を行った学校で、一定の効果が見られることがわかった。

このことから、意欲と習慣に関する指標を明確に設定し、校内や中学校区において共通目標を持って取り組めるようにすることが重要であることがわかった。そこで、これからの子供たちに必要な力を、学校管理職・学校教職員・市役所事務系職員・指導主事・管理主事等総勢50名近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードが、「見通す力」「挑戦する力」「関わり合う力」「自律する力」の4つの力である。

当初、「挑戦する力」と「関わり合う力」の2つを意欲、「見通す力」と「自律する力」の2つを習慣とする考えもあったが、4つの力それぞれに、意欲的に取り組むことと、習慣化することの両面があるとの結論に至り、4つの力ごとに「意欲」に関する質問項目と「習慣」に関する質問項目を5項目ずつ設定して、計40項目を評価指標とした。

## 4つの力（4つのC）質問項目一覧

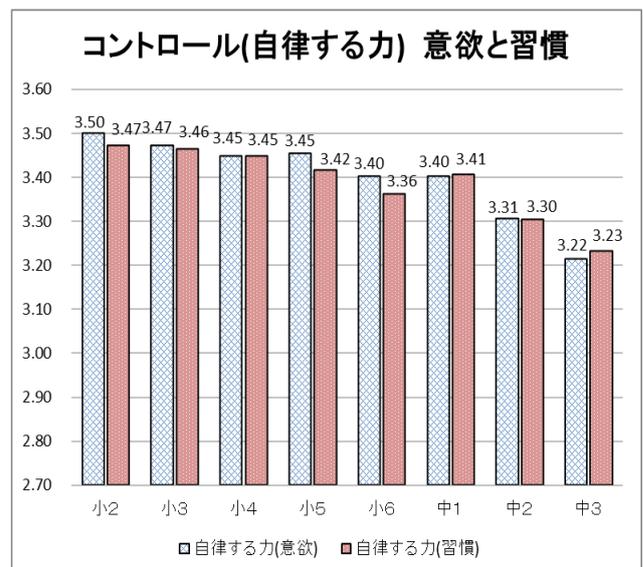
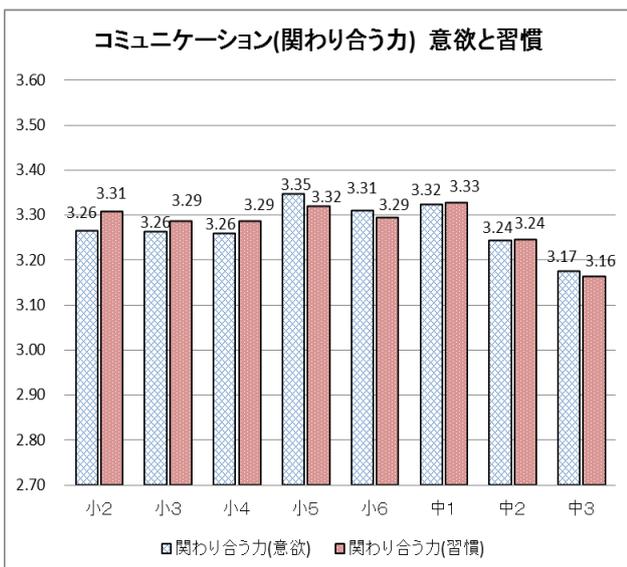
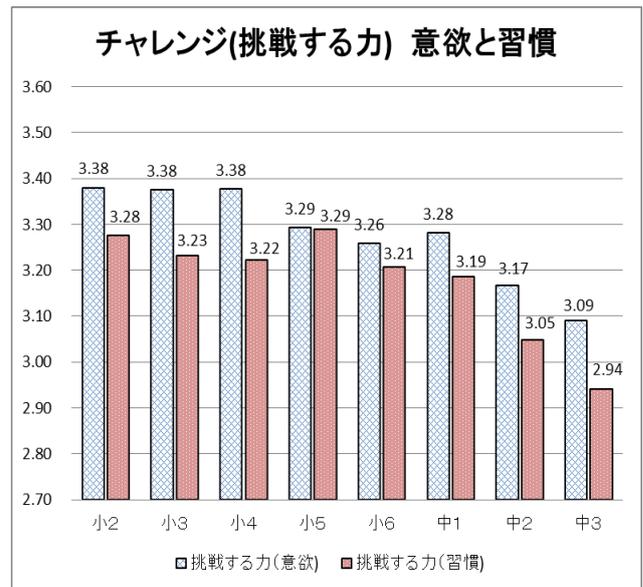
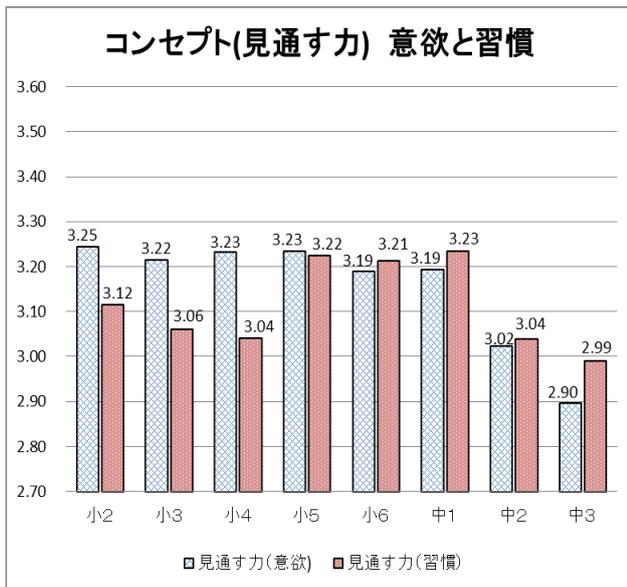
4つのC		見出し	番号	小学校2～4年生用	小学5年生～中学校1年生用	中学校2・3年生用	
コ ン セ プ ト	意 欲	夢・目標	1	しょうらいのゆめはありますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	
		計画	4	きまった時間にしゅくだいをして していますか。	ものごとに取り組む時、計画を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取 り組んでいますか。	
		計画の見 直し	5	やろうとしたことがうまくいかなかったと き、べつのやりかたをかながえますか。	ものごとが計画的に進まない時、計 画の見直しをしていますか。	物事が計画的に進まない時、計画の 見直しをしていますか。	
		地域社会 への関心	28	テレビのニュースを見ています か。	地域・社会で起こっているできごとやニ ュースに関心がありますか。	地域・社会で起こっているできごと やニュースに関心がありますか。	
		地域社会 への貢献	27	学校でべんきょうしたことを、だれかのため にやくだてたいとおもいますか。	学校で学んだことを、地域や社会のため に役立てたいと思いますか。	学校で学んだことを、地域や社会の ために役立てたいと思いますか。	
	見 通 す 力	習 慣	学習のめ あて	6	めあてをかながえながらべんき ょうをしていますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。
			予想	7	もんだいをとくときに、よそを たてていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。
			本・I C T活用	8	本でしらべることがすぎですか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。
			学習方法 （関わり）	15	わからないことがあったとき、人に聞いたり じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。
			学習の振 り返り	20	じゅぎょうのおわりに、まとめや ふりかえりをしていますか。	ものごとに取り組んだ時、まとめや 振り返りをしていますか。	物事に取り組んだ時、まとめや振り 返しをしていますか。
チャ レ ン ジ	意 欲	学習の目 標	3	ことしのもくひょうはあります か。	ものごとに取り組む時、目標を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、目標を立てて取 り組んでいますか。	
		発見する 喜び	25	べんきょうをして、あたらしいこ とを知ることはうれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはうれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはうれしいですか。	
		困難さへ の挑戦	36	むずかしいことでもちようせん していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	
		粘り強さ	37	こまったときに、あきらめずにいろ いろなやり方をかながえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろ いろな方法を考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにい ろいろな方法を考えていますか。	
		承認経験	41	友だちからほめられてうれしか ったことはありますか。	友だちから認められてうれしかっ たことはありますか。	友だちから認められてうれしかっ たことはありますか。	
挑 戦 す る 力	習 慣	夢・目標 への努力	2	そのゆめにむかってがんばって いますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	
		ノートの 工夫	16	ていねいにノートを書いていま すか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	
		間違いの 見直し	22	テストでまちがえた問だけは、あ とでやりなおしていますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	
		学びの活 用	26	学校でべんきょうしたことを、いえでの生活 に生かそうとしていますか。	学校で学んだことを、普段の生活に 生かそうと考えていますか。	学校で学んだことを、普段の生活に 生かそうと考えていますか。	
		読書習慣	23	すすんで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	

コミュニケーション 関わり 合う 力	意欲	地域行事への参加	29	ちいきのぎょうじ（おまつりなど）やボランティアかつどうにさんかしていますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。
		思いやり（意欲）	38	人の気もちがわかる人になりたいと思いますか。	人の気持ちができる人間になりたいと思いますか。	人の気持ちができる人間になりたいと思いますか。
		傾聴（意欲）	17	話し合いをする時、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。
		あいさつ	30	じぶんから先にあいさつしていますか。	自分から先にあいさつしているところがありますか。	自分から先にあいさつしているところがありますか。
		積極的な発言	18	話し合いをする時、じぶんの思ったことやかんがえたことをすすんで話していますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。
	習慣	家庭での会話	31	いえの人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。
		傾聴（習慣）	44	先生や友だちのはなしをよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。
		思いやり（習慣）	45	学校で、友だちの気もちを考えてこうしていますか。	普段の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。
		仲間づくり	46	友だちになりたいとおもった時、じぶんから声をかけていますか。	友だちになりたいと思った時、自分から声をかけていますか。	友達になりたいと思った時、自分から声をかけていますか。
		意思表示	49	先生や友だちにいいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。
コントロール 自律する 力	意欲	貢献意欲	39	しょうらい人のやくに立つ人になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
		自己肯定感	40	じぶんによいところがあるとおもいますか。	自分に良いところがあると思いますか。	自分に良いところがあると思いますか。
		授業への集中	19	じゅぎょうにしゅう中していますか。	集中して授業に取り組んでいますか。	集中して授業に取り組んでいますか。
		がんばっていること	51	学校生活でがんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。
		運動への意欲	52	体をうごかすこと（うんどう・スポーツ・外あそびなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。
	習慣	規範意識	42	学校のきまりをまもっていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。
		家庭学習	21	しゅくだいをきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。
		素直さ	50	じぶんがわるかったとおもうときは、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。
		運動習慣	53	体いくのじゅぎょういがいに、すすんで体をうごかしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。
		規則正しい生活	54	まい日おなじくらのじかんにねて、あさはじぶんでおきていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。

## 4つの力(4つのC)の状況について

柏市全体では、4つの力の総合平均点が、平成27年度3.19、平成28年度3.24、平成29年度3.26と向上し続けている。増加率はわずかであるが、すべての設問で増加していることは、各学校の取り組みの成果である。ただし、学校間における差がみられるので、学校ごとに状況を詳しく分析する必要がある。

同一集団における変容を見ると、昨年度の中学2年生は、40項目のうち、0.1ポイント以上減少してしまった項目が25項目あった。今年度の中学校2年生は15項目であることから、各中学校において、中1ギャップへの対応を含め、学ぶ意欲を高めるための授業改善や教育課程の工夫が行われたものだと考える。中1ギャップへの対応を含め、改善の手立てが有効に機能したものについては、共有化を図っていきたい。



平成 29 年度 生活・学習意識調査 結果一覧表(平成 28 年度と比較して)

		4 C 総 平均	意 欲	習 慣	見通す力		挑戦する力		関わり合う力		自律する力	
					意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣
H28	小2	3.35	3.37	3.32	3.26	3.16	3.41	3.29	3.29	3.34	3.52	3.50
	小3	3.29	3.32	3.26	3.21	3.06	3.36	3.25	3.26	3.27	3.46	3.45
	小4	3.30	3.34	3.26	3.24	3.05	3.38	3.25	3.28	3.29	3.46	3.45
	小5	3.30	3.31	3.29	3.20	3.21	3.27	3.26	3.32	3.30	3.44	3.41
	小6	3.25	3.26	3.24	3.15	3.18	3.24	3.17	3.28	3.27	3.38	3.33
	小学計	3.30	3.32	3.27	3.21	3.13	3.33	3.24	3.29	3.29	3.45	3.43
	中1	3.26	3.26	3.26	3.15	3.18	3.23	3.15	3.29	3.32	3.37	3.37
	中2	3.12	3.12	3.11	2.94	2.97	3.12	3.01	3.19	3.21	3.24	3.26
	中3	3.01	3.02	3.00	2.81	2.87	3.01	2.89	3.09	3.09	3.15	3.14
	中学計	3.13	3.13	3.12	2.97	3.01	3.12	3.02	3.19	3.20	3.25	3.26
	小中計	3.24	3.25	3.22	3.13	3.09	3.26	3.16	3.25	3.26	3.38	3.37
H29	小2	3.32	3.35	3.29	3.25	3.12	3.38	3.28	3.26	3.31	3.50	3.47
	小3	3.30	3.33	3.26	3.22	3.06	3.38	3.23	3.26	3.29	3.47	3.46
	小4	3.29	3.33	3.25	3.23	3.04	3.38	3.22	3.26	3.29	3.45	3.45
	小5	3.32	3.33	3.31	3.23	3.22	3.29	3.29	3.35	3.32	3.45	3.42
	小6	3.28	3.29	3.27	3.19	3.21	3.26	3.21	3.31	3.29	3.40	3.36
	小学計	3.30	3.33	3.28	3.22	3.13	3.34	3.25	3.29	3.30	3.46	3.43
	中1	3.29	3.30	3.29	3.19	3.23	3.28	3.19	3.32	3.33	3.40	3.41
	中2	3.17	3.18	3.16	3.02	3.04	3.17	3.05	3.24	3.24	3.31	3.30
	中3	3.09	3.09	3.08	2.90	2.99	3.09	2.94	3.17	3.16	3.22	3.23
	中学計	3.19	3.19	3.18	3.04	3.09	3.18	3.06	3.25	3.25	3.31	3.32
	小中計	3.26	3.28	3.24	3.16	3.12	3.28	3.18	3.27	3.28	3.40	3.39

#### 4つの力（4つのC）を活用する授業改善について

##### （1）効果的な実践を共有する

「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を可視化する「4つのC」の改善に取り組むことは、結果として子供たちに学ぶ力を育成することとなり、柏市が目指す学力の育成に繋がると考えている。

4つのCに関する質問は、小学校2年生から中学校3年生まで共通内容で実施した。（文言は年齢相応に変更）これは、課題を共有化し、効果のある実践を共有化することにつながるように意図して行っていることである。各学校・各学級の課題解決に向けた取り組みが、オール柏の実践に反映していけることを理想に掲げ、お互いの実践交流が頻繁に行われることを期待している。

##### （2）指標を生かした授業改善マネジメントを進める

課題とは、目指す姿と現状との差のことを指す。

自校の課題を明確にするために、4つのCの指標を活用し、目指す子供の姿と現状を把握した上で取り組めるよう、次のような手立てを講じるよう努めたい。

###### ① 子供たちの今の姿（現状）を共有する

学習状況調査の4つのCのデータから、課題は何か、自校の強みと弱み等を分析し全職員（事務やサポート・図書館・理科等の人材も含むと良い）で共有化を図る。

###### ② 目指す子供の姿の共有化

課題（現状と目指す姿との差）が明確になったら、全職員によるワークショップ型研修により、自校の子供たちに付けたい力を出し合い、共通理解を深めながら最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）を1～3点程度に定め、全職員で共有する。

###### ③ 課題解決に向けた実践の手立てを共有する

最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）が定まったら、この力を育むために授業の中で何に留意し、どう取り組むか（教科・学年ごとに）の方針を立て実践する。また、学校生活や学校行事の中でどう取り組むかを共通理解する。これらの取組の中で効果的な手立てがあれば実践の共有化を図る。

④ 子供たちの姿を見取りながら実践を深める

柏市学力学習状況調査は年1回であるが、学ぶ意欲と習慣を育む為の日々の実践が重要である。課題に偏ることなく、指標となる項目をもとに、子供たちの意識の変化や指導の効果を検証し、子供たちの現状を見取りながら実践を進めることが大事である。授業改善が子供たちの学ぶ力の育成に繋がった時、成就感や達成感とともに、組織としての一体感を得ることができる。

(3) 家庭や地域との連携に生かす

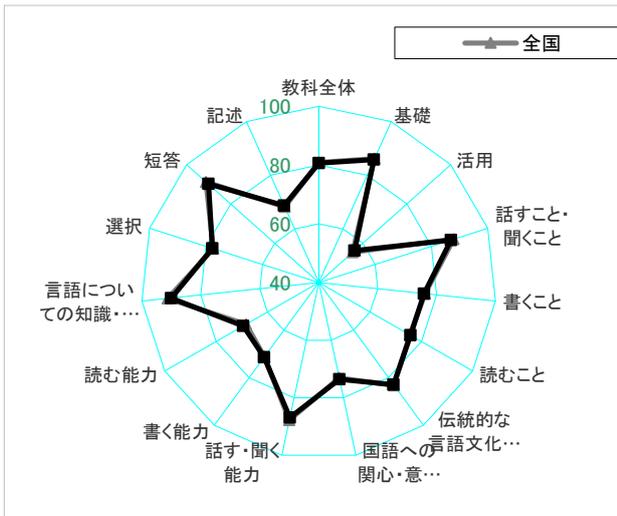
指標から自校の課題を明確にして、全職員で共通実践を行うと同時に、家庭や地域の協力が必要な項目について1～2点程度選び、家庭や地域に具体的に協力を依頼することも大事である。教育ミニ集会等のテーマとして、全職員で行ったようなワークショップを実施して、参加者みんな決めて、参加者みんなで活動することにより、マネジメントサイクルを生かした取組が実施できる。

(4) 強みを生かし、重点的に取り組む

学校教育目標に照らし、4つのCに現れる子供たちの実態の中から、強み（得点が高いもの）を生かしながら、弱みを引き上げる工夫を図り、課題となっているもの全てに取り組むといった、総花的な取組みにならないよう留意したい。

# 小学 2年 国語

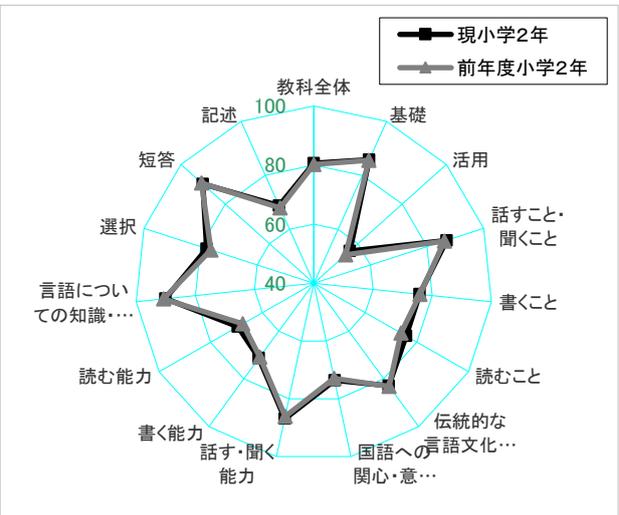
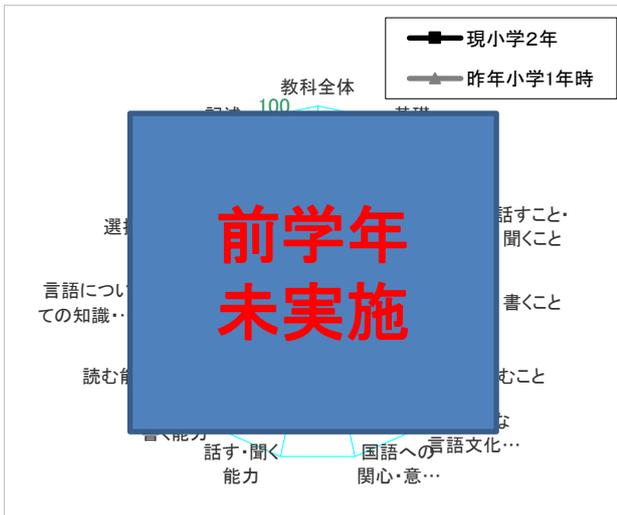
## 1. 全体傾向



**コメント**

- ・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。
- <問題別>
- ・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、90%前後で高いが、全国と比較すると下回っている。
- ・「与えられた情報を読み取って、例にならって文を書く」の平均正答率は、全国と比較すると上回っている。また、前年度と比較しても上回った。しかし、正答率は低く、半数の児童が正答できない状況で課題がみられる。約2割の児童が無回答である。
- ・「話題に沿って質問する」の平均正答率は、全国と比較すると下回っている。

## 2. 経年変化



**コメント**

**コメント**

- ・平均正答率は前年度との2年生と同程度である。
- <問題別>
- ・「場面の様子を読みとる」の平均正答率は、前年度と比較すると上回った。

## 3. 強みと弱み

○出題の23問中19問が、平均正答率70%を上回っており、学習内容についてはおおむね身につけている。特に「漢字を読む・書く」「大事なことを落とさないで聞き取る」は、約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。

- 課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。
- ・「話すこと・聞くこと」では、話すことと聞くことを一体化した指導をしていく。話し手だけでなく聞き手への指導にも重点をおき、話し手の思いや願いに共感しながら聞き、感想を伝える活動を充実させる。
- ・「書くこと」では、表記面での条件(使用する言葉、文字数、文末表現等)を提示して、それらに応じながら記述させる指導も取り入れていく。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

2年 気持ちをこめて言いましょう 『うれしくなる言葉』

— 並行読書で語彙を増やそう —

(2) つけたい力

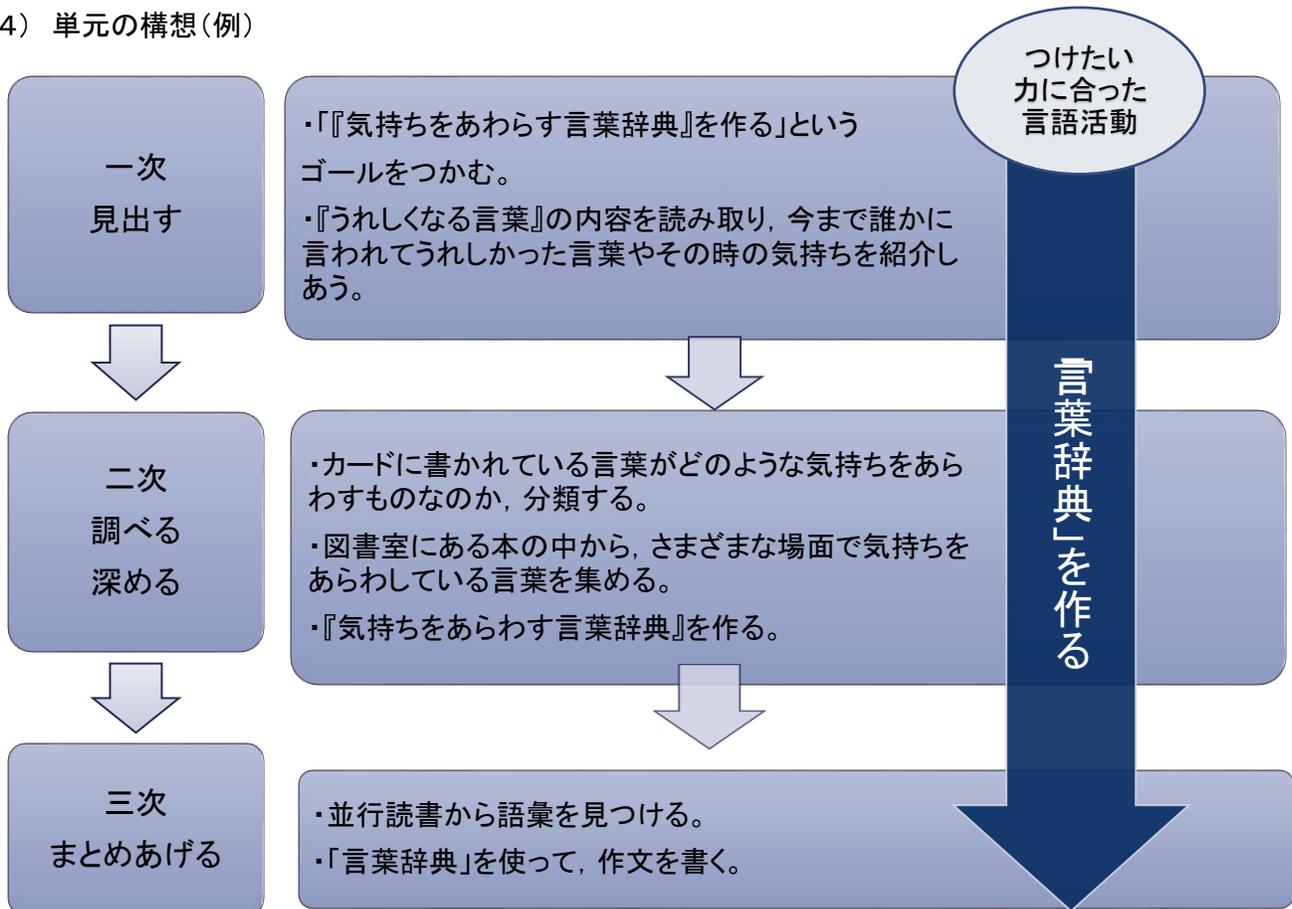
さまざまな場面や目的に応じた言葉を見つけることで, 語彙力を増やす。

(〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕—イ)

(3) つけたい力に合った言語活動

「言葉辞典」を作る

(4) 単元の構想(例)

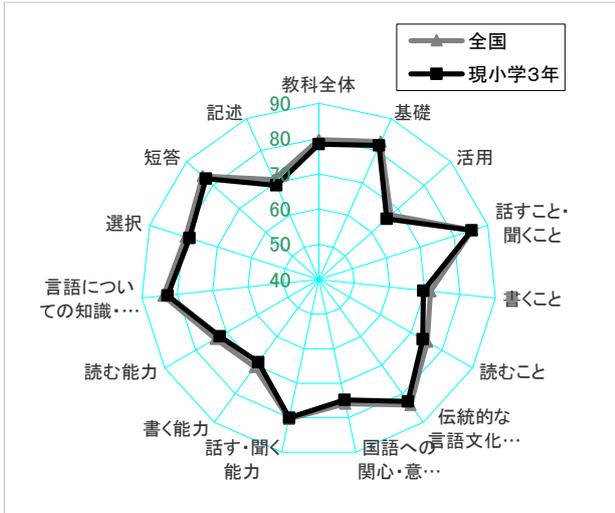


指導のポイント!

低学年の児童は, 目的に応じたものを集める活動(「〇〇集め」)が大好きです。言葉を集める学習は, 国語の基礎となる力を身に付けることにつながります。完成した「言葉辞典」を教室や図書室に展示するだけでなく, 作文等を書くときにも活用させましょう。また, 言葉集めに必要な本を探すときは, 学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

# 小学 3年 国語

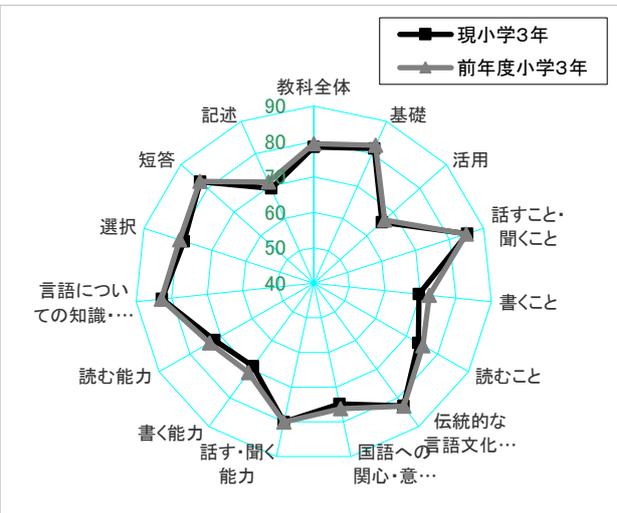
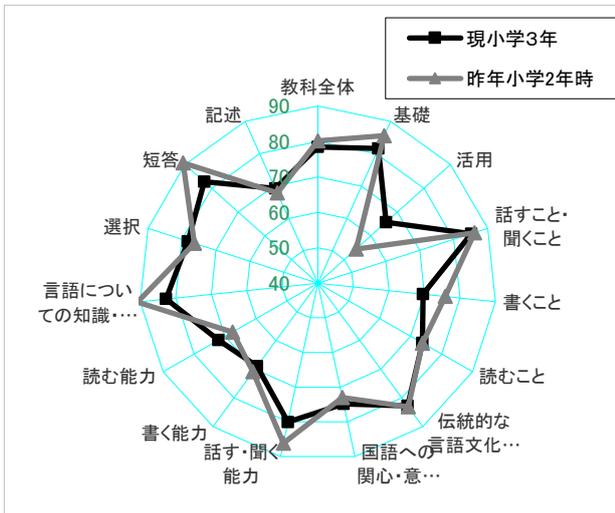
## 1. 全体傾向



### コメント

・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「漢字を読む」の平均正答率は、どの問題も80%上回っており良好である。「漢字を書く」の平均正答率は、全国と比較すると下回っており課題がみられる。  
 ・「場面の様子を読み取る」の平均正答率は、全国と比較しても、前年度と比較しても下回っている。  
 ・「大事な言葉を読み取って丁寧な言葉で書く」の平均正答率は低く、半数の児童が正答できない状況である。

## 2. 経年変化



### コメント

・現小学3年生は、全国平均との標準スコアで2年生時と比較するとほぼ同等である。  
 ・活用問題が約11ポイント上回った。

### コメント

・平均正答率は前年度との3年生と同程度である。  
 <問題別>  
 ・「書くこと」の平均正答率は、前年度と比較すると3問とも下回った。

## 3. 強みと弱み

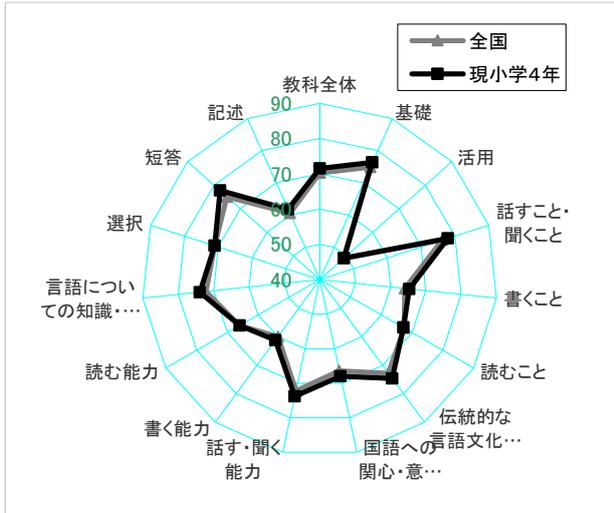
○出題の25問中19問が、平均正答率70%を上回っており、学習内容についてはおおむね身につけている。特に「漢字を読む」「大事なことを落とさないで聞き取る」は、約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「読むこと」では、挿絵と文章を照らし合わせながら想像豊かに読んだり、人形劇や紙芝居など簡単な劇を演じたりして、文学作品に浸ることのできる学習を取り入れていく。
- ・「書くこと」では、自由記述だけでなく、表記面での条件(使用する言葉、文字数、文末表現等)を提示して、それらに応じながら記述させる指導も取り入れていく。

# 小学 4年 国語

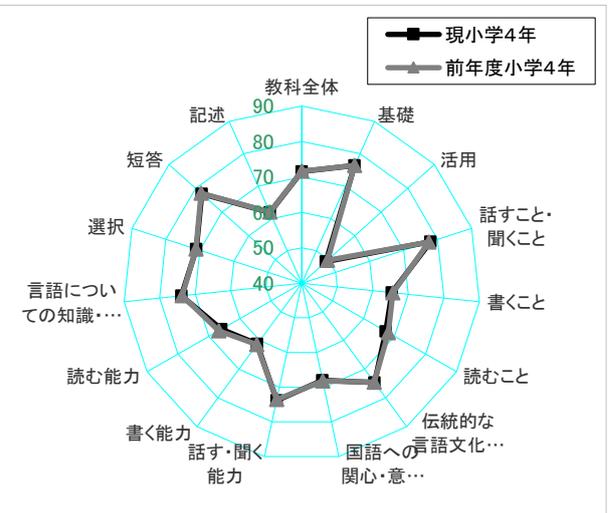
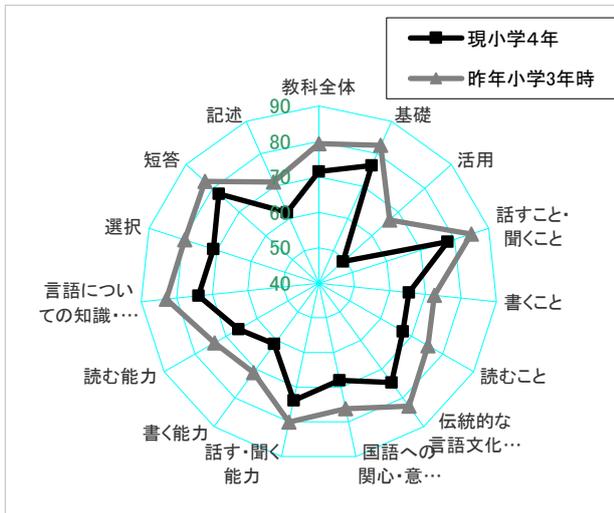
## 1. 全体傾向



### コメント

・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、全国を上回るものが多く、良好である。  
 ・「ローマ字を書く」の平均正答率は、全国と比較しても、約7ポイント上回っている。しかし、約半数の児童が読んだり書いたりできない。  
 ・「表と文を関連づけて考える」は、約4割の児童しか正答できない状況である。  
 ・「互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合う」は、約半数の児童が聞き取りを基に、話題にそった内容を書くことができなかった。

## 2. 経年変化



### コメント

・現小学4年生は、全国平均との標準スコアで3年生時と比較するとほぼ同等である。  
 ・平均正答率では、すべてが下回ったが、特に活用問題が約17ポイント下回った。

### コメント

・平均正答率は前年度との4年生と同程度である。  
 <問題別>  
 ・「述語について理解」の平均正答率は、前年度と比較すると4ポイント上回った。

## 3. 強みと弱み

○出題の28問中14問が、平均正答率70%を上回っている。特に「話の中心に気をつけて聞く」は、約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

・「書くこと」では、自分の考えを説得力をもって伝えるために、図、表、グラフなどの根拠となる資料を用いて、説明する文章を書く活動を取り入れる。

・「話すこと聞くこと」では、小グループでの話し合いの際に、司会や提案者など、児童一人一人にそれぞれの役割を果たす経験をさせていく。特に、司会の経験をどの子にもさせ、グループ内の発言を整理したりまとめたりできる力を高めていく。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

4年 興味を持ったことをしようかいしよう 『ウミガメの命をつなぐ』  
 —— ウミガメの不思議を伝えよう ——

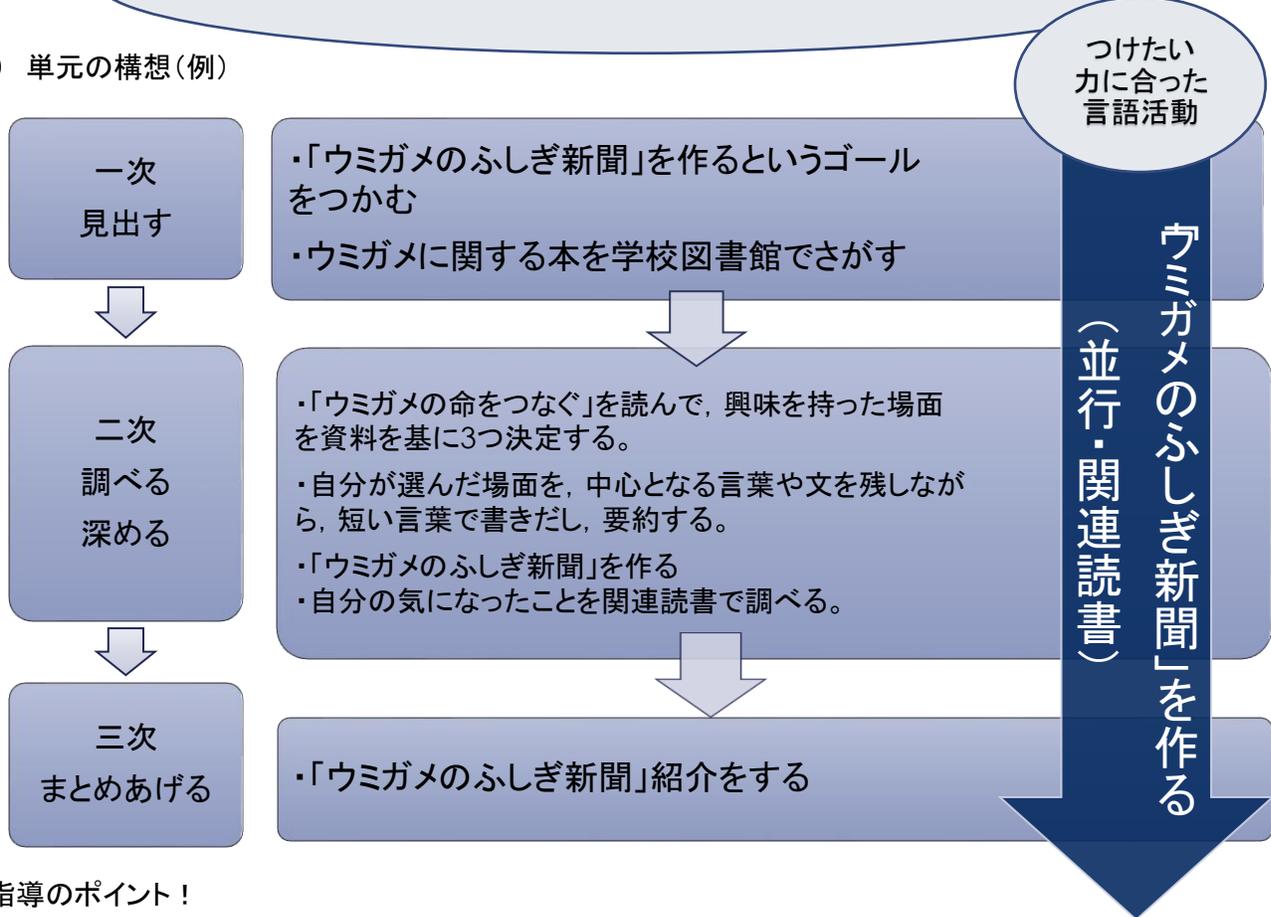
(2) つけたい力

目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。(C 読むことーエ)

(3) つけたい力に合った言語活動

「ウミガメのふしぎ新聞」を作る(並行・関連読書)

(4) 単元の構想(例)

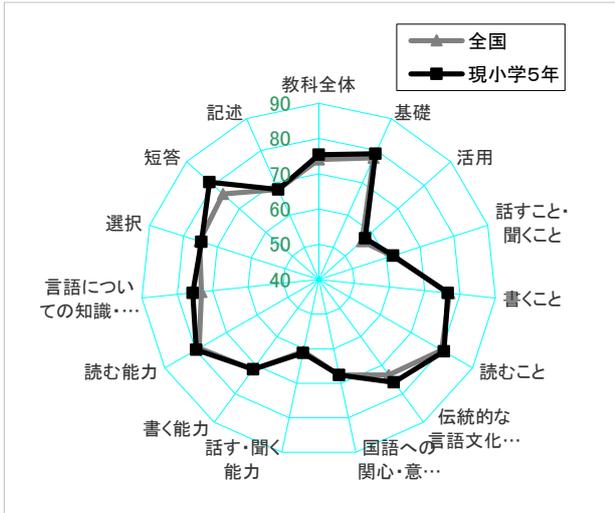


指導のポイント！

自分が興味を持ったところを3つだけ選んで新聞にまとめるという目的を子どもにもたせて、説明文を読ませます。強みである「読むこと」をさらに強める学習です。文章や資料をもとに、必要な情報を選び、事実をきちんと書くことで、見出しや要約する力をつけていきます。この学習は、5年『世界遺産 白神山地からの提言』や6年『森林のはたらきと健康』など、説明文の読解へとつながっていきます。自分の興味を持ったことをさらに調べていけるように、関連した本をすぐに手に取ることができる環境を用意しておくといでしょう。

# 小学 5年 国語

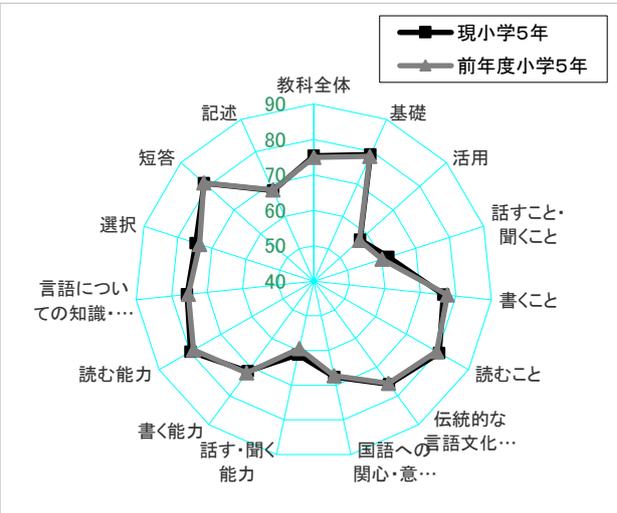
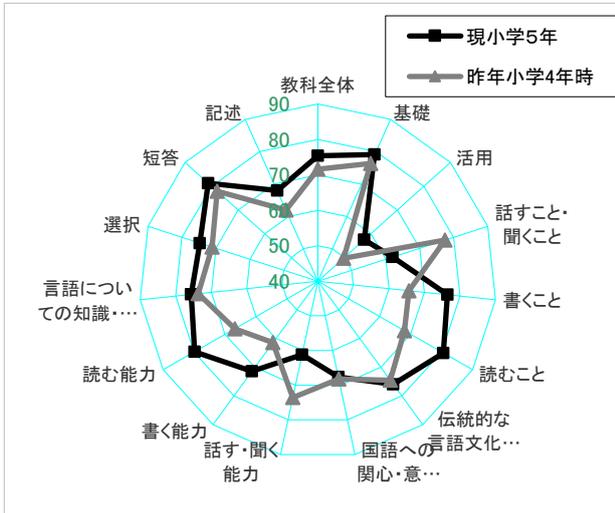
## 1. 全体傾向



### コメント

・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、どの問題も全国を上回っており良好である。  
 ・「主語・述語の理解」の平均正答率は、全国と比較しても、約8～12ポイント下回っており課題である。  
 ・「資料と話し合いを関連づけて考える」は、約半数の児童が正答できない状況である。  
 ・「話し手の意図を考えながら、メモをとる」は、約3割児童しか、聞き取ったメモを基に、話の内容を書くことができなかった。

## 2. 経年変化



### コメント

・現小学5年生は、全国平均との標準スコアで4年生時と比較するとほぼ同等である。  
 ・平均正答率では、「書く・読む能力」が約10ポイント上回ったが、「話す・聞く能力」が約12ポイント下回った。

### コメント

・平均正答率は前年度との5年生と同程度である。  
 <問題別>  
 ・「修飾語について理解」の平均正答率は、全国比較・前年度比較ともに、約4ポイント上回った。  
 ・「意見と理由を区別して書く」では、前年度と比較して6ポイント下回った。

## 3. 強みと弱み

○出題の29問中19問が、平均正答率70%を上回っている。特に「漢字を読む・書く」は、平均正答率が全国を上回っており、強みといえる。

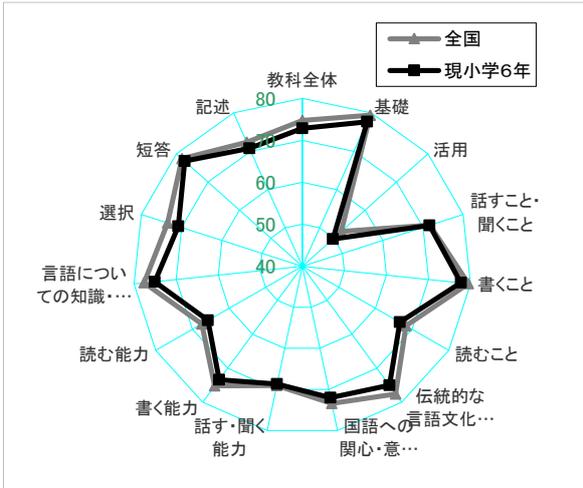
●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

・「書くこと」では、自分の考えを説得力をもって伝えるために、図、表、グラフなどの根拠となる資料を用いて、説明する文章を書く活動を取り入れる。

・「話すこと聞くこと」では、インタビュー活動を通して、「話し手の意図を捉えながら聞き、話し手の発言を受けて質問する力を高めていく。そのために、事前に想定問答メモを書き、インタビューしたいことを整理させたり、インタビューモデルで事前に練習させたりする活動を取り入れる。

# 小学 6年 国語

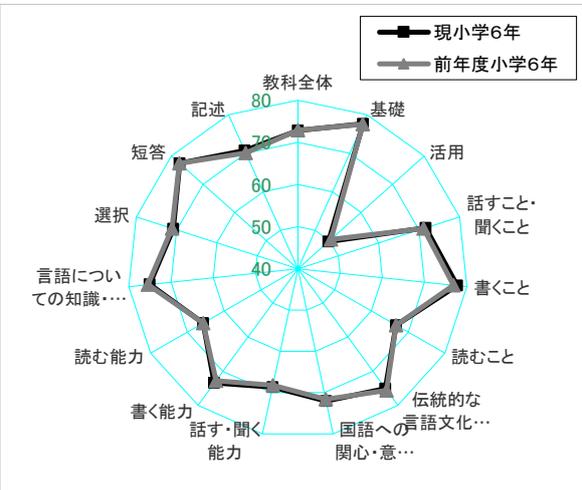
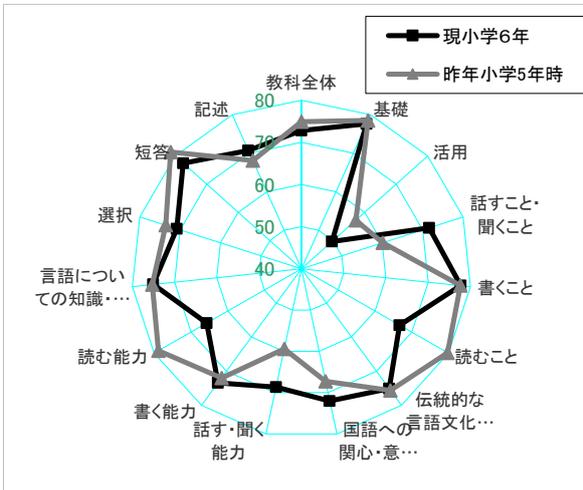
## 1. 全体傾向



### コメント

・平均正答率は全国と比較してやや下回っている。  
 <問題別>  
 ・「主語・述語の理解」の平均正答率は、全国と比較して、約7～13ポイント下回っており課題である。  
 ・「説明文の読み取り」の平均正答率は、全国と比較して、最高約7ポイント下回っており課題がある。  
 ・「話し合いをもとに活動報告を書き直す」は、約半数の児童が正答できない状況である。  
 ・「自分の立場や意図をはっきりさせて、話し合う」は、約3割児童しか、話し合いの内容を基に、司会のよりよい進め方を考えることができなかった。

## 2. 経年変化



### コメント

・現小学6年生は、全国平均との標準スコアで5年生時と比較すると約2ポイント下回った。  
 ・平均正答率では、「読む能力」が約13ポイント下回った。

### コメント

・平均正答率は前年度との6年生と同程度である。

## 3. 強みと弱み

○出題の29問中16問が、平均正答率が70%を上回っている。特に「自分の意見をその理由を区別して書く(作文)」は、平均正答率が90%を超えており、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「書くこと」の指導では、導入時に「取材→構成→記述→推敲→交流」の学習プロセスや書く目的や意図を明確にする。特に、文章を読んでもらう相手を意識させ、読み手に応じた推敲の観点を話し合う等、推敲の必要性を児童が実感できる指導をする。
- ・「話すこと聞くこと」では、話し合いの際に、司会や提案者など、児童一人一人にそれぞれの役割を果たす経験をさせていく。特に、司会の経験をどの子にもさせ、時間内に計画的に話し合いが進むよう、グループ内の発言を整理したりまとめたりできる力を高めていく。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

6年『森林のはたらきと健康』 谷田貝 光克

—— 力強いすいせん文を書くために, 説明の仕方を学ぼう ——

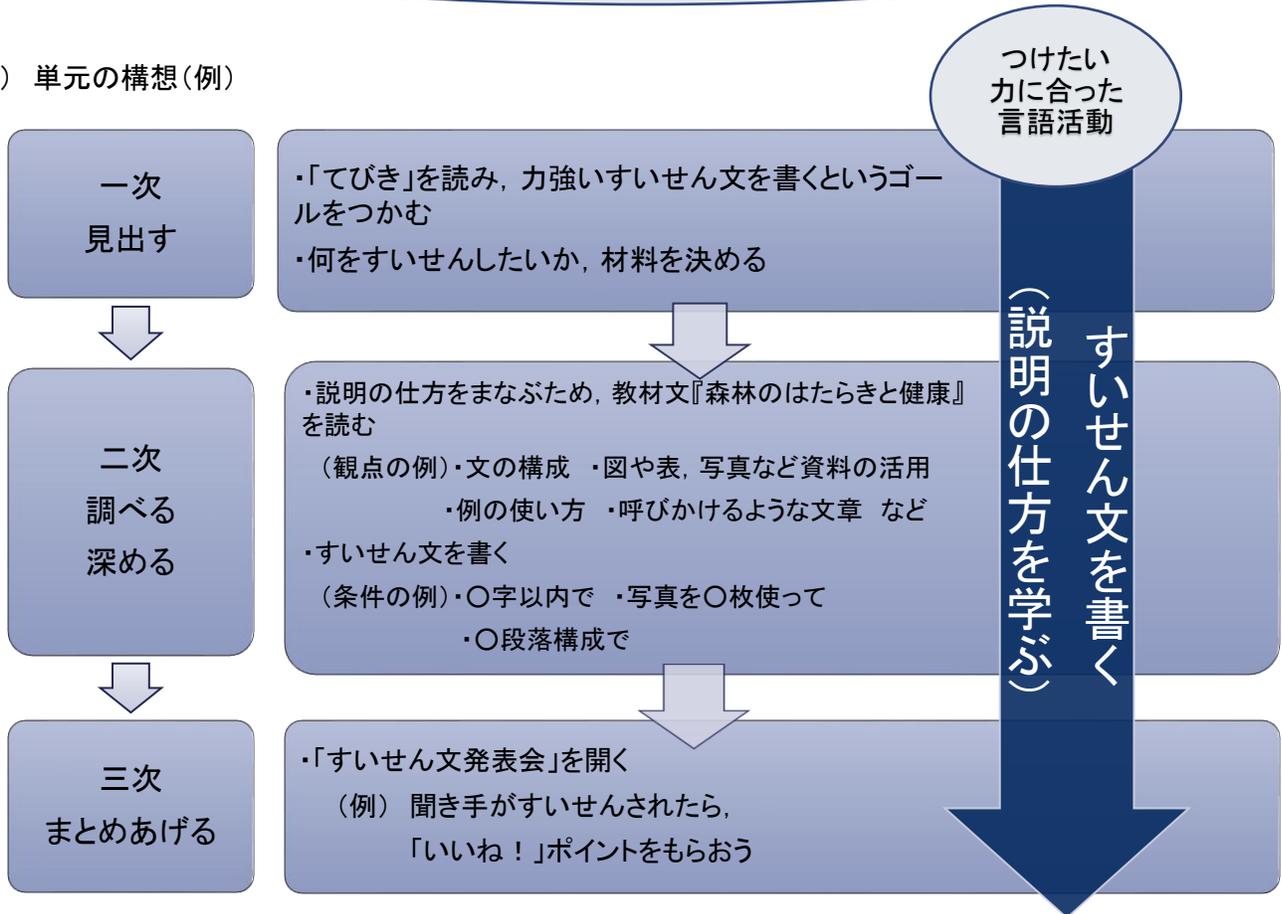
(2) つけたい力

- ・自分の考えを明確に表現するため, 文章全体の構成の効果を考えること。(B 書くことーイ)
- ・引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書くこと。(B 書くことーエ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

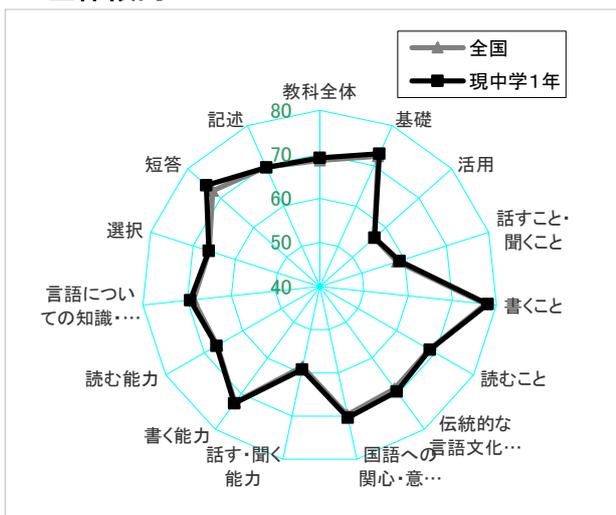


指導のポイント！

教科書に載っている説明文は, 児童にとっては難しかったり, 関心が持てない内容だったり…。指導が難しいと感じていませんか。そして, いつも「内容を理解する」授業ばかりしていませんか。この指導例は, 「内容を理解する」ために読むのではなく, 「すいせん文の型を知る」ために読む例です。つまり, 型や書きぶりを読むのです。「何の力をつけるためにこれを読むのか」, 先生も子どもも, 目的をしっかり持って教材文を使いましょう。

# 中学 1年 国語

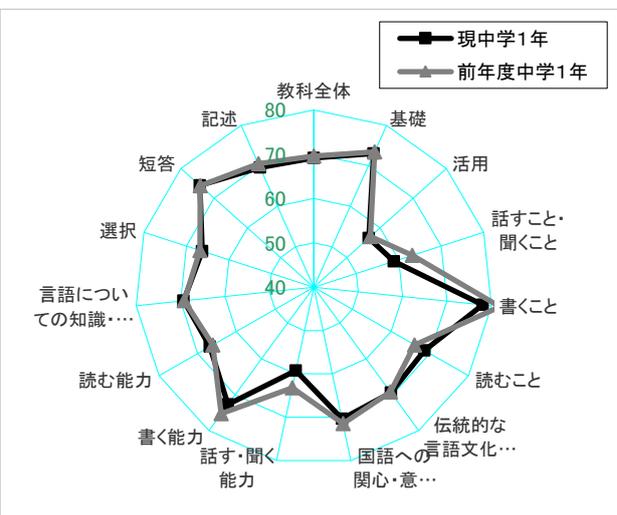
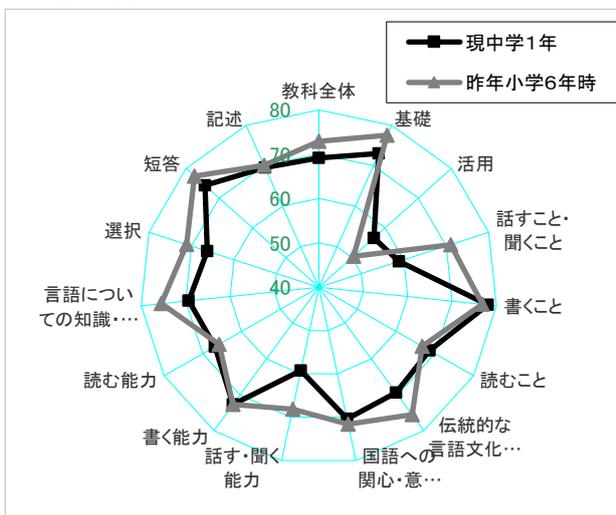
## 1. 全体傾向



### コメント

・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「漢字を読む」の平均正答率は、ほとんどの問題が90%以上であり、良好である。  
 ・「話の内容を正確に聞き取る」の平均正答率は、全国と比較して約8ポイント高い。  
 ・「修飾語の理解」の平均正答率は、全国と比較して、約4ポイント下回る。約2割の生徒しか正答できない状況であり課題である。  
 ・「話の内容を活用する」は、約3割の生徒しか、聞き取ったことを基に、文章を書きなおすことができなかった。また、「話し合いの様子とメモを比較して不足する情報を指摘する」は、約半数の生徒しか、正答できていない課題である。

## 2. 経年変化



### コメント

・現中学1年生は、全国平均との標準スコアで6年生時と比較するとほぼ同等である。  
 ・平均正答率では、「話す・聞く能力」が約9ポイント下回った。

### コメント

・平均正答率は前年度との中学1年生と同程度であるが、「話す・聞く能力」が約4ポイント下回った。

## 3. 強みと弱み

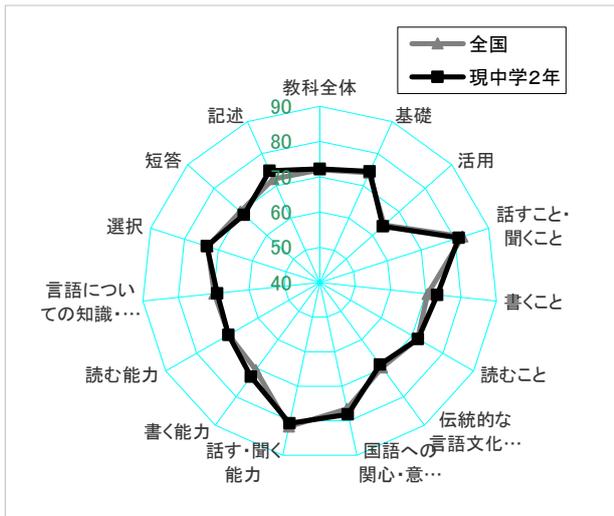
○出題の30問中15問が、平均正答率70%を上回っている。「話を正確に聞く」は、平均正答率が全国を上回っており、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

・「話すこと聞くこと」では、話を正確に聞き取ったり、聞き取ったことを基に意見や考えをまとめたりする力を育てるために、目的や段階に応じてメモの取り方を指導する。

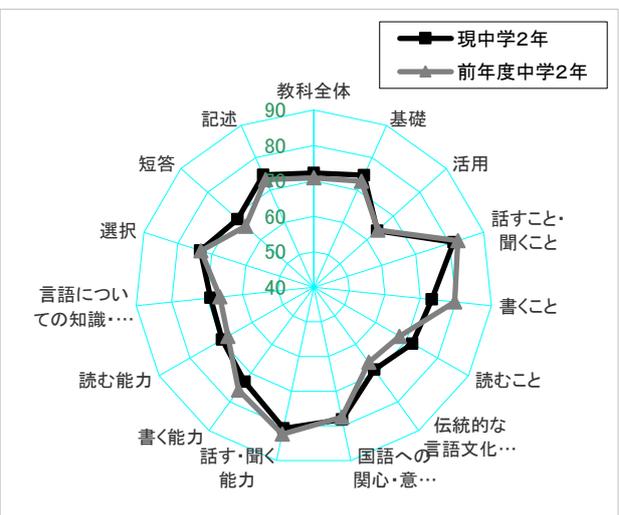
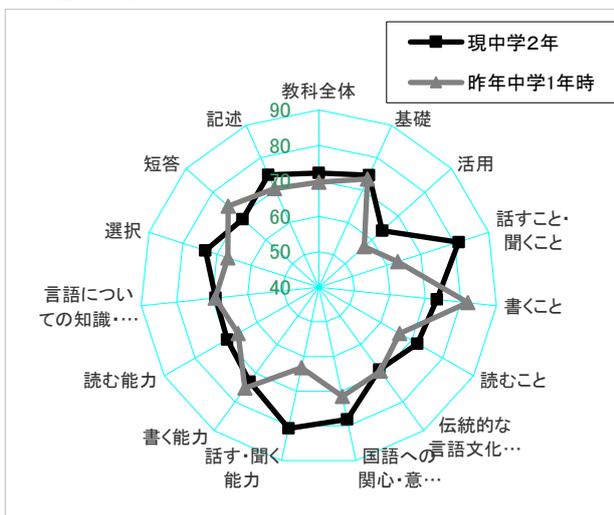
# 中学 2年 国語

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「作文」の平均正答率は、5問中どの問題も約3～7ポイント全国を上回っており良好である。  
 ・「漢字を書く」では、平均正答率が全国を約7ポイント下回っている問題もあった。  
 ・「伝えたい事柄を明確にして書く」は、約4割の生徒しか文章から読み取った事柄を、3W1Hで明確に書くことができなかった。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ・現中学2年生は、全国平均との標準スコアで昨年中学1年時と比較するとほぼ同等である。  
 ・平均正答率では、「話す・聞く能力」が約17ポイント上回った。

**コメント**  
 ・平均正答率は前年度との中学2年生と同程度であるが、「書く能力」が約3ポイント下回った。  
 <問題別>  
 ・「自分の立場を明確にしその理由を書く」の平均正答率は、前年度と比較して約7ポイント上回った。

## 3. 強みと弱み

○出題の32問中17問が、平均正答率70%を上回っている。「作文」の平均正答率は、5問中どの問題も約3～7ポイント全国を上回っており強みといえる。

- 課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。
  - ・「書くこと」では、身の周りにある新聞やちらし等から表現の工夫やその効果をグループで話し合い、その効果を理解した上で自分の文章に活かす活動を取り入れる。また、自由記述だけでなく、表記面での条件(使用する言葉、文字数、文末表現等)を提示して、それらに応じながら記述させる指導も取り入れていく。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

中2 『夏の葬列』 山川方夫

—— ジグソー学習で読み深めよう ——

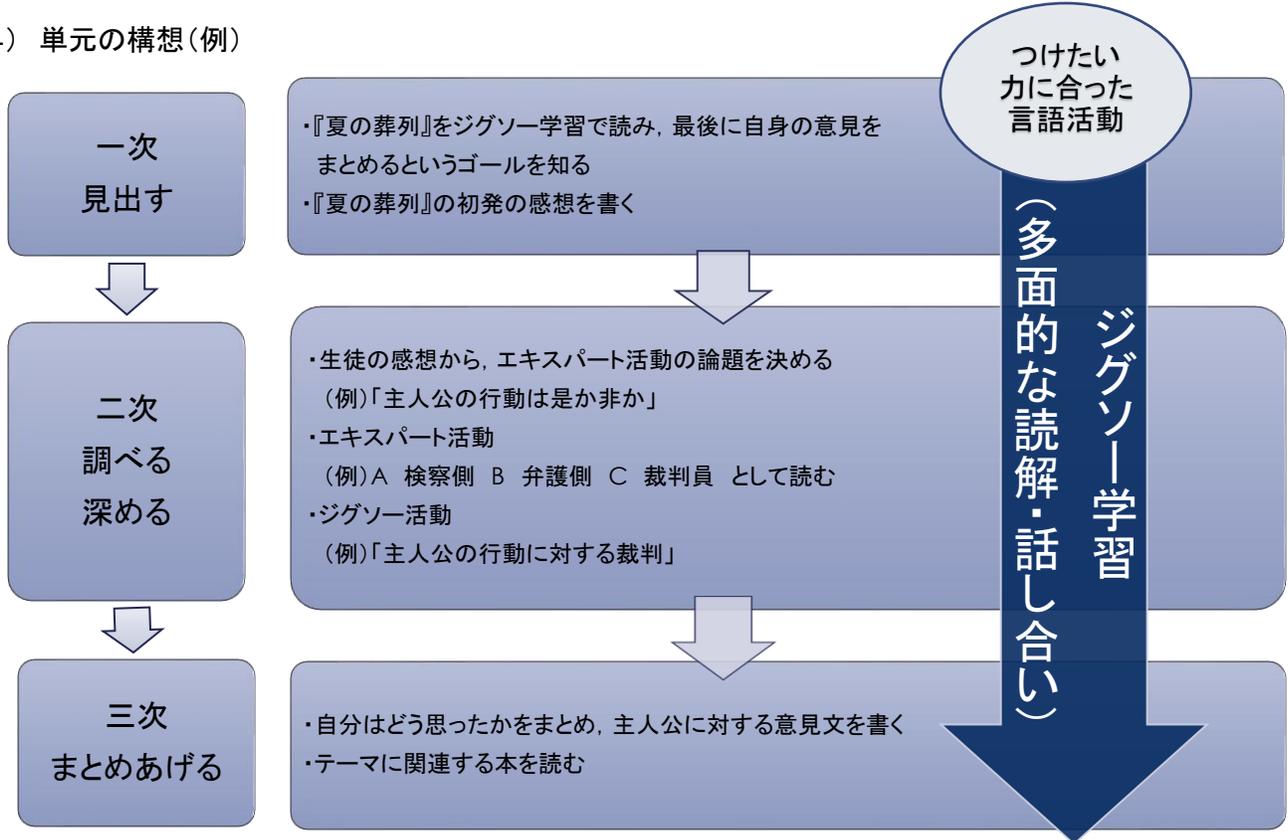
(2) つけたい力

- ・文章の論理の展開の仕方, 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ, 内容の理解に役立てること(C 読むことーイ)
- ・社会生活の中から話題を決め, 自分の経験や知識を整理して考えをまとめ, 語句や文を効果的に使い, 資料などを活用して説得力のある話をする(A 話すこと・聞くことーア)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)



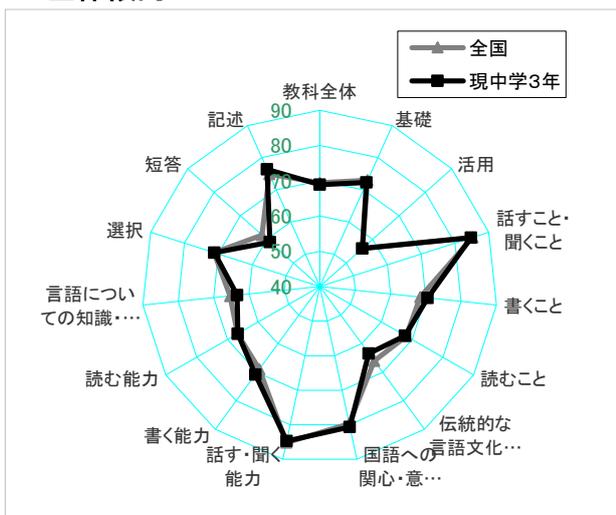
指導のポイント!

ジグソー学習は, 今求められている「アクティブラーニング」の一例として多く取り組まれています。エキスパート活動で役割を与えられることで, 先生の講義を受ける「受動的な学習」ではなく, 生徒の「能動的, 主体的な学び」となります。同時に戦争に関する関連読書をしたり, 最後に意見文をまとめるというゴールを示したりすることで, より「深い学び」となるでしょう。

★この指導例は, 村松恵治先生(平成28年: 田中中学校)にアイデアをいただきました。

# 中学 3年 国語

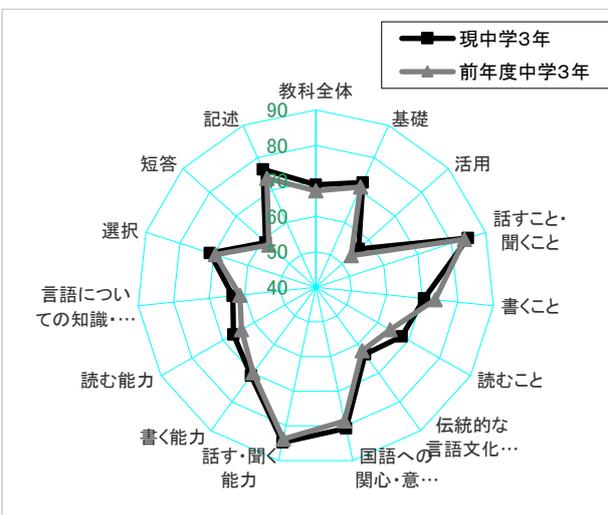
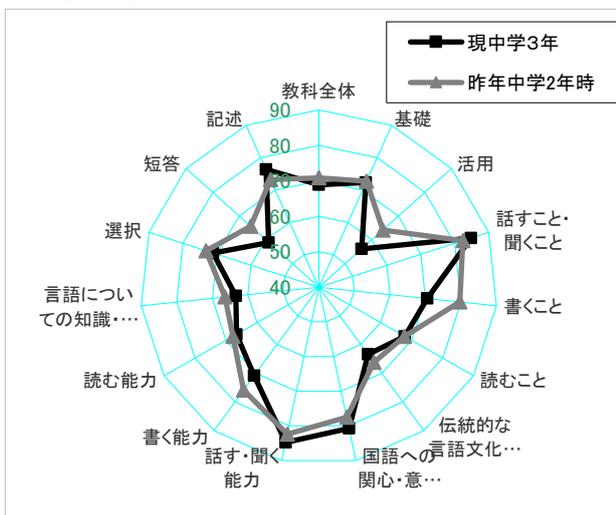
## 1. 全体傾向



### コメント

・平均正答率は全国と同程度でおおむね良好である。  
 <問題別>  
 ・「作文」の平均正答率は、5問中どの問題も全国を上回っており良好である。  
 ・「漢字を書く」では、平均正答率が全国を約15ポイントも下回っている問題もあった。  
 ・「同音異義語の理解」は、昨年度より約6ポイント上回ったが、まだ約3割の生徒しか正答できなかった。  
 ・「文章の内容をとらえて、具体的な事例に当てはめる」は、約4割の生徒しか文章から読み取ったことを基に、他の事例に当てはめることができなかった。また、「文章の展開をとらえて、文章を最適な位置に挿入する」は約4割しか正答できず課題である。

## 2. 経年変化



### コメント

・現中学3年生は、全国平均との標準スコアで昨年度中学2年時と比較するとほぼ同等である。  
 ・平均正答率では、「書く能力」が約5ポイント下回った。

### コメント

・平均正答率は前年度との中学3年生と同程度である。  
 <問題別>  
 ・「メモをもとに手紙を書く」の平均正答率は、前年度と比較して、どの問題も約3～5ポイント上回った。

## 3. 強みと弱み

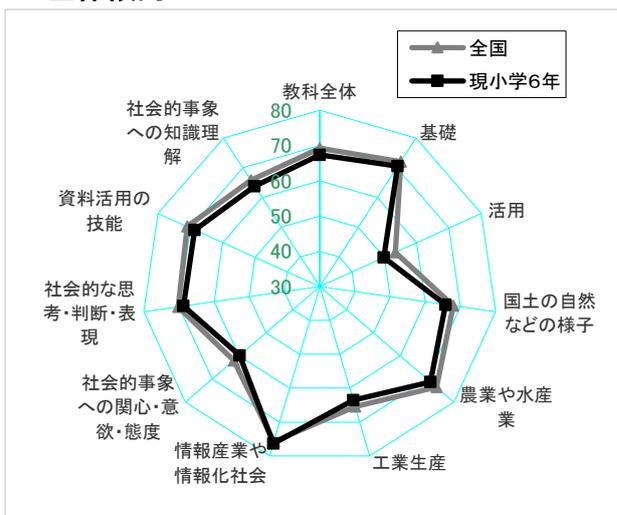
○出題の33問中20問が、平均正答率70%を上回っている。「作文」の平均正答率は、5問中どの問題も全国を上回っており強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「読むこと」では、「読むこと」と「書くこと」や「読むこと」と「話すこと・聞くこと」とを関連させる等、読む目的を持たせる単元構成の工夫を行う。
- ・「読むこと」では、内容理解だけでなく、文章の展開の仕方、例示や比喩表現の仕方等について評価し、自分の文章に活かす指導も行う。

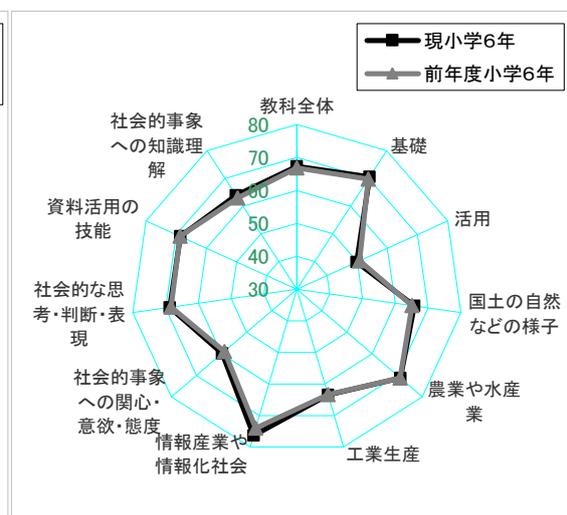
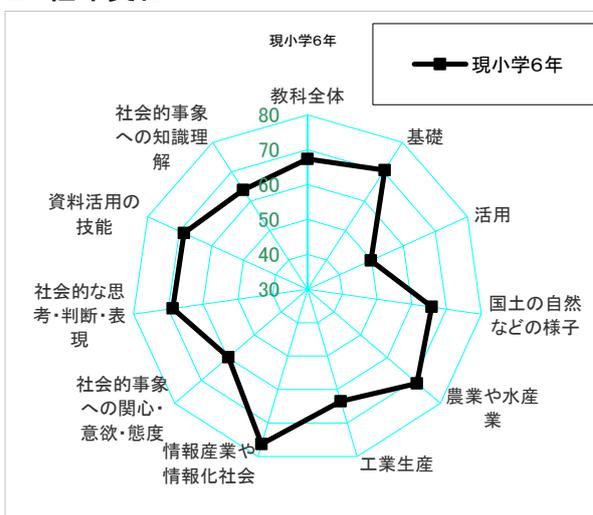
# 小学 6年 社会

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、目標値を上回っていたものの、全国平均正答率は基礎・活用ともに下回っていた。  
 ・観点別正答率について、「社会的な事象への知識・理解」が目標値を下回り、それ以外の観点は上回っていた。全国平均との比較においては、すべての観点で下回っていた。  
 ・領域別正答率について、「工業生産」が目標値を下回り、それ以外の領域は上回っていた。全国平均値との比較においては、「情報産業や情報化社会」は上回ったが、それ以外の領域は下回っていた。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 ※比較するデータが無いため、コメントはありません。

**コメント**  
 前年度に比べて「活用」以外は全て上回っている。特に、「情報産業や情報化社会」が前年度に比べて上昇している。

## 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

全国平均を下回っており、改善が必要な状況である。

- 食料自給率のグラフを読み取ること。
- 湖のよごれをおさえるための対策について、複数の資料の変化を読み取り、判断すること。
- 地産地消の取り組みについての知識・理解。
- 情報を利用する際の注意点について、自分の問題として判断することができる。
- 日本の貿易相手国について理解している。
- 年間を通した米づくりの様子について、農作業に使われる機械とともに把握している。
- 自動車の製作工程におけるプレスを理解している。
- 太平洋ベルトについてや、自動車の製作工程など工業生産について。
- 日本の食料輸入の問題点について考察することができる。

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例（小学校）

発問の工夫で，深い学びにつなげる

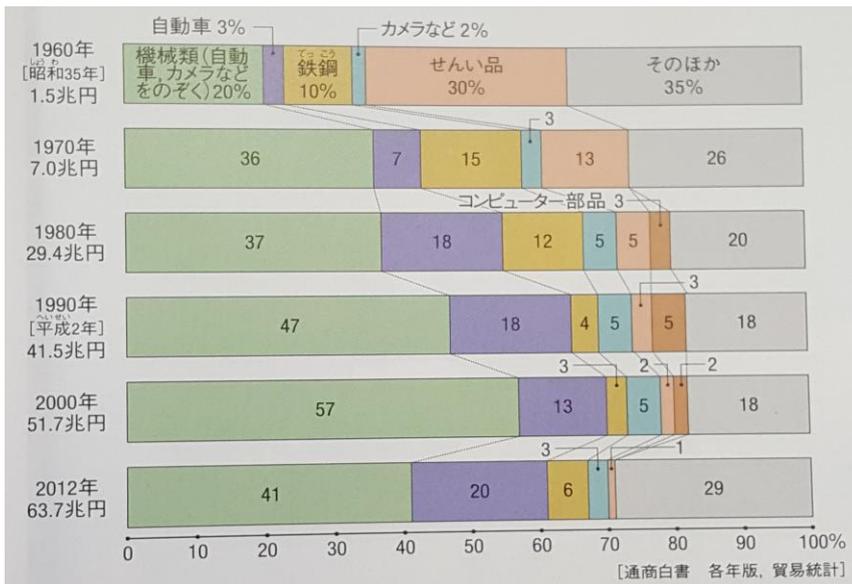
### ☆学習のねらいに迫る中心的な発問

- ① 「いつ」「どこ」「だれ」「いくつ」と問う
- ② 「どのように」（方法・過程・事実），「なぜ」（理由・根拠）と問う  
…まず「どのようにして」→「なぜ」
- ③ 「もし～だったら」と問う
- ④ 「～なのに，なぜ～か」と問う
- ⑤ 「何だと言えるか」と問う…複数の事例から共通する要素を考え，一般化できる定義を作る発問  
→社会的なものの見方や考え方を獲得
- ⑥ 「〇〇に賛成ですか。反対ですか」と問う
- ⑦ 「キーワードは何か」「どのように変えたか」と問う…その答え自体が時代観に結びつく
- ⑧ 「～のよさは何か」と問う…「価値を聞く」発問→出来事や物事の社会的意義を考える

（学）日本の輸入には，どのような特色があるのでしょうか。

（例）主な輸出品の取扱額の割合の変化

発問例②「どのようにして」→「なぜ」を用いて



☆日本からの輸出品は，  
どのように変化してきたのだろうか。

- (1) 1960年には30%だったせんい品が，1%に減っている。
- (2) 2000年まで増えていた機械類が2012年は16%減っている。
- (3) 自動車は1990年から2000年に減ったけど，2012年は増えている。

### ☆なぜ…

- (1) **なぜ**せんい品が減ったのだろうか。
- (2) **なぜ**機械類が16%減ったのだろうか。
- (3) 自動車は**なぜ**再び増えたのだろうか。

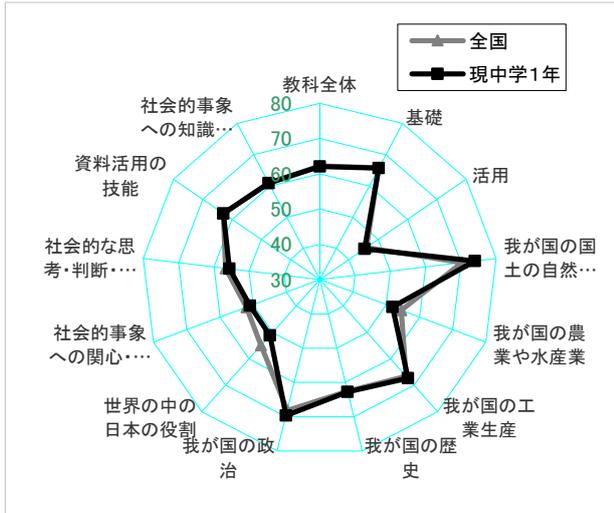
☆まとめのノートを深める発問…「指定語」を使ったまとめ+授業感想

- ① 「最初に課題についての結論を書きます。その後に『なぜなら』や『たとえば』を使って理由や例を書きなさい」
- ② 「『もし，～だったら』を途中で入れると，より自分の考えが伝わります」  
《引用・参考文献》

佐藤正寿 2011 スペシャリスト直伝!社会科授業成功の極意 明治図書出版

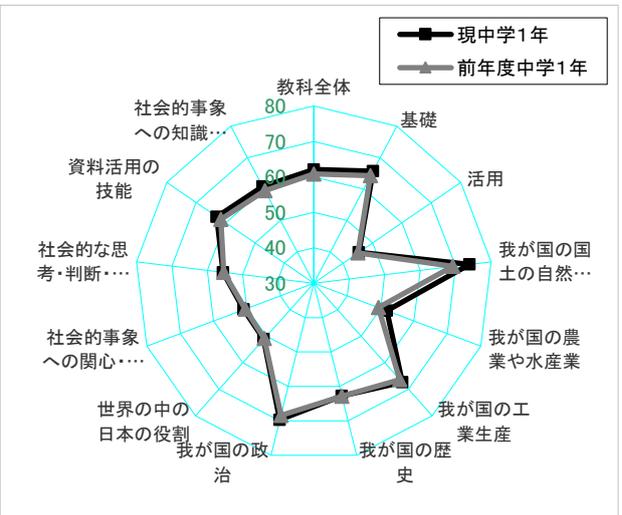
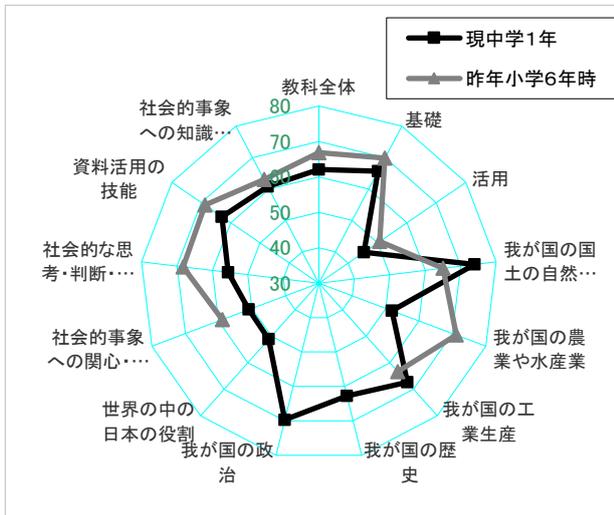
# 中学 1年 社会

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、目標値を上回っており、全国平均正答率と同程度であった。  
 ・「基礎」、「活用」とも全国平均正答率と同傾向であったが、「活用」については、目標値をやや下回った。  
 ・観点別正答率では、すべての観点で全国平均と同程度か上回っているが、「資料活用の技能」以外の観点で目標値を下回っている。  
 ・領域別正答率では「我が国の国土の自然などの様子」「我が国の歴史」が目標値、全国平均を上回った一方で、「我が国の農業や水産業」「世界の中の日本の役割」は全国平均を上回ったものの、

## 2. 経年変化



**コメント**  
 (昨年度に比べて受検者が287名減なので参考程度にとどめる) 全体的な傾向は変わらないが、各項目によって作られる領域が縮小している。「我が国の農業や水産業」は著しく正答率が下がっている。

**コメント**  
 昨年度の1年生と比較すると、「我が国の歴史」が同程度なのを除いて、すべての項目で前年度を上回っている。

## 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国とほぼ同程度で、良好な状況である。
- 資料から、わが国の工業の特色を読み取ることができる。
  - 自由民権運動の資料を読み取ることができる。
  - 日本国憲法の三大原則について、理解している。
  - 工業のさかんな地域である「太平洋ベルト」という言葉を理解している。
  - 国際連合について理解している。
  - 日本の食料生産について、生産者の工夫・自然環境とのかかわりなどの視点を示す資料を読み取り、自分なりに解釈することができる。
  - 平安時代の貴族の暮らしに関する資料を読み取り、習得した知識と結びつけることができる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

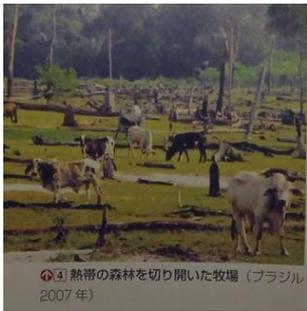
資料に基づき, 4つの立場で環境問題の是非について討論する。意見を伝え合う活動を通して, ブラジルが持続可能な社会となっていくために必要なことは何なのか考える。



④ 高床式の建物 (ブラジル 2009年) 伝統的な生活が行われています。

##### A 「アマゾン先住民」の主張

- ・文明的な生活をするつもりはない。
- ・私たちの住環境を奪う権利はあるのか。
- ・文明が入ってくると, 様々な病気に感染し命を落としてしまう。



④ 熱帯の森林を切り開いた牧場 (ブラジル 2007年)

##### B 「開発農家」 (ブラジル北部の現場労働者) の主張

- ・大豆やサトウキビの需要が高まっているので, 焼畑を行い農地をさらに拡大する必要がある。
- ・肉牛の生産に森林を伐採し, 牧場をさらに拡大しなければいけない。
- ・現金収入が増え, 生活が豊かになった。さらに開発し収入を増やしていきたい。



##### C 「開発事業者」 (ブラジル南部の都市部) の主張

- ・アマゾンの開発で, ブラジル北部の人たちの雇用が守られている。
- ・我々の開発事業で, 先進国への輸出が伸び, ブラジルは豊かになっている。
- ・アマゾンの先住民も給料をもらうために労働者にならないか。



##### D 「ブラジル政府」の主張

- ・穀物生産を拡大し, 効率よく輸出するために, 内陸の生産地と輸出港につなぐ国道を整備する必要がある。
- ・先進国に比べGDPはまだ低い。経済発展のためにも森林伐採は必要である。
- ・アマゾンの自然を守らないと, 地球温暖化をさらに進行させてしまう。

#### ○授業の流れ

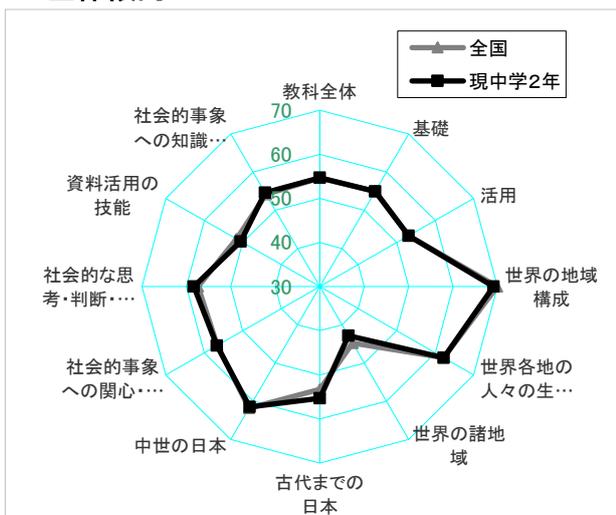
1. アマゾンの開発は, どのような影響をあたえ, どのような課題を生み出しているだろう。
2. 自分の意見をノートにまとめ, 同じグループで話し合おう。
3. グループでそれぞれの意見を発表しよう。

#### ○指導のポイント

本指導例は, アクティブラーニングの視点から, 対話的な学びの中で「多面的・総合的に考える力」, 「コミュニケーション能力」を育成することを意識したものである。世界には環境, 貧困, 人権, 平和, 開発といった様々な問題がある。これらの現代社会の課題を自らの問題として捉えるために, 4つの立場になって環境問題の是非について討論する。そこで, 立場の違う意見を傾聴させ, 課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことを目指したい。さらに身近な環境問題に目を向け, 具体的な行動につなげられるような態度を身に付けさせたい。

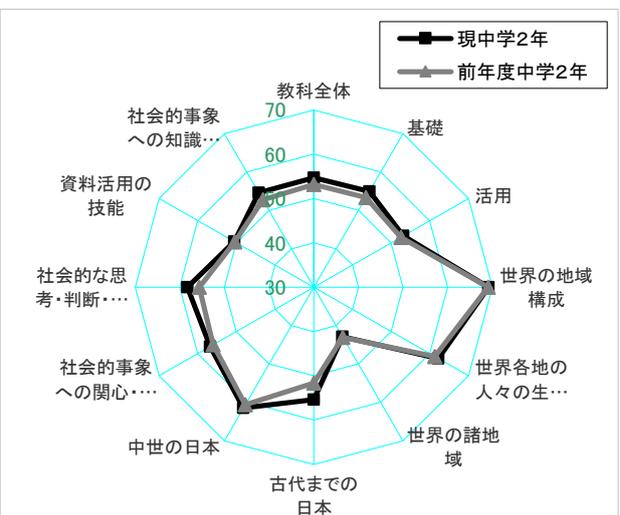
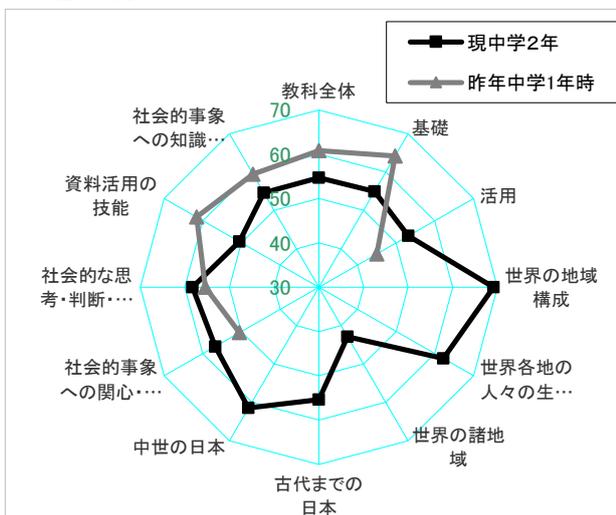
## 中学 2年 社会

### 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体としては、目標値を上回っており、全国平均正答率とほぼ同程度であった。  
 ・「基礎」、「活用」ともに全国平均、目標値を上回った。  
 ・観点別正答率は、すべての観点で目標値を上回った。特に、「社会的な事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「社会的な事象への知識理解」は全国平均も上回った。  
 ・領域別正答率では、「古代までの日本」が全国平均及び目標値を上回り、「世界各地の人々の生活と環境」が目標値を上回ったのに対し、「世界の諸地域」が目標値をやや下回った。

### 2. 経年変化



**コメント**  
 (領域が小学校の内容から中学校の内容に変わっているので参考にとどめる)「活用」が昨年度に比べてかなり上昇しており、観点別正答率においては「関心・意欲・態度」が高まっている。

**コメント**  
 昨年度の2年生と比較すると、「世界の諸地域」以外のすべての項目で上回っている。

### 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国とほぼ同程度で、良好な状況である。
- 大和政権の首長について理解している。
  - 稲作伝来後の社会についての理解をもとに、写真資料について考えることができる。
  - 世界各地の人々が住む家のつくりについて考え、説明することができる。
  - 世界の主な大陸と海洋の分布を理解している。
  - メキシコで自動車工業が発達した理由について、資料を読み取って考えることができる。
  - オーストラリアの鉱工業に関する資料を読み取ることができる。
  - 平安時代の蝦夷平定について理解している。
  - 大西洋、北海の沿岸地域の気候が、暖流と偏西風の影響を受けていることについての理解をもとに、資料を読み取ることができる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

2種類の資料を活用して、織田信長の人物像を分析する。書かれている内容をうのみにするのではなく、批判的に分析し議論することで、多角的なもの見方や、異なる価値観を受け入れる寛容さを身につけさせたい。

資料A 信長のエピソードを  
好意的にとらえた資料

資料B 信長のエピソードを  
批判的にとらえた資料

##### 信長の年表

1534年 尾張国(愛知県)で誕生  
1549年(16歳) 齋藤道三の娘・濃姫と結婚  
1551年(18歳) 父の信秀がこの世を去り、家督を相続する。  
1560年(27歳) 桶狭間の戦いで、今川義元を破る。  
1562年(29歳) 徳川家康と同盟  
1568年(35歳) 足利義昭を奉じて上洛  
1571年(38歳) 比叡山を焼き討ち  
1573年(40歳) 義昭を追放して、室町幕府を滅ぼす。  
1575年(42歳) 長篠の戦いで武田勝頼を破る。  
1582年(49歳) 本能寺の変(明智光秀による謀反)で自害。

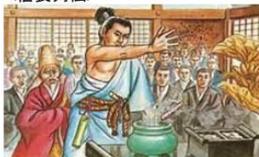


##### 信長の年表

1534年 尾張国(愛知県)で誕生  
1549年(16歳) 齋藤道三の娘・濃姫と結婚  
1551年(18歳) 父の信秀がこの世を去り、家督を相続する。  
1560年(27歳) 桶狭間の戦いで、今川義元を破る。  
1562年(29歳) 徳川家康と同盟  
1568年(35歳) 足利義昭を奉じて上洛  
1571年(38歳) 比叡山を焼き討ち  
1573年(40歳) 義昭を追放して、室町幕府を滅ぼす。  
1575年(42歳) 長篠の戦いで武田勝頼を破る。  
1582年(49歳) 本能寺の変(明智光秀による謀反)で自害。



##### <信長列伝>



父・信秀の葬儀

父親の葬式のとき、信長はだらしない格好で葬儀場(そうぎば)に現れ、抹茶(まっこう)を位牌(いはい)に投げつけた。あまりに無礼な振る舞いに家臣たちは驚き、「信長に織田家は任せられない!」と、弟の信行を当主しようとする争いになってしまった。その後信長は仮病(けびょう)を使って、信行を見舞いに誘い出して殺してしまった。

信長は対立していた仏教勢力であった、比叡山(ひえいざん)延暦寺(えんりやくじ)を焼き討ちにした。そこにいた僧侶はもちろんのこと女子供にいたるまで、その全てを殺して、焼き払ったといわれている。武田信玄を始めとする他の大名たちは、これを信長の悪行(あくぎょう)であるとして非難した。



比叡山延暦寺焼き討ち



將軍足利義昭追放

信長は都の京へ行って全国の大名を支配しようとした。その口実として足利義昭を利用した。義昭を將軍にするために京に入るという口実である。京に入り、義昭が將軍になると、今度はその存在が邪魔になり、ついには、義昭を京から追放してしまった。信長がそのまま権力者となったのである。

信長は、本能寺で家臣の明智光秀に殺されてしまう。光秀が信長を殺した理由には諸説ある。その最も有力な説として、怨恨(えんこん)説がある。信長は光秀を他の家臣が見ている前で蹴り飛ばしたり、領地を取り上げようとしたりするなど、恨まれるような行為を繰り返したために、殺されたという説である。



本能寺の変

##### <信長列伝>



父・信秀の葬儀

父親の葬式のとき、信長はだらしない格好で葬儀場(そうぎば)に現れ、抹茶(まっこう)を位牌(いはい)に投げつけた。これは、当時まだまだ力の弱い大名だった織田家を守るために、信長がわざと取った行動だったという見方がある。「信長は馬鹿である」との情報周辺に流し、敵を油断させようとしたのである。

信長は対立していた仏教勢力であった、比叡山(ひえいざん)延暦寺(えんりやくじ)を焼き討ちにした。当時の延暦寺の僧侶たちは、修行などろくにせず、禁じられていた金もつけや女遊びをするなど、民衆を困らせ、墮落(だらく)しきっていた。信長はそれを正そうとして延暦寺と戦ったのである。



比叡山延暦寺焼き討ち



將軍足利義昭追放

足利義昭は將軍になろうとして、力のあった信長に協力を頼んだ。將軍となった義昭は、だんだんと力のある信長が邪魔になっていった。そこで信長を殺そうとして、今度は様々な大名や勢力に権力を使って信長を殺すように頼んだ。信長は身を守るために義昭を追放するしかなかった。

信長は、本能寺で家臣の明智光秀に殺されてしまう。信長が最も信頼していた家臣は光秀だったと言われていいる。その証拠に、この時、本能寺に最も近いところの家臣が光秀なのである。信長が光秀に裏切られると思っていたらこんな近くにはいさせないはずである。光秀を信頼し、頼りにしていたにも関わらず、光秀は信長を殺してしまったのである。



本能寺の変

1. 資料を読んで、あなたは織田信長とはどんな人物だったと思いますか。

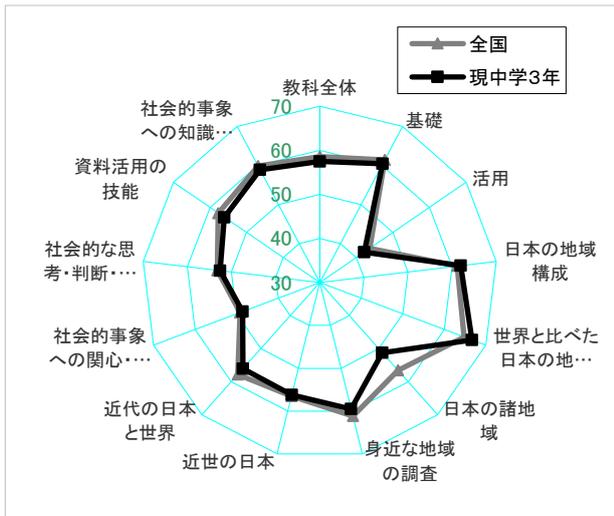
2. グループで織田信長がどんな人物であったかまとめよう。

##### ○指導のポイント

この指導例は、アクティブラーニングを意識したものである。初めは個人で意見をワークシートにまとめ、各自が意見を持った上で議論に入る。グループにはAの資料を読んだ生徒とBの資料を読んだ生徒を概ね同数で混在させる。立場の違う意見もしっかりと傾聴させ、同じエピソードでも、とらえ方の違いがあることに気付かせたい。さらに資料をうのみにせず、批判的に考えることで、インターネット上に見られる嘘の情報に飛びつかないメディアリテラシーを身に付けさせる。

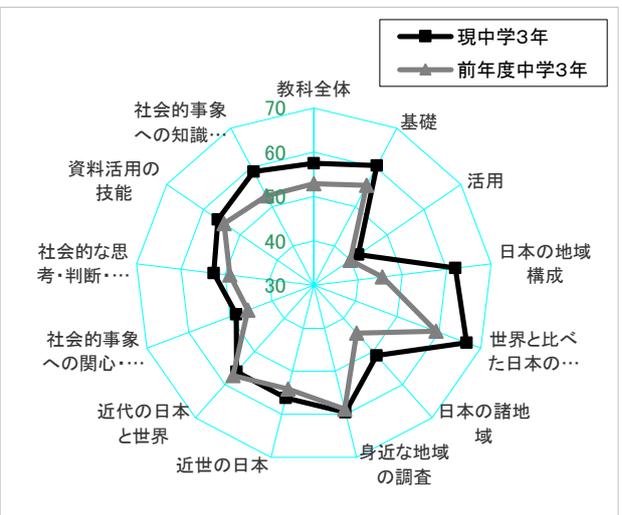
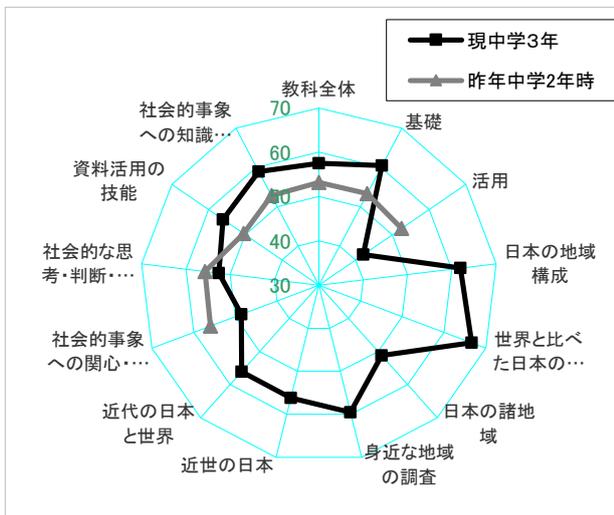
# 中学 3年 社会

## 1. 全体傾向



**コメント**  
 ・教科全体、「基礎」「活用」のいずれも、目標値を上回ったが、全国平均正答率は下回っていた。  
 ・観点別正答率については、すべての項目で目標値を上回っているが、全国平均を下回っている。  
 ・領域別正答率は、「日本の地域構成」「世界と比べた日本の地域的特色」が全国平均及び目標値を上回り、「近世の日本」「近代の日本と世界」が目標値を上回ったものの、その他の「身近な地域の調査」「日本の諸地域」は全国平均及び目標値を下回っている。

## 2. 経年変化



**コメント**  
 昨年と比較すると、「教科全体」と「基礎」は上昇しているが、「活用」は大きく下がっている。また、「資料活用の技能」「社会的事象への知識理解」は上昇しているが、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」が下降している。

**コメント**  
 昨年度の3年生と比較すると、「近世の日本」以外、すべての項目で上昇している。

## 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国平均を下回っており、改善が必要な状況である。
- 日比谷焼き打ち事件が起こった背景に関する資料を読み取ることができる。
  - 中部地方における、自然環境をうまく利用した農業について考え、表現することができる。
  - 日本と、他国の一地点との時差を考慮することができる。
  - 日本の農業について、各地の主な生産物を把握することができる。
  - 世界や日本の米の生産について、資料を読み取ることができる。
  - 大日本帝国憲法について理解している。
  - 武家諸法度の資料から、江戸幕府が行った大名統制を読み取ることができる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

「だれを市長に選ぶべき？」（教科書 P. 72）

政治が身近なものであることや、主権者として政治に積極的に参加することが大切であることに気づく。

**A** 候補 スローガン 総合公園を造って緑豊かな住みよいまちにしよう！



■主張 X市を住みよいまちにするためには、緑に親しんだり、運動したりできる場が必要です。そこで、全面芝生の広場やスポーツ施設、子どもの遊具コーナーなどを備えた、市民のいこいの場となる総合公園を造ります。また、総合公園は災害時には周辺の住民の避難場所にもなります。

■建設費用 20億円

**B** 候補 スローガン ごみ処理施設を建設してリサイクル社会の実現を目指そう！



■主張 X市の現在のごみ処理施設は老朽化が進み、維持費だけで年間2億円もかかっています。新しいごみ処理施設を建設することで、維持費を削減することができます。また、焼却時の二酸化炭素の排出削減や、ごみ発電によるエネルギーの有効利用にもつながります。

■建設費用 40億円

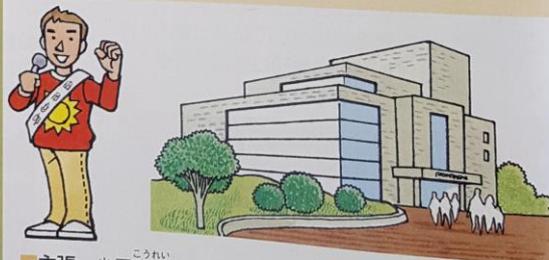
**C** 候補 スローガン 体験型テーマパークでまちを活性化しよう！



■主張 X市の経済は近年不調で、工場の県外移転で市民が働く場所も減っています。そこで、X市の歴史や文化、自然などを体験的に学べるテーマパークを造って、市外から人を呼び寄せ、X市の魅力を全国に発信します。また、従業員はX市から採用するため、多くの雇用を生み出せます。

■建設費用 50億円

**D** 候補 スローガン 総合福祉センターを建設してみんなに優しいまちを創ろう！



■主張 少子高齢化が進むX市では、介護サービスの充実と子育てのための環境づくりが必要です。介護施設と保育所を併設する総合福祉センターを建設し、高齢者も子育てで世代も安心して暮らせる優しいまちを実現します。また、高齢者と子どもや親が交流できるコーナーを作り、世代間交流をうながします。

■建設費用 50億円

#### ○授業の流れ

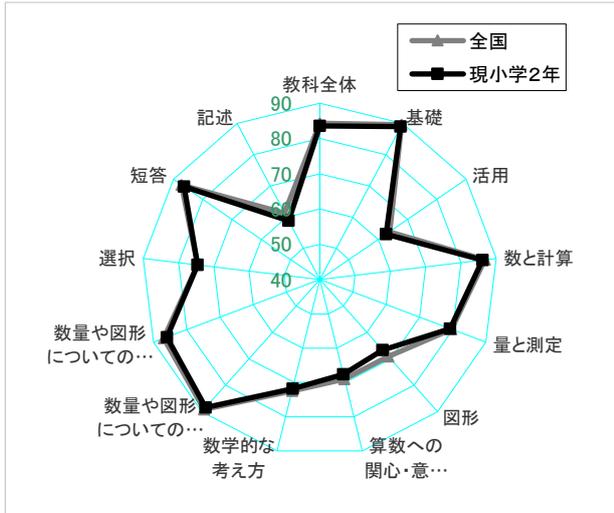
1. 土地利用案を参考にして、だれを市長に選ぶべきか考える、というテーマを確認する。
2. グループの中で、その候補者を選ぶ理由、選ばない理由を話し合い整理する。
3. 選んだ候補者ごとにグループを作り、案の利点や「効率」「公正」の観点から整理する。
4. 各候補者のグループから代表を出し、演説会をおこなう。

#### ○指導のポイント

本指導例は、議会制民主主義や多数決の原理について、対立と合意、効率と公正などの観点から多面的・多角的に考察する学習の導入として行う。選挙をはじめとする国民の政治参加が民主政治を支えていることに気づき、望ましい政治参加の在り方について、資料の読み取りや話し合いなどを通して多面的・多角的に考察し、自分の考えを分かりやすく表現することを目指したい。

# 小学 2年 算数

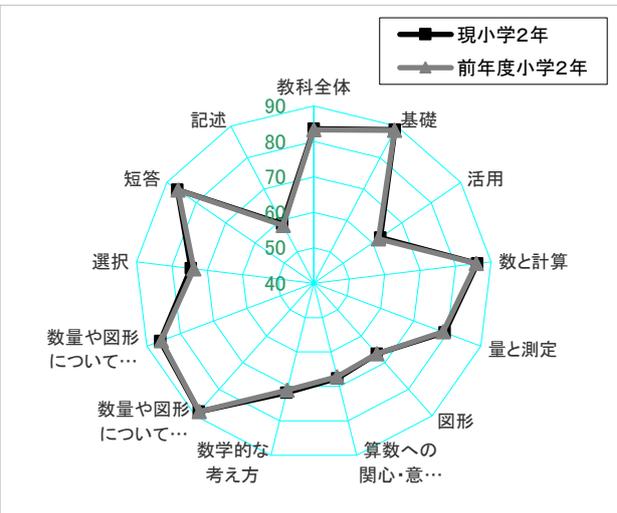
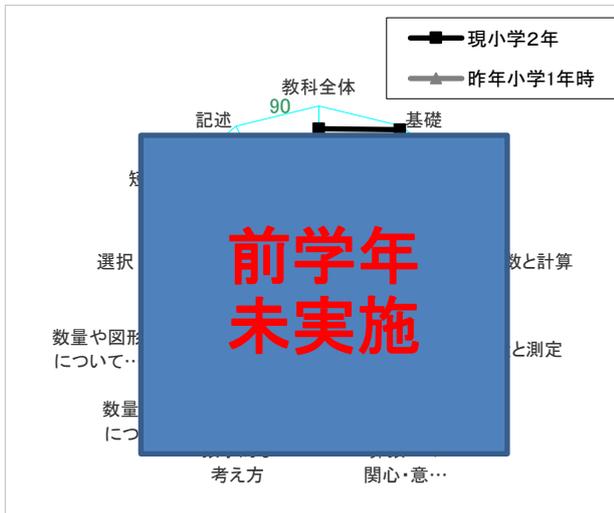
## 1. 全体傾向



### コメント

・全体的に見ると、全国正答率とほぼ同程度の結果であり、良好な状況である。  
 ・「数と計算」領域では、基本的な計算技能や位取り、立式については、おおむね適切に身につけている。  
 ・「領と測定」領域では、長さの比較では適切にとらえることができているが、時計の読み方や条件を満たす場面を考える問題に課題がある。  
 ・「図形」領域では、全国的な傾向でもあるが、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりする問題に課題がある。

## 2. 経年変化



### コメント

### コメント

・平成28年度の小学2年生と比べると、ほぼ同程度で、僅かではあるが、正答率が上がっている。

## 3. 強みと弱み

- 平均正答率からみると、今回出題された学習内容についてはおおむね身につけていると考えられる。
  - ・たし算、ひき算、3つの数の計算の基本的な計算の仕方は理解できている。
- 課題となる問題から見ると、次の2点の対策が考えられる。
  - ・自力解決していく上で、子どもたちが予想をもとに、既習学習を生かせることに気づかせる投げかけや学習環境を整えておく。
  - ・半具体物を操作しながら、友だち同士やグループで説明し合う機会をたくさん設ける。

## みんなで学ぶ楽しさや意義を実感させる授業の構成

指導例

目標及び内容 A(2) 加法, 減法

[算数的活動](1)

イ 計算の意味や計算の仕方を, 具体物を用いたり, 言葉, 数, 式, 図を用いたりして表す活動



どんぐりは  
あわせるといくつ?

7 + 4 のけいさんのしかたをかんがえよう。

○予想する → 「10より大きい数になりそう。」



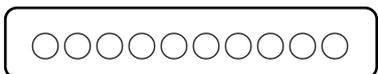
○自力解決する

・数えたす方法

○○○○○○○○ ← ○○○○

仟, 二・・・ ・・ジュウ仟

・10にまとめる方法

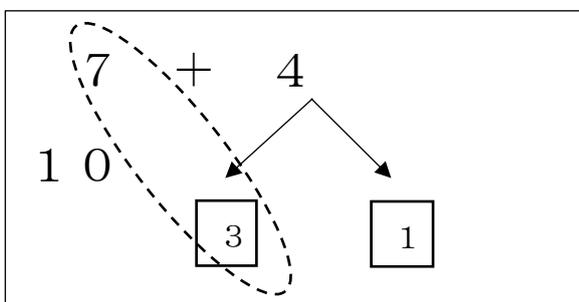


「10と1で 11」



既習学習(「10よりおおいきかず」)  
を生かし「10にまとめる良さ」や  
「10といくつ」という考え方を  
子どもに気づかせたい!

○伝え合う・学び合う



7は あと 3で  
10だから, 4を  
・・・。

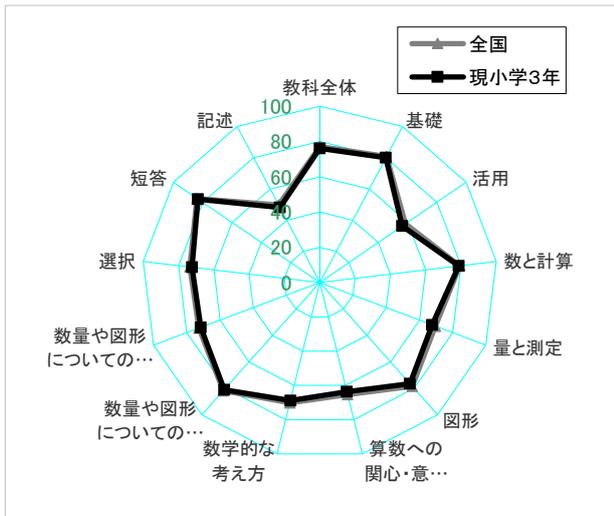
算数ブロックやおはじきなど半具体物を  
動かしながら友だちに計算の仕方を表したり  
説明したりする活動の場を設定していく。

【ワンポイントアドバイス】

- ・子どもたちが予想をもとに, 既習学習を生かしながら学習が進められるようにする。
- ・答えを求めるだけでなく, どのように答えを求めたのかをたくさんの人に伝え合う場を設定する。

# 小学 3年 算数

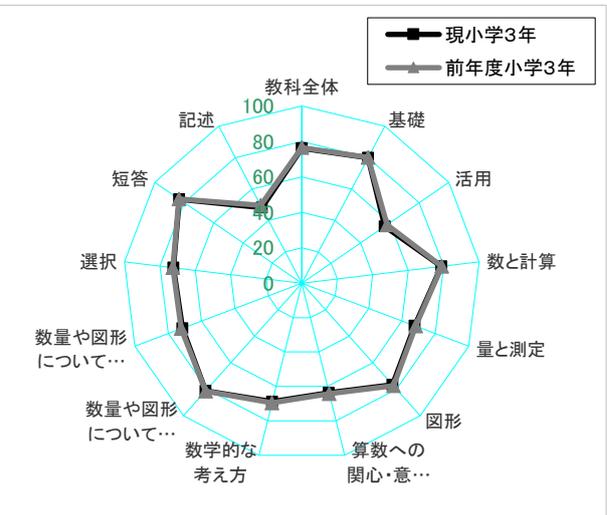
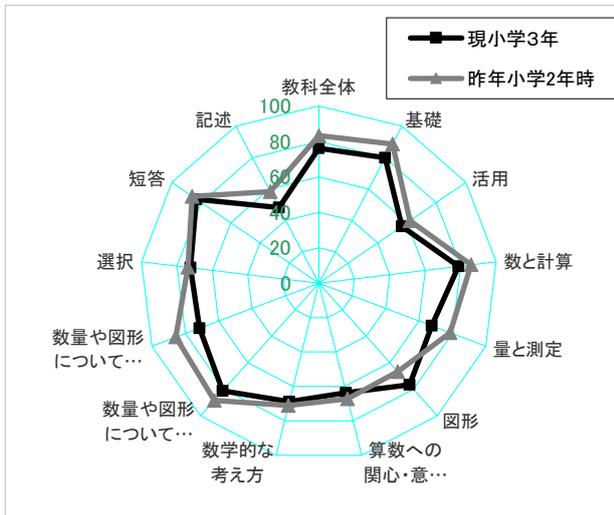
## 1. 全体傾向



**コメント**

- ・全体的に見ると、全国正答率とほぼ同等の結果である。
- ・「数と計算」では短答形式のものは正答率が全国平均を上回っているが、選択形式で文章題での設問となると2ポイント程度全国平均を下回っている。また、特に場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を考える設問は無回答率が高い。
- ・「量と測定」ではかさを推察して適切な単位を使うことが苦手である。

## 2. 経年変化



**コメント**

- ・小学2年時と比較すると、「図形」が向上している。
- ・「数と計算」は7ポイント、「量と測定」は11ポイント低下している。

**コメント**

- ・前年度の小学3年とほぼ同等である。

## 3. 強みと弱み

- 「計算のふくしゅう」「たし算・ひき算」「かけ算」の基本的な計算の仕方を理解し、今回出題された内容 おおむね身に付いていると考えられる。
- 課題のある問題を見ると、次の対策が考えられる。
  - ・具体的な操作活動や、算数的活動を重視した指導内容を工夫し、量的な実感を伴った指導をする。
  - ・文章題から必要な情報を取り出して、その場面を理解できるように読み取る力をつけていく。

## みんなで学ぶ楽しさや意義を実感させる授業の構成

指導例

目標及び内容 B (2) 量と測定

[算数的活動](1)

ウ 身の回りにあるものの長さや体積について, およその見当を付けたり, 単位を用いて測定したりする活動

### 《量の大きさについての感覚を豊かにする算数的活動》

#### 思考の流れ

1 単位量をとらえる



適切に単位をつける

#### 1 単位量をとらえ, 単位を使うことよさに気づかせる実践例



1 L はどれくらい?

1 L だと思うかさだけ, いろいろないれものに水を入れてみよう

- ◎予想する 「やかんいっぱいに入れると 1 L よりおおくなりそう」  
 「スーパーのふくろ, はんぶんくらいかな」  
 「ぎゅうにゅうパックだと 1 L くらいじゃないかな」  
 「目ぐすりのいれものじゃ, ぜんぜん入らないよ」



★ 1 L 未満の容器も選択肢に入れることで, mL や dL などの単位を使うよさに気づかせたい

#### ◎体験的な活動 (グループ活動で)

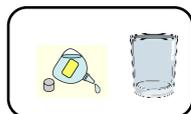
- ① 水を入れてみよう
- ② 入れた水のかさがどのくらいだったか, 1 L ますで確かめてみよう
- ③ 1 L 分だけ容器に水を入れてみよう

ぎゅうにゅうパックにはちょうど 1 L 入った。やかんははんぶんくらいで 1 L だった。コップや目ぐすりのいれものには 1 L 入らなかった。

★ グループで仲間分けをする活動を通して,  
 ① なぜそのように分けたのか,  
 ② 同じ仲間にした容器はどのような仲間ということができ  
 るか,  
 自分の考えを伝えたり, 友達の考えを聞いたりしながら, 学びを深める場を設定したい

#### ◎次時の流れ

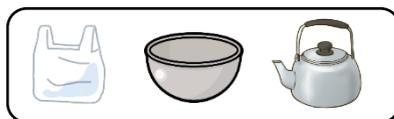
入る水のかさで, 容器を仲間分けしてみよう



1 L よりすくない



ちょうど 1 L



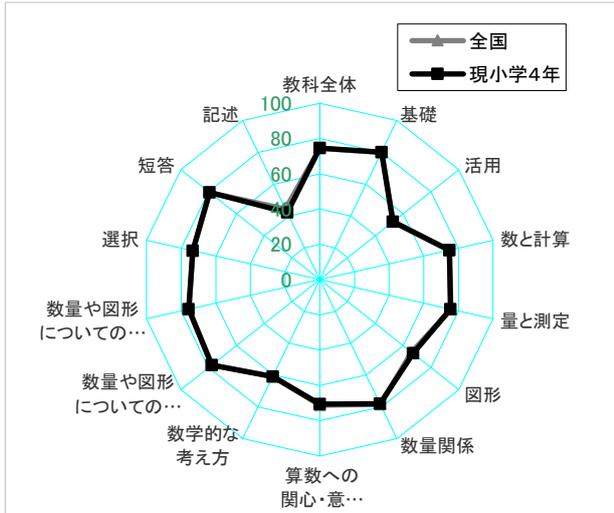
1 L よりもたくさん入る

#### 【ワンポイントアドバイス】

1 L 分だけ水を入れて量感をとらえた後, 仲間分けをすることで, 1 L 未満をどのように表すか, 同じかさを単位を変えて表すとどうなるかなど適切な単位をつけるための活動につなげていく

# 小学 4年 算数

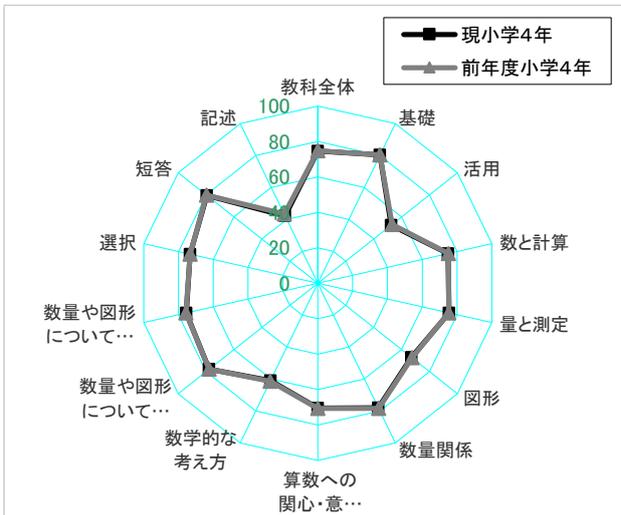
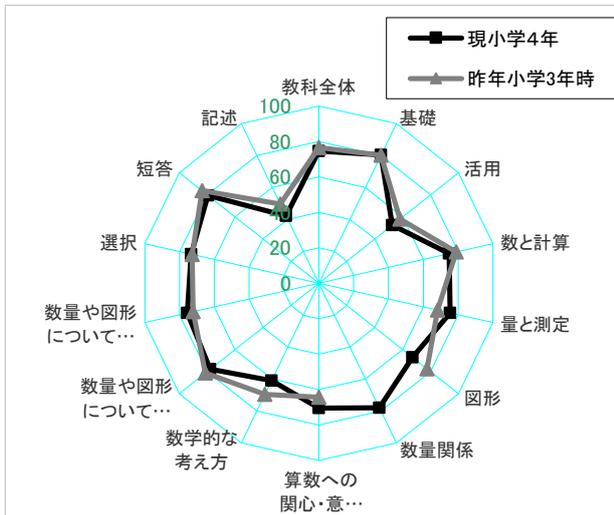
## 1. 全体傾向



### コメント

全体的にみると、全国とほぼ同等の結果である。  
 全校同様、解答形式が記述になると、正答率が下がる。  
 問題別にみると、2つの表で異なる数値に着目するなど工夫して、条件を満たす場合を考える問題は、無回答率が15.5%と高い。  
 また、身近にあるものの重さを推察する問題の正答率は、41.6%であり、これは全校正答率から3.0ポイント下回っている。  
 0を含む乗法を適用し、表を完成させる問題の正答率は、全国とほぼ同等の47.6%で、無回答率が9.4%である。

## 2. 経年変化



### コメント

- ・小学3年時と比較すると、「算数への関心・意欲・態度」が6ポイント以上向上した。また、「量と測定」も向上が見られる。
- ・「数学的な考え方」「図形」は低下が大きい。

### コメント

- ・昨年度の4年生と比較すると、どの項目に渡ってもほぼ同じような傾向である。

## 3. 強みと弱み

- 全体的に見ると、今回出題された内容については、おおむね理解ができていると考える。
- 身近にあるものの重さを推察することに苦手さをもつ児童が見られるので、生活の中で重さを実感できる場を工夫する必要がある。また、授業でも実感を伴った算数的活動を取り入れる必要がある。
- 棒グラフの有用性や特徴の記述ができていない。また2つの表で異なる数値に着目し、条件を満たすことを考えることの誤答率が高いため、表やグラフに表す意味や利便さを実感できるような授業の構成を考案必要がある。

### みんなで学ぶ楽しさや意義を実感させる授業の構成

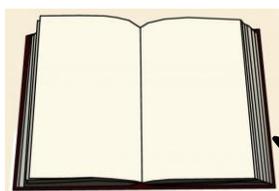
指導例

目標及び内容 B (1) 長さ、重さの単位と測定

(1)長さについての理解を深めるとともに、重さについて単位と測定の意味を理解し、重さの測定ができるようにする。  
イ 重さの単位（グラム（g）、キログラム（kg））について知ること。

ねらい：【身近にあるものの重さを推察することができる】

1 教科書1冊の重さはどのくらいか？



まずは、全員が共通のものの重さを  
予想→測定する。

この後の活動の  
基準となる重さ

1 kgはどんな重さかな。

2 自分で身の回りのものの重さを予想して測定しながら、  
1kgを探したり作ったりする。

グループで協力  
して測定する



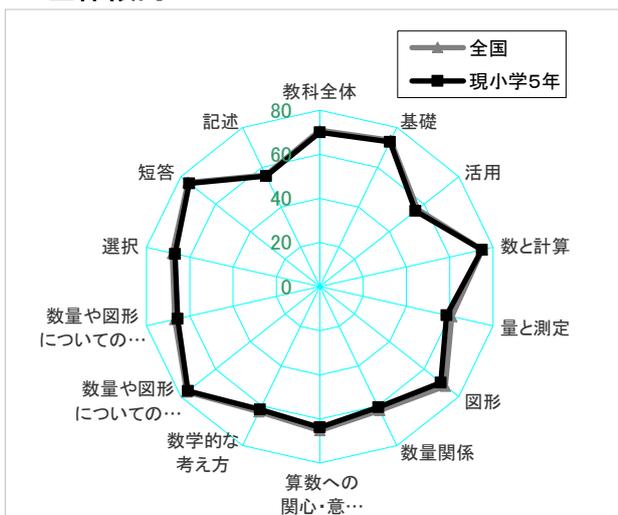
【ワンポイントアドバイス】

ものの重さを予想→測定するだけでなく、実際に決められた重さを探したり作ったりすることで、より体験的に重さをとらえさせたい。また、1kgを基に、自分の体重はそのいくつ分なのかを実感させたい。この後、家庭学習として、家庭の中のもので1kgを探す活動をさせてもよい。

いくつかのものを  
組み合わせて  
もよい

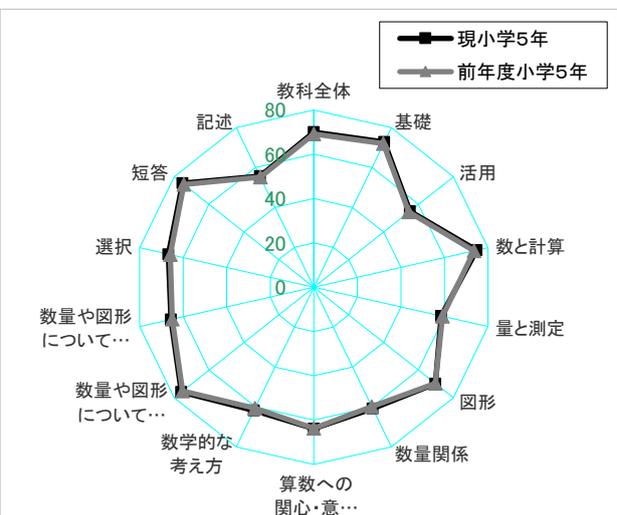
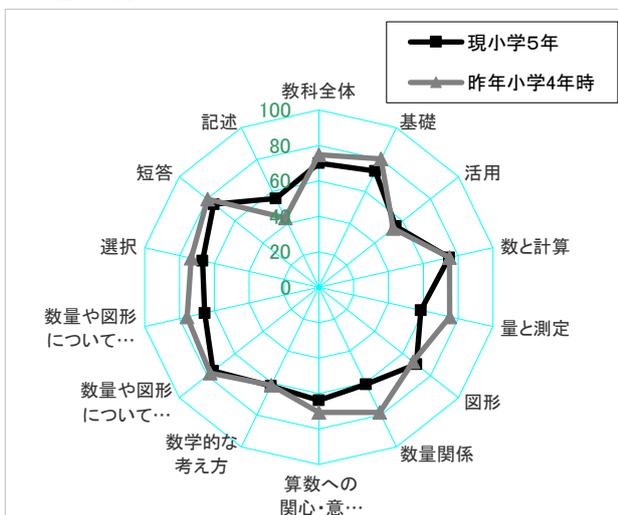
# 小学 5年 算数

## 1. 全体傾向



・全体的に見ると、全国平均とほぼ同じ結果であるが、細かく見ていくと、全ての領域・観点で全国平均をやや下回っている。  
 ・特に、「図形」と「量と測定」の領域が、全国平均に比べて2ポイント以上低い結果になっている。  
 ・解答形式別に比べてみると、「選択式」では全国平均よりも高く、「短答式」や「記述式」では、下回っている結果になった。

## 2. 経年変化



・小学4年時と比べると、「図形」の領域が向上している。  
 ・小学4年時と比べると「量と測定」「数量関係」の領域が、大きく低下している。

・前年度5年とほぼ同等である。

## 3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には、今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- 基本的な四則計算の技能は身につけている。小数や分数の計算も十分理解している。
- 図形の特性についての理解が不十分である。(四角形の対角線の性質)
- 「量と測定」の領域で、正方形の面積や身近にある物の面積を推察する力を充実させていく必要がある

## みんなで学ぶ楽しさや意義を実感させる授業の構成

指導例

目標及び内容 C (1) 図形

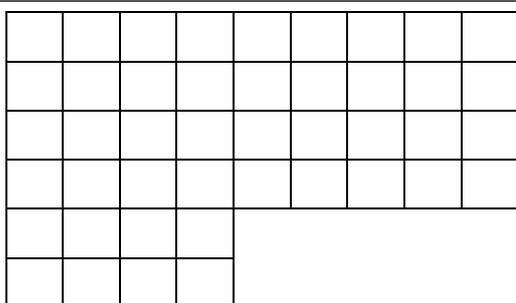
[算数的活動](1)

イ 三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を, 具体物を用いたり, 言葉, 数, 式, 図を用いたりして考え, 説明する活動

### ◀問題解決学習を取り入れた算数的活動▶

#### 題材名「同じ面積に分けるには？」

課題



左のような花壇を, 1本の直線を引いて, 同じ面積になるように2つに分けます。どのように引けばよいでしょうか。



- ◎やり方を考える 「ワークシートのマス目を数えればできそう」  
「実際に切り取ってやってみよう」  
「面積を求めてから, 半分になるところに線を引いてみよう」

学習の見通しを持たせる

#### ◎学習形態の工夫 (授業の中での流れ)

- ① 1人でじっくり問題に向かう楽しさを味わう
- ② 友達と考えを出し合い, ともに考える楽しさを味わう
- ③ 全体で共有し, 高め合う楽しさを味わう

分からない子どもも, できた子どもの考えを聞くことで, 考え方や解答が分かる。

#### ◎グループごとにまとめて, 全体の前で発表する

- ・グループで, 画用紙や小黒板にまとめ, 発表する。
- ・自分と違う考え方の発表をよく聞く。

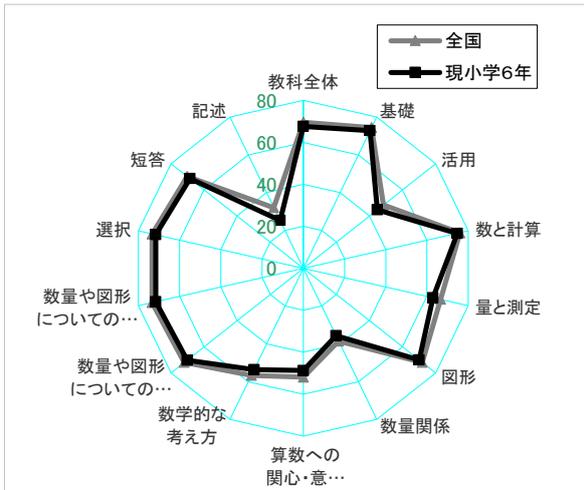
グループの中で全員が役割を分担することで, どの子にも参加意識が生まれる。

#### 【ワンポイントアドバイス】

- ・全ての学習において, 「既習事項」を整理し, 「見通し」を持って, 自力解決に臨めるようにしましょう。
- ・どうしてそのような計算をしたのか, 根拠や意図を明らかにし, 筋道を立てた説明ができるようにしましょう。
- ・算数の用語が適切に使えるように, 日頃から意識させましょう。

# 小学 6年 算数

## 1. 全体傾向



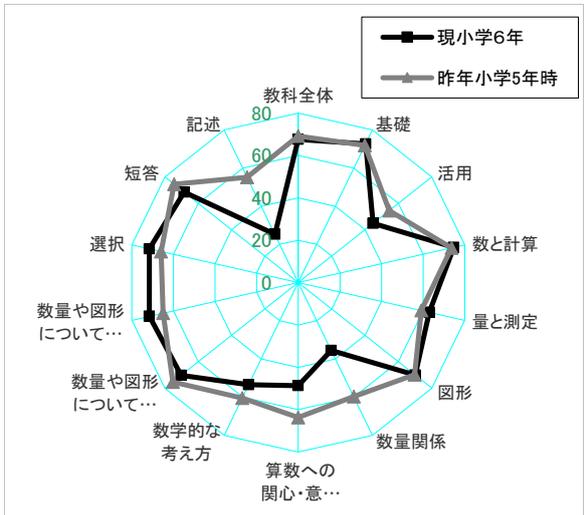
全体傾向は、全国平均を若干下回り、基礎内容に比べて活用内容が下回っている。

領域別では、どの分野も全国平均を下回っている。特に、量と測定の分野については、全国平均との差が一番大きい。

観点別では、どの観点も全国平均を下回っている。特に、算数への関心・意欲・態度については、全国平均との差が一番大きい。

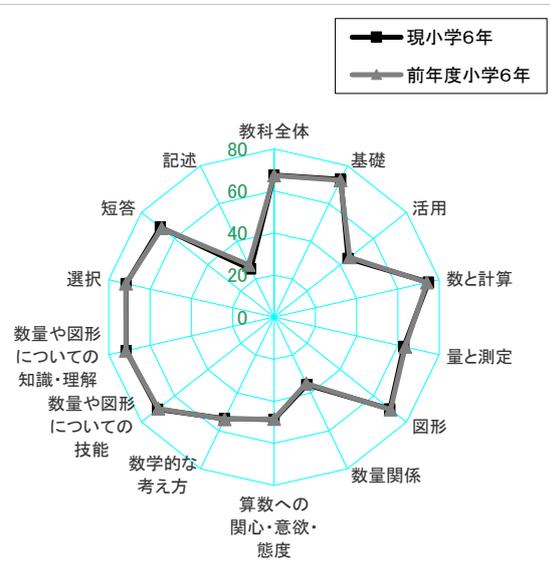
解答形式では、記述問題について全国平均より7ポイント近く下回っている。

## 2. 経年変化



昨年の5年時と比べると基礎力は若干上回ったが、活用力が下回った。領域で見ると、数量関係が大幅に下回っている。観点別では、知識・理解は上回っているが、他の観点では下回っている。

解答形式では、記述問題について昨年度より30ポイント近く下回っている。



前年度6年生との比較は、ほぼ同等の傾向が見られる。

## 3. 強み(○)と弱み(●)

○「数と計算」の分野では、計算の技能について概ね高い定着率である。

○「図形」の分野では、三角形や四角形の内角の大きさや円周の長さを求めること、合同な図形を識別することについてよく理解している。

●「数と計算」について、小数を100分の1にした数を求めたり、分数を小数に直すことについて課題がある。

●「数量関係」の百分率の式の意味を理解する、また、百分率とグラフの内容を理解することについて課題がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

筋道立てて考え表現できる授業の構成

指導例 目標及び内容

A 数と計算 (3) 小数の乗法, 除法

小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め, それらを用いることができるようにする。

〔算数的活動〕(1) ア

小数についての計算の意味や計算の仕方を, 言葉, 数, 式, 図, 数直線を用いて考え, 説明する活動

「小数倍」や「割合」の学習は子ども達がつまずきやすい内容です。小数で「わる」という感覚が身につかない, また, 「比べられる量」と「もとにする量」の区別がつかない, といったところが難しいところだと思います。

**ポイント1** 文章の中から「比べられる量」「もとにする量」「割合」を見つける。

割合は, 「比べられる量」「もとにする量」「割合」が問題の中に書かれています。「〇は〇の〇倍」という形で3つの量の関係を把握できるようにしていきましょう。

Ⓚ・・・比べられる量  
 Ⓜ・・・もとにする量  
 Ⓢ・・・割合

とすると

ⓀはⓂのⓈ倍

という形になります。

式にすると

- ①  $\text{Ⓚ} = \text{Ⓜ} \times \text{Ⓢ}$
- ②  $\text{Ⓜ} = \text{Ⓚ} \div \text{Ⓢ}$
- ③  $\text{Ⓢ} = \text{Ⓚ} \div \text{Ⓜ}$

の3つの式になります。

問題に出てくる言葉の意味や数を確実におさえましょう。



**ポイント2** 数直線を使ってそれぞれの数の関係をとらえる。

問題に出てくる数量を数直線上に書き入れ, 視覚的に情報を整理しましょう。そのことでそれぞれの関係がわかりやすくなり, 答えの見通しも立てやすくなります。

(例題)

A小学校の5年生の人数は70人で, サッカークラブに入っている人は14人です。

5年生の人数をもとにした, サッカークラブの人数の割合を求めましょう。



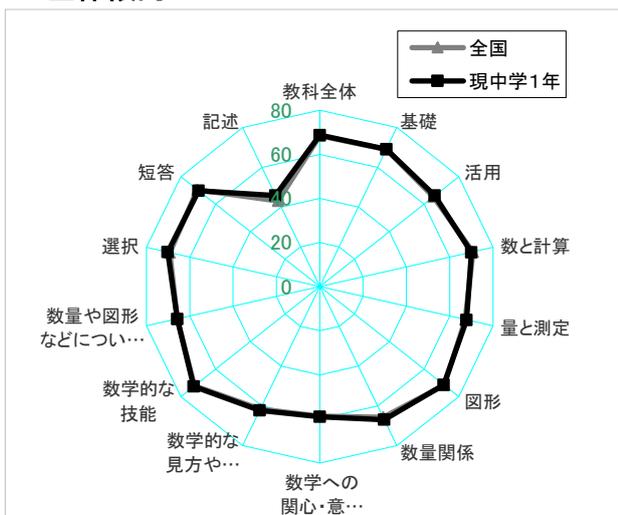
求めるものは何かを明確にします。

《ワンポイントアドバイス》

- ・ 図や式等を関連づけ, 計算のイメージを持たせましょう。実感を伴って理解させることが大切です。
- ・ 色々な解法, 考え方を身につけさせることが必要です。そして, 自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために, 根拠や意図を明らかにしながら, 筋道立てた説明ができるようなモデルをつくりましょう。

# 中学 1年 数学

## 1. 全体傾向



全体傾向は、すべての項目で全国と1ポイント未満でほぼ同等の数値である。

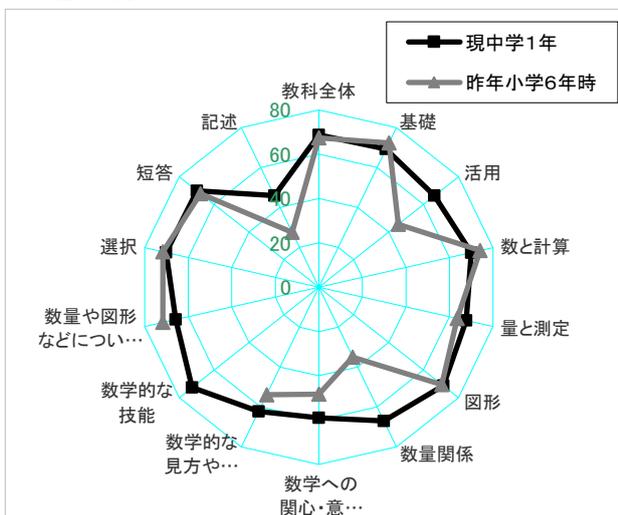
4つの領域の中で比べると、「量と測定」及び「図形」が全体的に低い。

観点別では数学への「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」及び「数学的な技能」において全国よりもやや高い傾向がある。

問題の内容面からみると、小数・分数の四則計算や

平面図形の合同等の認識の問題の正答率に低い傾向がある。また、全体的に授業を行う中で、「量と数量」領域の単位量あたりの大きさ(混み具合や速さ)や平均を使った活用問題に苦手意識を

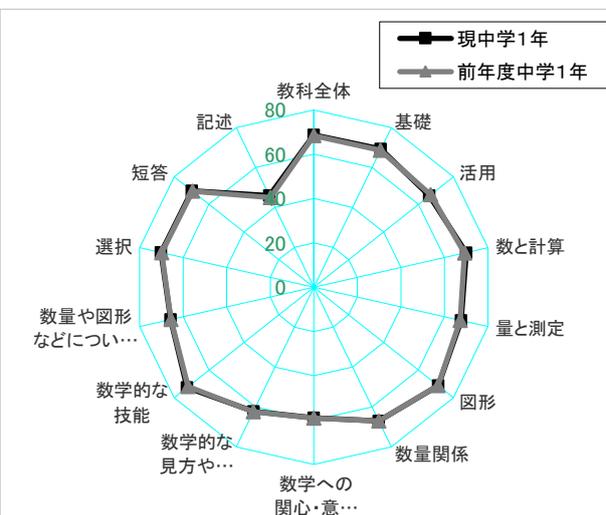
## 2. 経年変化



昨年度小学6年時と比べると基礎力が若干下がり、記述力や活用力が大幅に上昇した。

領域別では「数量関係」が大幅に上昇し量と測定もやや上昇している。

観点では知識・理解がやや下がっているが、「数学的な見方や考え方」と「数学への関心・意欲・態度」が上昇し、全体的に平均化してきた。



前年度中学1年生徒の比較は、ほぼ同等の数値であり、その差は1ポイント以下である。

## 3. 強みと弱み

<強み>

△「数と計算」の技能的な計算

△「量と測定」の思考力を要する面積と体積の問題及び単位量あたりの大きさの考え方

△「図形」の平面図形の知識理解

△「数量関係」の場合の数と文字と式の技能と数学的な考え方及び棒・円グラフの読み取り

<弱み>

▼「数と計算」の分数の四則混合の計算

▼「図形」合同な四角形

筋道立てて考え表現できる授業の構成

指導例

目標及び内容 量と測定 B(4)速さ

速さについて理解し, 求めることができるようにする。

〔算数的活動〕(1)

イ 身の回りで使われている量の単位を見つけたり, それがこれまでに学習した単位とどのような関係があるかを調べたりする活動

速さの指導にあたっては, 形式的に覚えさせるのではなく, 5年次の部屋の込み具合や人口密度からつなげて, 日常生活の経験を基にして考え出したり, 説明したりできるようにする必要がある。

(例題)

- 1 Aは3時間に12km, Bも3時間に12km歩いたとしたら, どちらが速いといえるか?
- 2 Aは2時間に8km, Bは2時間に9km歩いたとしたら, どちらが速いといえるか?
- 3 Aは4時間に15km, Bは3時間に15km歩いたとしたら, どちらが速いといえるか?
- 4 Aは4時間に18km, Bも3時間に13km歩いたとしたら, どちらが速いといえるか?

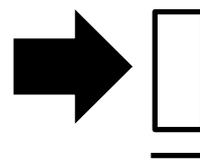
◎グループで考えを出し合い, 小黒板にまとめ, 全体の前で発表する



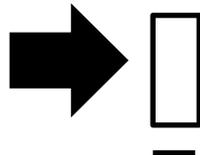
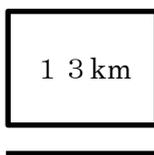
問い 上記の1は, 時間と距離が同じだから, 速さも同じ。  
一方で, 2, 3はどう考える?

- ・ 同じ時間に長い距離を歩いた方が速いので, Bが速い
- ・ 同じ距離を少ない時間で歩いた方が速いので, Bが速い

問い 上記の4は, 時間も距離も違うから, どうしても1時間あたりに歩いた長さを求めて, 比べなければならない!



$18 \div 4 = 4.5$   
\* 面積が広い



$13 \div 3 = 4.33 \dots$   
\* 面積が狭い

・ 時間を数直線, 距離を長方形で表すと・・・

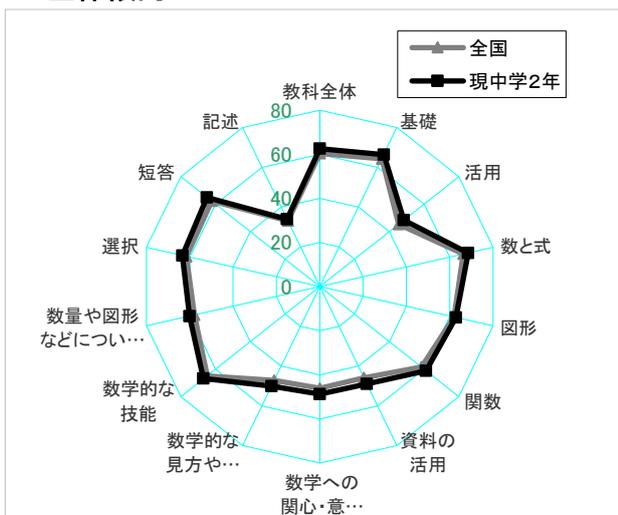
《ワンポイントアドバイス》

・ 異種の2つの量の割合である速さには, 比例関係が根底にあります。日常生活に結び付けて, 実感を伴って理解させることが大切です。

・ 速さを単位時間あたりに移動する距離として, (速さ) = (距離) ÷ (時間) として公式化します。

## 中学 2年 数学

### 1. 全体傾向



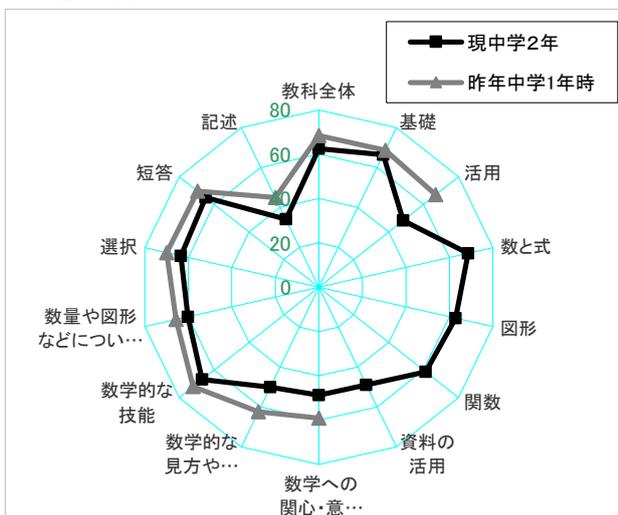
全体傾向は、すべての項目で全国よりも高く、良好な状況である。

4つの領域の中で比べても、「数と式」、「図形」、「関数」及び「資料の活用」で全国を上回っている。

観点別では数学への「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」及び「数学的な技能」及び「知識・理解」において全国よりも高い傾向がある。

問題の内容面からみると、小学校の計算の復習や正の数・負の数の正答率が高いが、「数と式」領域の1次方程式の解法に関して、分数係数の場合は定着しているとは言えない。また、「図形」領域の空間図形に対する認識、特に図形の見取

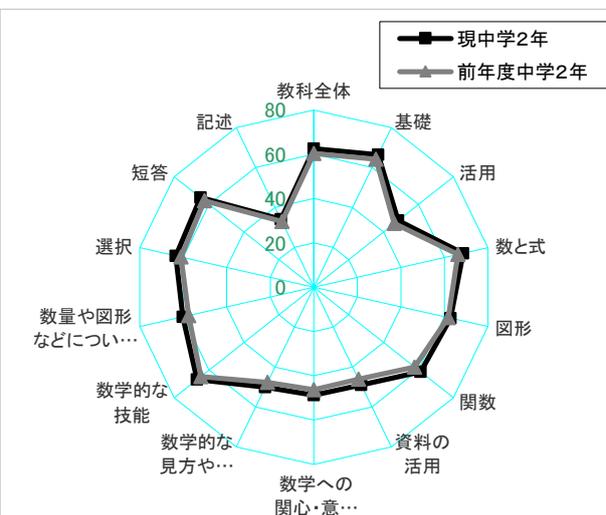
### 2. 経年変化



昨年の中1年時と比べると、すべての領域・観点ともに下回っている。

基礎内容はやや下回っている程度で、活用内容は大幅に下がっている。

中学校数学の内容の難易度が高くなった影響によると思われる。



全体的に前年度とほぼ同等だが、正答率は若干上回っている。

### 3. 強みと弱み

<強み>

△「数と式」領域の技能的な計算

△「関数」領域の基本的な知識・理解(比例・反比例)

△「図形」領域の平面図形の知識・理解(作図・展開図・求積)

△「資料の活用」領域のグラフの読み取り(階級・ヒストグラム)

<弱み>

▼「図形」領域の空間図形の基本的な知識・理解(回転体)

筋道立てて考え表現できる授業の構成

指導例

目標及び内容 D 資料の活用

目的に応じて, 資料を収集し, 統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。

〔数学的活動〕

具体的な事柄について, 資料がある範囲にわたって分布しているときに, その傾向をとらえたり, 平均の考えを用いて問題を解決したりする活動

統計的な考察の指導にあたっては, 形式的に覚えさせるのではなく, 具体的な場面に応じて, 生徒が既習事項を活用しながら工夫して考え出したり, 説明したりできるようにする必要がある。

(例題)

1998年に行われた長野オリンピックで, 日本チームが金メダルをとりました。

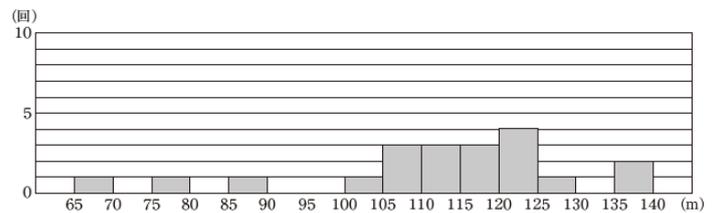
この競技では, 飛んだ距離の大きさと姿勢の美しさを競います。

私は, このときの日本チームの原田雅彦選手と船木和喜選手の飛んだ距離の記録について調べました。

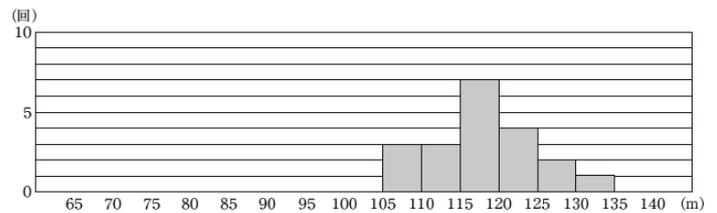
右の2つのヒストグラムは, 1998年シーズンの長野オリンピックまでのいくつかの国際大会で, 二人が飛んだ距離の記録をまとめたものです。

たとえば, このヒストグラムから, 二人とも105m以上110m未満の距離を3回飛んだことが分かります。

原田選手の記録



船木選手の記録



◎グループで考えを出し合い, 小黑板にまとめ, 全体の前で発表する

① もしもこの二人がもう1回ずつ飛んだら, どちらの選手がより遠くまで飛ぶだろうか。

- ・原田選手だと考える: 最高記録を見ると, より遠くまで飛んでいるから
- ・船木選手だと考える: 安定しているから

② わかったことを, ヒストグラムの特徴や数学の用語を使って表現できないか。

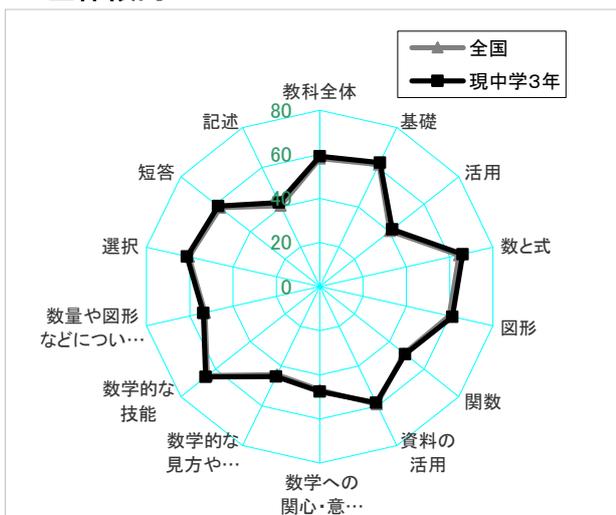
- ・原田選手だと考える: 130m以上の累積度数が大きいから
- ・船木選手だと考える: 全ての記録が105m以上で, 階級の中央の値が大きいところに記録が集中しているから

《ワンポイントアドバイス》

- ・資料全体の分布の様子や特徴をわかりやすくするためには, 度数分布表やヒストグラムが有効であることを実感を伴って理解させることが大切です。
- ・統計的な処理をした後, 根拠や意図を明らかにしながら, 筋道立てた説明ができることで, ある程度の将来の推測が可能になることを感じさせたいものです。

## 中学 3年 数学

### 1. 全体傾向



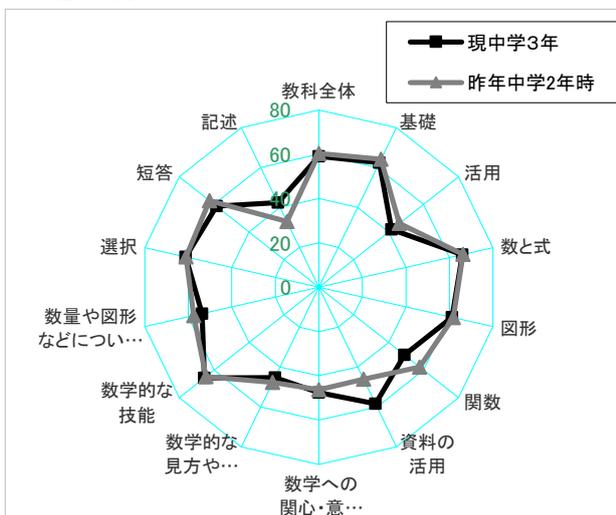
全体傾向は、すべての項目で全国よりも高く、良好な状況である。

4つの領域の中で比べても、「数と式」、「図形」及び「関数」で全国を上回っている。

観点別では数学への「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」及び「数学的な技能」及び「知識・理解」において全国よりもやや高い傾向がある。

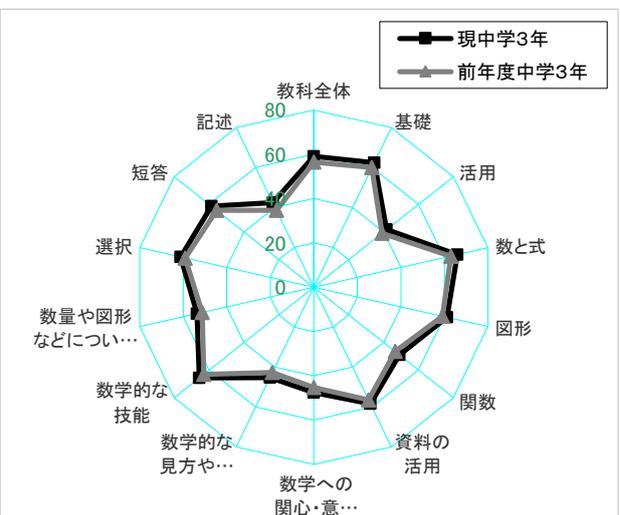
問題の内容面からみると、全国的な傾向として、計算の復習や図形の性質の正答率は高く、「数と式」と「図形」の領域の「数学的な技能」は定着している。その反面、連立方程式及びその解の意味を理解したり、1次関数のグラフと図形の融合

### 2. 経年変化



昨年の中2年時と比べると基礎・活用内容ともに若干下回り、数量や図形などについての「知識・理解」及び「数学的な見方や考え方」の観点も下がっている。

領域別でみると、「資料の活用」は上昇しているが、「関数」分野が大きく下回っているおり、図形と関数が融合した総合問題によると思われる。



全体的に前年度とほぼ同等だが、正答率は若干上回っている。

### 3. 強みと弱み

<強み>

△「数と式」領域の技能的な計算

△「関数」領域の基本的な知識・理解(1次関数の式とグラフ)

△「図形」領域の平面図形の基本的知識・理解(平行線と二等辺三角形の性質)

△「資料の活用」領域基本的な知識・理解(確率)

<弱み>

▼「数と式」領域の基本的知識・理解(連立方程式の意味)

▼「関数」と「図形」領域の融合(座標平面上の図形とグラフ)

▼「図形」領域の平面図形の基本的知識・理解(平行四辺形になるための条件)

## 筋道立てて考え表現できる授業の構成

## 指導例

## 目標及び内容 C 図形

図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ, 論理的に考察し表現する能力を養う。

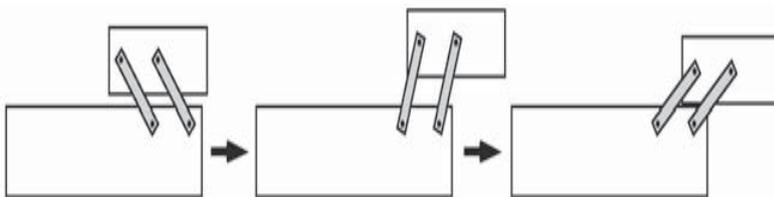
## 〔数学的活動〕

数学的な表現を用いて, 根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動

図形の認識(平行四辺形の性質)の指導にあたっては, 形式的にただ言葉で覚えるだけでなく, 記号で表す力も必要である。まずは, 身近な道具を使って視覚的に性質を理解することも必要である。

## (例題)

身の回りで水平を保つものの仕組みを考えよう。写真のような道具箱には, どのような仕組みがあるだろうか。



## &lt;留意点&gt;

アームを取り付けた部分を平行四辺形ととらえる過程と平行四辺形になるための条件をアームの取り付け方から見いだす過程を大切にす

## ◎グループで考えを出し合い, 小黑板にまとめ, 全体の前で発表する

問い 道具箱の上の段を動かしたときの様子を観察してみよう?

- 1 アームの取り付け方を読んで, どのようにアームを取り付ければ平行になるか, 模型を作り, 確認する。

問い 身の回りで水平を保つものの仕組みを考えよう。写真のような道具箱には, どのような仕組みがあるだろうか?

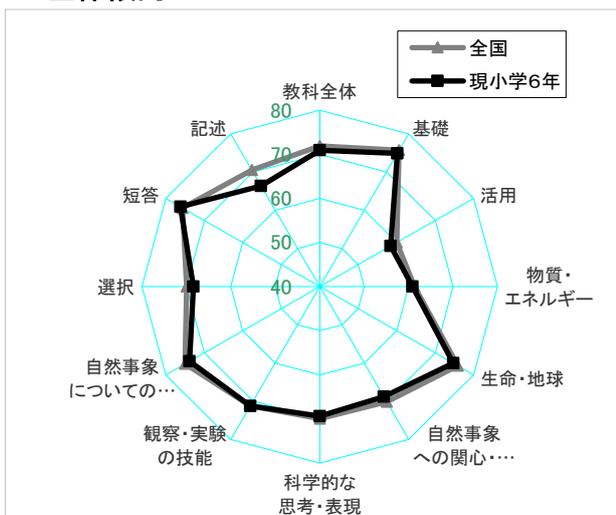
- 2 アームを取り付けた部分を平行四辺形とみなして, 平行四辺形になるための条件を調べる。平行四辺形になるための条件を用いて説明する。
- 3 他の例をあげ, 水平がつくりだされている仕組みを確認する。

## 《ワンポイントアドバイス》

- ・ 数学的な推論のうち, 「帰納と類推」は小学校算数でも多くの場面で用いられており, これらはいくつかの場合について観察, 操作や実験などの活動を通して, 一般的な結果を導き出す際に用いられます。
- ・ 同じく数学的な推論の「演繹」も小学校算数で用いられていますが, 「帰納と類推」で推測されたことが正しいことは, 根拠を明確にしなければならず, 中学校数学においてさらに論理的思考を伸ばします。

## 小学 6年 理科

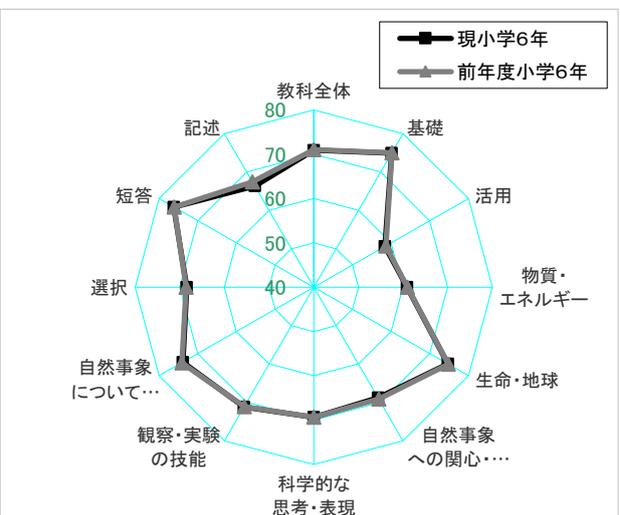
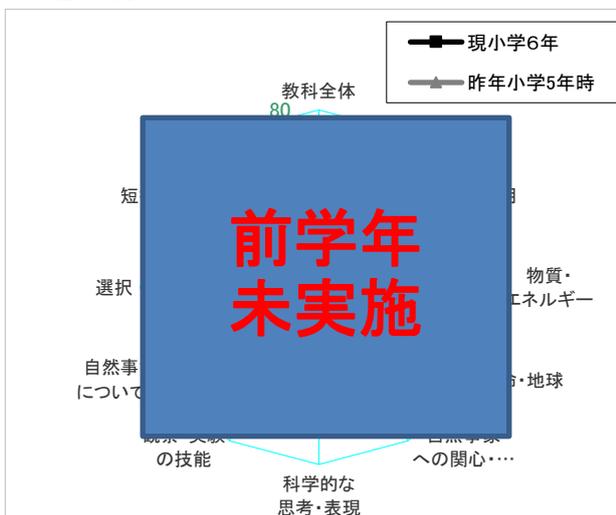
### 1. 全体傾向



#### コメント

○全国と比較すると、概ね同様の傾向が見られる。しかし、記述及び活用に関しては、若干下回っている。

### 2. 経年変化



#### コメント

#### コメント

○昨年度と比較すると、概ね同様である。

### 3. 強みと弱み

○理科で使用す言葉等については、多少なりとも身につけている。

- 「生命」の分野には課題が見られ、実験等で補えない部分を推察する力が求められる。
- 問題から知識をもとに回答することに苦手な面が見られる。

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

- 実験できるものに関しては，よくできている。
- 実験できないものや実際に見ることができないものはできない。
- 映像教材の有効性を発見する。ICTの活用。

\*現象名や物の名前を答えるような問題の無回答に対する対応

現象を見たり，実験したりすることで内容の理解はできているが，理科の言葉を覚えていない傾向がある。授業の中で意識的に理科の用語を使うことができれば，改善される可能性がある。

\*目に見えない物を見える化することの重要性

理科教育支援員の実験準備により，教科書にある実験をほぼ実施することができている。しかし，実験では扱えないものに関しては，映像等を有効に活用したり，図などで視覚的にとらえられるようなイメージ化をしたりして児童の理解を促す工夫が必要となる。

#### 無回答率の高いの例題

##### 小学校6年生

かえったばかりのメダカの子どもが，2～3日エサを与えなくても生きていけるのはなぜですか。その理由を簡単に書きましょう。



#### 【観察する力，想像する力】

卵からかえったばかりのメダカを観察できれば（できなければ映像や写真等），大人のメダカと比較して，体のつくりを比較することで違いに気がつくことができる。そこで，「なぜ，ちがうのか」をちかけ，児童に考えさせることができる。児童が考えるための条件や気づきを設定することで，興味をもって調べることができるとでき，ひいては，役割や創造する力の向上にもつながり，理科の考える力が伸びることにつながると考える。

図のような河原の石はどのあたりで見られるか。

①上流 ②中流 ③下流

また，その理由は？



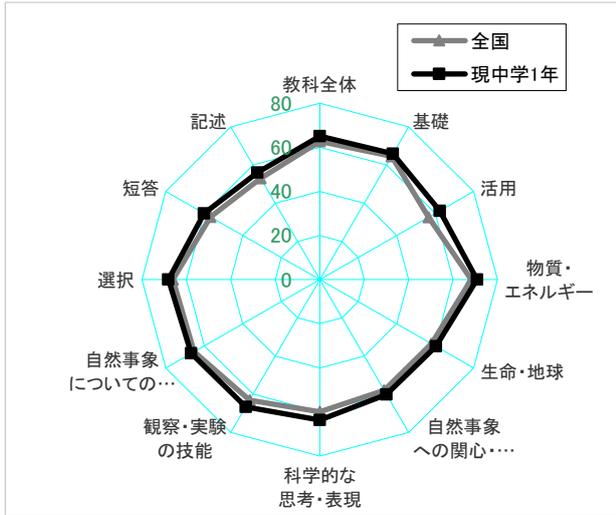
#### 【仕組みを理解する力，想像する力】

なぜ石が写真のような形になるのか，自然の中でどのようにすれば良いのかなどを考える時間が必要である。その仕組みを考える事は理科の力を伸ばすためにも必要であろう。しかし，仕組みを学校の実験で行うことは困難であるので，映像教材等を利用して，想像し，理解を深める活動を取りいえることが大切になると考える。

理科の学習では，「なぜ」という思いを十分持たせ，情報を整理して予想，実験，結果，まとめと進めていくことが大切である。

# 中学 1年 理科

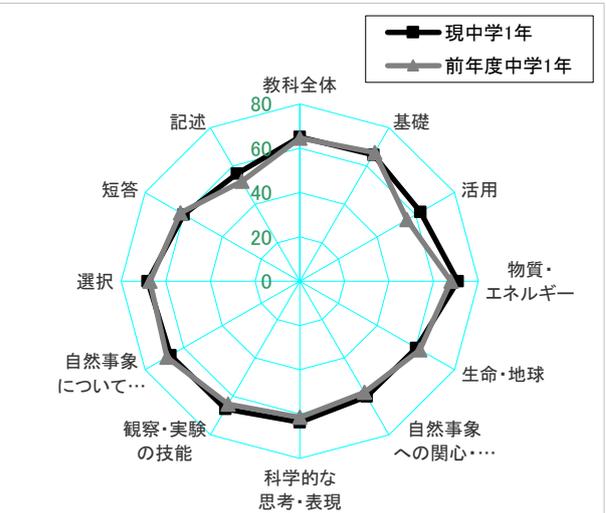
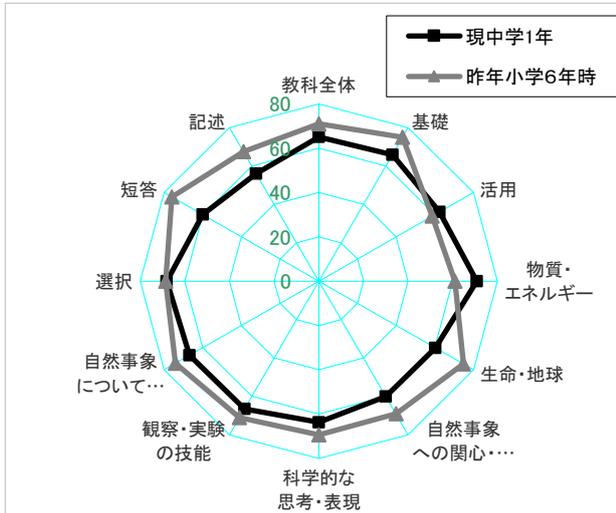
## 1. 全体傾向



### コメント

○全国と比較すると、概ね同様か若干上回っている。特に活用に関しては顕著である。

## 2. 経年変化



### コメント

○昨年度と比較すると、下回っているものが多い。問題の差によるものと考えられる。

### コメント

○昨年度との比較では、概ね同様であるが、活用及び記述に関しては、上回っている。

## 3. 強みと弱み

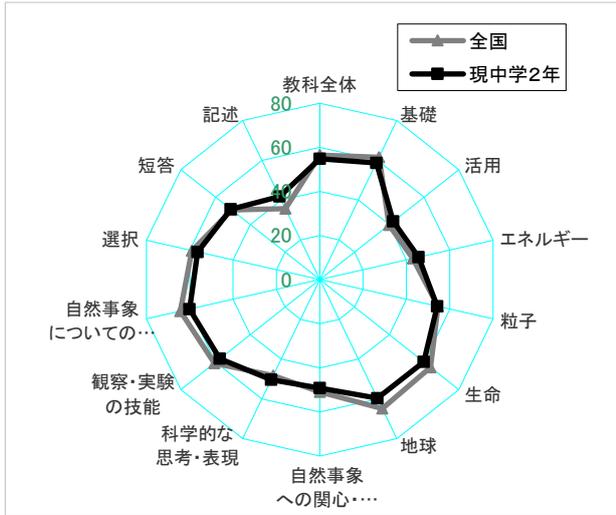
○概ね全国平均を上回っているので、指導の良い面を把握する必要がある。

○活用が平均して上回っていることから、条件等から推察する力が身についてきていると思われる。

○記述が多少上回っていることから、問題にたいして、自分の考えを導き出す力がついていると考えら

# 中学 2年 理科

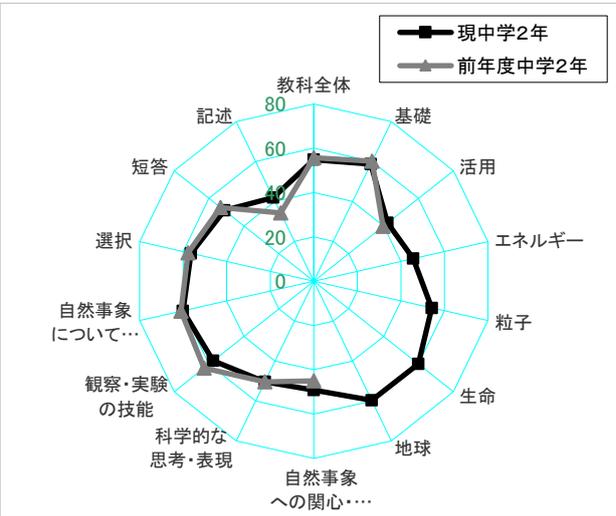
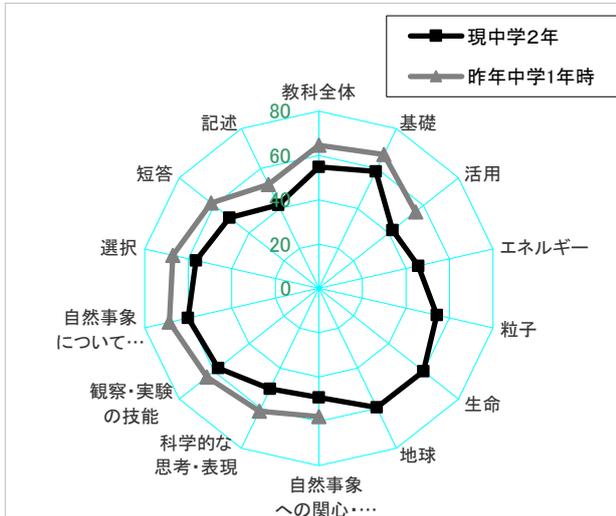
## 1. 全体傾向



### コメント

- 全国と比較すると、概ね同様の結果である。
- 特に記述に関しては、全国を上回っている。
- 生命、地球に関しては、若干下回る。

## 2. 経年変化



### コメント

○昨年度と比較すると、下回っているものが多い。問題の差によるものと考えられる。

### コメント

○昨年度と比較すると、概ね同様である。特に記述に関しては、昨年度を上回っている。

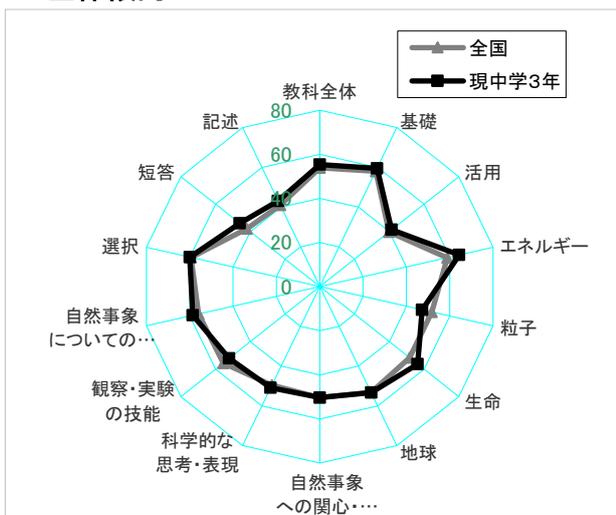
## 3. 強みと弱み

○言葉で表現すること(記述)に関しては、知識をもとに整理して表現できている。

●全体的に全国平均を下回っている部分が多い。特に、「地学」と「生命」の分野での改善策を検討する必要がある。

## 中学 3年 理科

### 1. 全体傾向

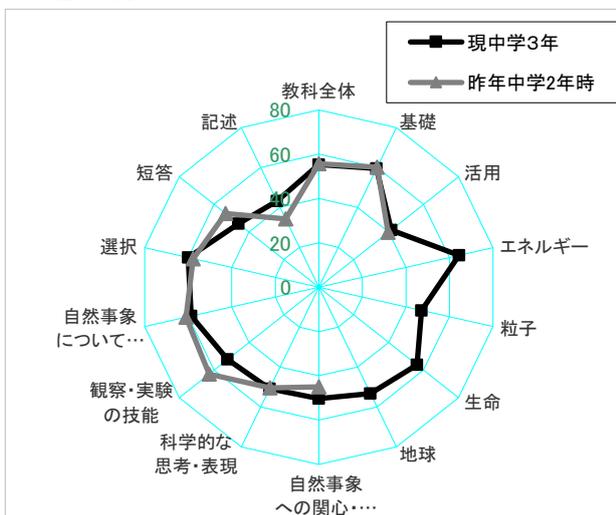


#### コメント

○全国と比較すると、概ね同様である。また、自然事象及び担当に関しては、全国平均を上回っている。

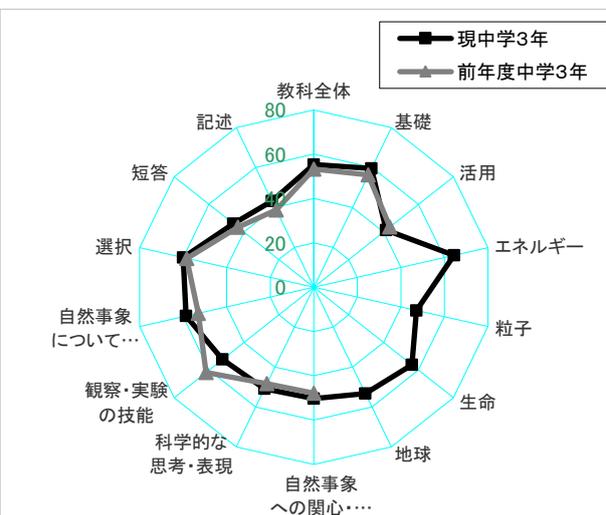
●粒子に関しては下回っている。

### 2. 経年変化



#### コメント

記述に関しては向上し、技能面に関しては低下している。



#### コメント

○関心・意欲・態度及び知識・理解については、向上し、技能面では、低下がみられる。

### 3. 強みと弱み

○全国よりも「生命」の分野が高い。実際に見ることの良さや深まりがあると思われる。

○問題で問われたことに対して、学習した知識をもとに、表現することができている。

●全国平均と概ね同様であるが、「粒子」の分野が低い。見えない物を創造する力を育てる必要がある

#### 4. 授業改善の方向，効果的指導例

- 実験できるものに関しては，よくできている。
- 実験できないものや実際に見ることができないものはできない。
- 映像教材の有効性を発見する。ICTの活用。

\*現象名や物の名前を答えるような問題の無回答に対する対応

現象を見たり，実験したりすることで内容の理解はできているが，理科の言葉を覚えていない傾向がある。授業の中で意識的に理科の用語を使うことができれば，改善される可能性がある。

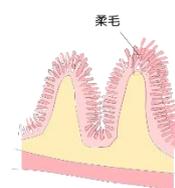
\*目に見えない物を見える化することの重要性

理科教育支援員の実験準備により，教科書にある実験をほぼ実施することができている。しかし，実験では扱えないものに関しては，映像等を有効に活用したり，図などで視覚的にとらえられるようなイメージ化をしたりして生徒の理解を促す工夫が必要となる。

#### 無回答率の高い例題

##### 中学校3年生

小腸の壁にはたくさんのひだがあり，ひだは無数の柔毛に覆われています。このようなつくりをしていると養分を効率よく吸収できますが，その理由を簡潔に書きなさい。



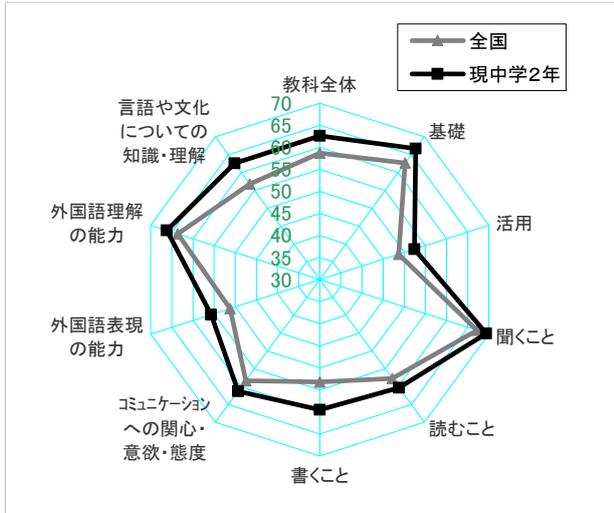
#### 【既知の知識から想像する力】

「なぜ，養分を効率よく吸収できるのか」について考える必要があります。そのためには，どのように養分は吸収されるのかということを考えるはずですが，柔毛がある場合とない場合で比較することで，ある場合の良さに気づくことができれば，栄養を効率よく吸収できる理由にたどり着けると考えます。1つの課題を追求し比較して考える事も，考えを深める場合には有効な手立ての一つです。実験で吸収の効率の良さを再現することは難しいですが，映像等を活用し，考えを裏付けできるような授業の展開が期待されます。

理科の学習では，「なぜ」という思いを十分持たせ，情報を整理して予想，実験，結果，まとめと進めていくこととなります。1つの実験から多くのことを考えられるように働きかけた授業を展開してください。

## 中学 2年 英語

### 1. 全体傾向

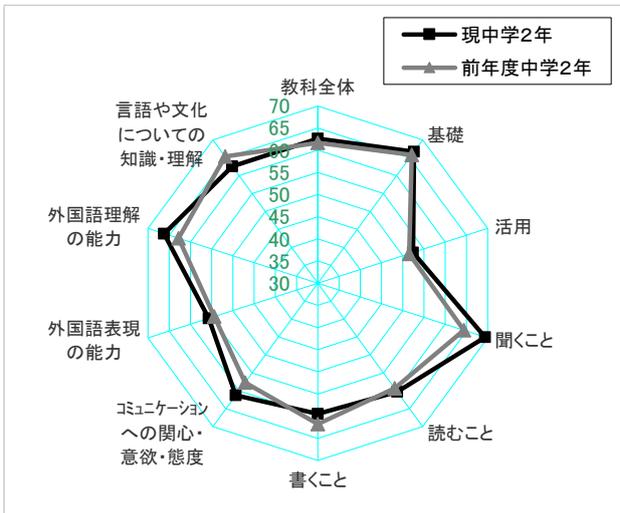
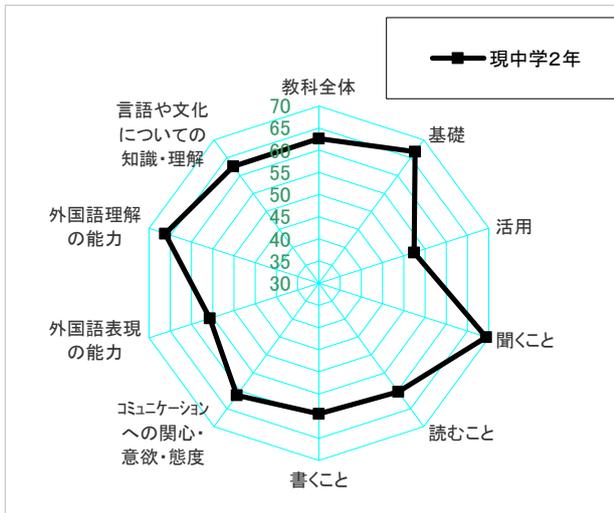


#### コメント

柏市の正答率は、すべての領域・観点において全国の正答率を上回っており、全般的に良好な結果と言える。

しかし、「活用」、「外国語表現の能力」については、まだまだ他の項目と比べ低い数値であり課題と言える。

### 2. 経年変化



#### コメント

#### コメント

「聞くこと」、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語理解の能力」の点において、昨年度を大きく上回っている。

一方で、「書くこと」、「言語や文化についての知識・理解」については、昨年度より下回っている。

### 3. 強みと弱み(強み○ 弱み●)

○各種分野において、バランス良く全国平均より高い数値が見られる。

○「聞くこと」「外国語理解の能力」、「言語や文化についての知識理解」が特に優れている。

●「活用」には大きな課題があり、特に「外国語表現の能力」が低い。

●インプットによる知識を、アウトプットによる表現の能力までつなげることが必要となる。

#### 4. 授業改善の方向, 効果的指導例

中学2年生の時期: 小・中学校で英語を学習していく過程で, 学習意欲を上げることがなかなかできない生徒が多くなる

要因として:

- ・「音声(聞く, 話す)の学習」→「文字(読む, 書く)の学習」への移行
- ・特に「文法」などの学習内容が高度になること

今回の調査結果から:

- 「聞くこと」の正答率が他の技能よりも高いことを活かす
- 「聞くこと」の活動を他の技能に「つなげる」ような活動や学習法を取り入れる
- 学習意欲を高める工夫, 仕掛けをねらいたい

〈「聞くこと」と「話すこと」をつなげる〉

- ・インタビューなどの会話活動(※起こりがちなミスの共有、修正まで)
- ・Q&A(一斉、ペアなど)
- ・ペア対抗、グループ対抗のクイズ活動
- ・英語の歌

〈「聞くこと」と「読むこと」をつなげる〉

- ・英語の曲を聞いた後に歌詞を読んで意味を考える
- ・リスニングを十分に行った後に教科書の本文を扱う
- ・ストーリーの要約を音声で聞いてから、まとまった文章を読む

〈「聞くこと」と「書くこと」をつなげる〉

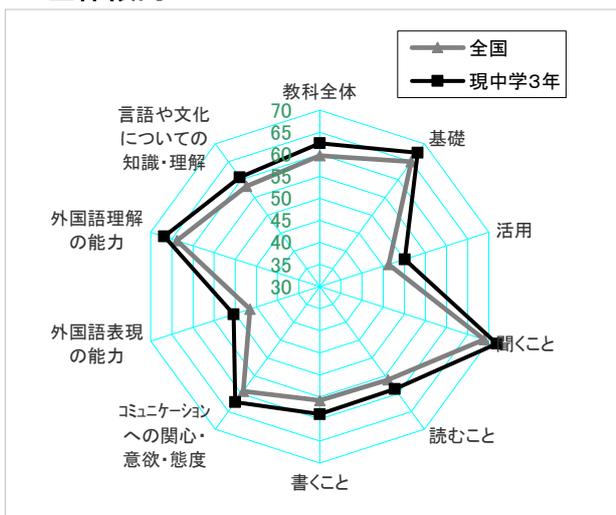
- ・ディクテーション
- ・聞いた内容を自分で要約して文を書く(単語からなど、段階を踏んで)
- ・スリーヒントクイズ: 聞いたものを書き、グループで正解を考える
- ・自分のことを「言いたい」、「書きたい」と思わせる場面設定を工夫する

授業づくりにおいて、それぞれの技能をバラバラではなく、効果的に「つなげる」ことで理解が深まります。

また、活動と活動の間をどう「つなげる」かでテンポを自然な流れにしたいものです。4技能を育成する活動を「スパイラル」的に取り込み、相乗効果を促すことを考えてみましょう。

## 中学 3年 英語

### 1. 全体傾向

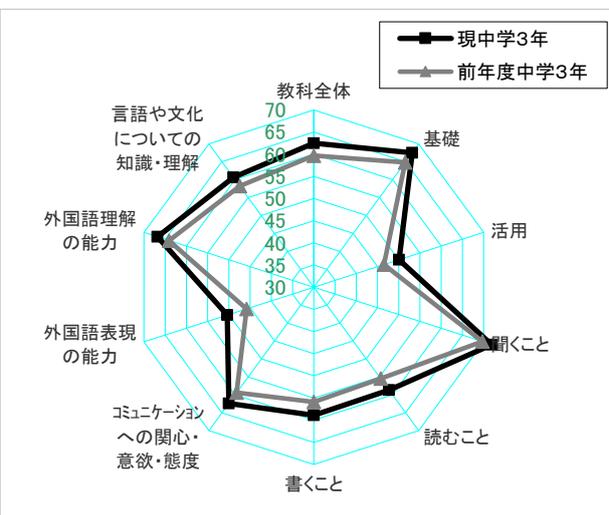
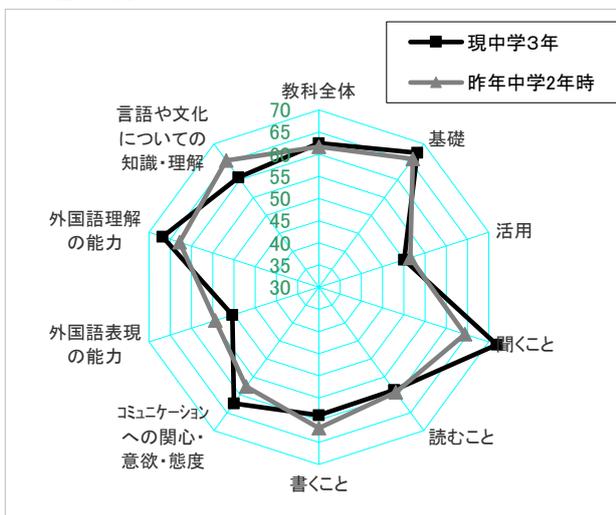


#### コメント

・柏市の正答率は、全ての項目において全国の正答率を上回っており、良好な結果と言える。

・しかし、「活用」、「外国語表現の能力」は他の項目と比べかなり低い値になっているため、課題と言える。

### 2. 経年変化



#### コメント

・2年次と比べて「聞くこと」、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」や「外国語理解の能力」が高くなっている。一方で「言語や文化についての知識・理解」、「書くこと」、「外国語表現の能力」が下がっている。

#### コメント

・昨年度と比べ、いずれの項目においても上昇していることがわかる。  
・「活用」と「外国語表現の能力」が弱いという課題は依然として克服できていない。

### 3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

○対話文の内容について、適切な答えを選択する。

○語彙の知識・理解に関する問題。

●英語の質問に対し、英語で記述して答える問題。

●場面に応じた表現を英語で書く(天気をたずねる, など)。

「強み」の項目を表現活動に積極的に取り入れることで、「弱み」の克服につなげられると考える。

#### 4. 授業改善の方向、効果的指導例

中学3年生の調査結果から、中学校2年間の学習を経た「強み」と「弱み」の傾向がはっきりとしてくる。「強み」を生かしながら「弱み」を克服し、結果につなげるために、全国との比較から正答率が高いケースと低いケースとに区別、注目しながら今後の授業改善について考えていく。

##### 〈正答率が高いケース〉

###### ○結果から見える傾向

- ・「聞くこと」については、相対的に見ても達成率が高い。

###### ○指導の方針

「強み」を「弱み」の克服に生かす。

→対応策として、「聞くこと」を他技能に「つなげる」授業デザイン。

###### ○指導内容の例

- ・(【英語】中2のページを参照)

##### 〈正答率が低いケース〉

###### ○結果から見える傾向

- ・全国と同様「活用」と「外国語表現の能力」がかなり低い。
- ・2年次に比べ、「言語や文化についての知識・理解」、「外国語表現の能力」、「書くこと」が低下。  
→理解させた後の、他技能に渡る表現活動の頻度を増やしたい。

###### ○指導の方針

- ・「活用」と「外国語表現の能力」を育成することを意識  
→自分なりの意見を持たせられる課題を与えることや、相互作用(やりとり)がある場面設定(アクティブラーニングの観点も含んで)
- ・基礎知識を確実に身につけさせるよう、「言語や文化についての知識・理解」の力を育成することを意識

###### ○指導内容の例

###### 【トピックトーク】

・グループやペアで共通のトピック(話題)について英語で話す。トピックは生徒に身近なことで、伝えたい、知りたい内容を持っているものを設定する。

・「一定時間会話を続ける」、「アイコンタクトをする」、「失敗を恐れずに英語を話す」、「2文以上で詳しく答える」など、目標をはっきりと設定する。

- ・話したことを書き起こすなど、「書く」活動ともつなげる。

授業内で位置づけられる活動が、「何を身につけさせるか」というビジョンを持ち、学習指導要領にもあるように、「文法については、コミュニケーションを支えるものである」ことを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導していきたい。

## 1 調査結果からみえる課題の改善には、学校図書館の活用が不可欠です。

### ①学校図書館で「読書習慣」

語彙力や漢字を読む力を育成するには、たくさんの生きた言葉に出会うことが必要です。学校図書館を活用して、語彙を増やしましょう。

### ②学校図書館で「目的に応じた様々な読み」

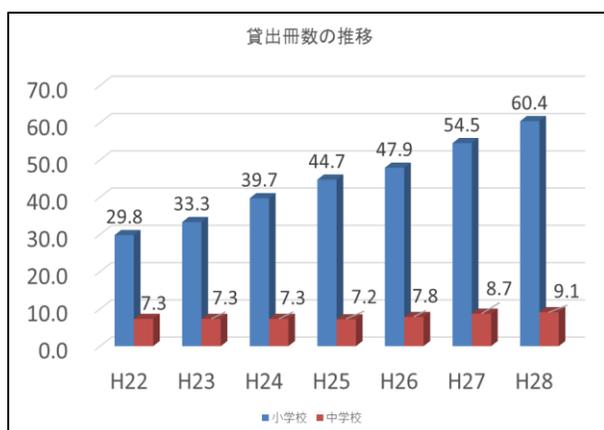
日常生活では、時と場に応じて、様々な読み方が必要とされます。例えば、「全体を速く読む」「比べて読む」「必要な箇所を素早く見付けて読む」などです。学校図書館を活用して、様々な方法で読む力を鍛えましょう。

### ③学校図書館で「アクティブラーニング」

アクティブラーニングのキーワードは、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」です。学校図書館を活用して、全ての教科領域で、主体的対話的な調べ活動を行い、学びを深めましょう。

## 2 学校図書館を「読書センター」から「学習情報センター」へ

### ★学び、変わる、図書館から！！



学校図書館を活用した授業を行っている教員の割合

【H28年度】

小:95.6%

中:61.1%

小中:84.2%

柏市の子供達の図書館活用は、定着してきています。7年前の調査結果と比較すると、小中学校ともに貸出冊数が増加していることがわかります。

柏市の小学生では少なくとも半数以上が学校図書館の本を年間で約60.5冊の本を借りています。また、昨年度から始めた読書記録も85.5%の学校で実施され、子供達のふり返りの場や達成感を得ることのできる場になってきています。学校図書館が「本と出会う場」として機能していることが分かります。

一方、中学校の年間貸出数は9.1冊と微増にとどまっており、読書の対象が、学校図書館の蔵書から個々の嗜好で入手した本に移っていくことが考えられます。学校図書館を利用した授業では、単に本を「読む」のではなく、「情報を集める」「調べるために読む」といった目的を持った読書を推進し、読書の質を向上させていく必要があると考えています。

## ★調べ学習を楽しくて力がつく授業にしよう！！

柏市には、学校図書館指導員がおり、時季によって展示本が変わるなど、環境が整っています。そのため、休み時間や放課後に足を運び、本を手取る子供達が増えてきました。学校図書館は、「好きな本を読む場～読書センター～」にとどまらず、「各教科領域の学習における情報収集・活用の場～学習情報センター～」の機能も兼ね備えています。つまり、子供達にとっては、「第2の教室」です。右記の例を参考に、学校図書館を活用した授業が展開できないか研究してみましょう。

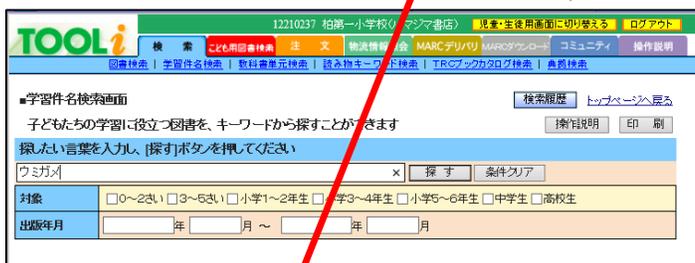
学校図書館を活用した授業の例としては・・・

- 国語の古典教材で図書を使う
- 社会の歴史単元で図書を使う
- 理科で実験&観察に文献を加える
- 総合でネットの情報に図書を加える

## ★調べる方法拡大中！！

### \* TOOLi-S 検索システム

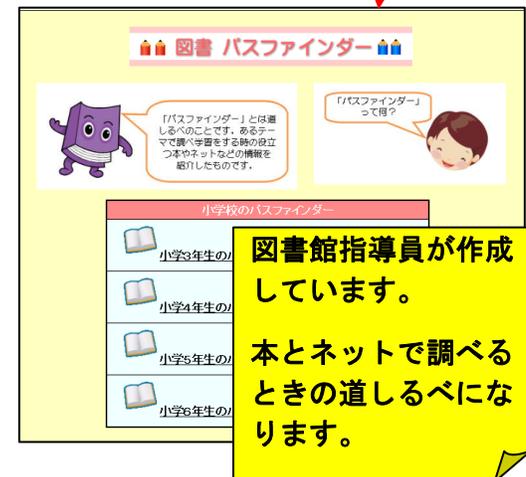
TOOLi-s と  
入力してクリック！



- ・ キーワード
- ・ 単元名 など

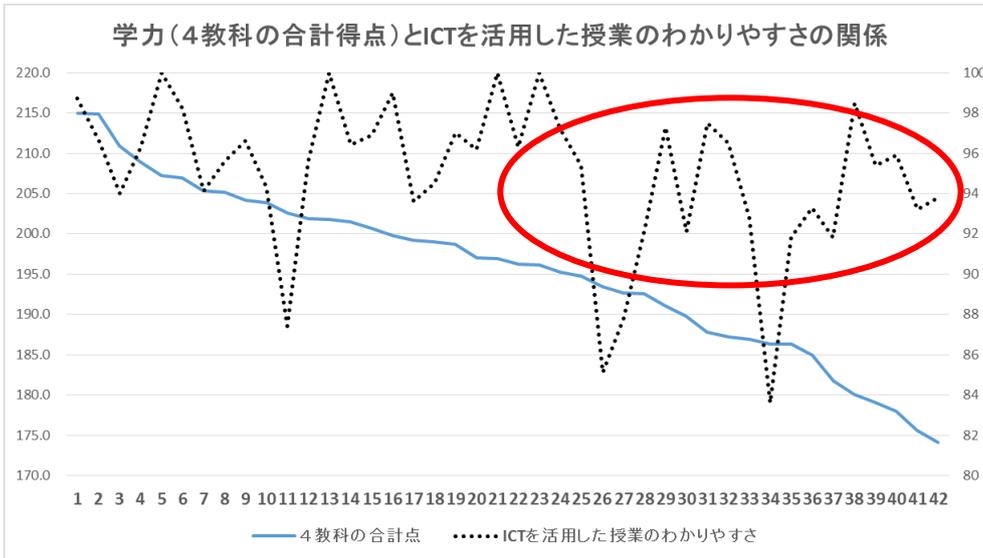
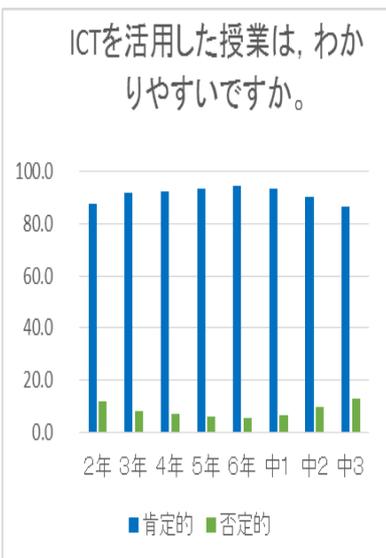
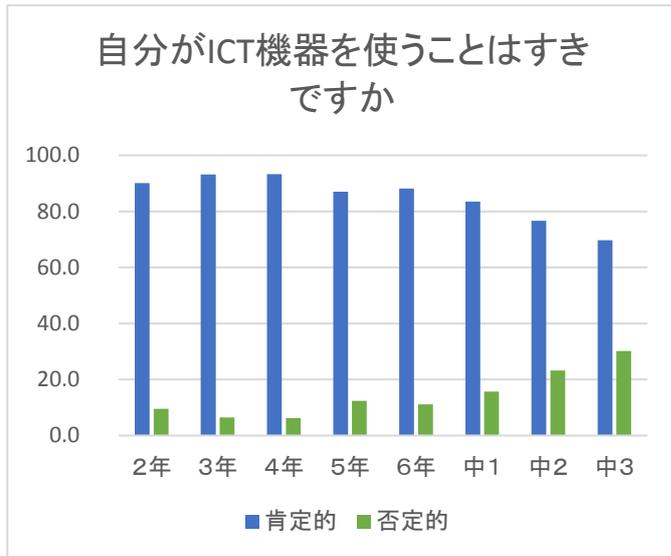
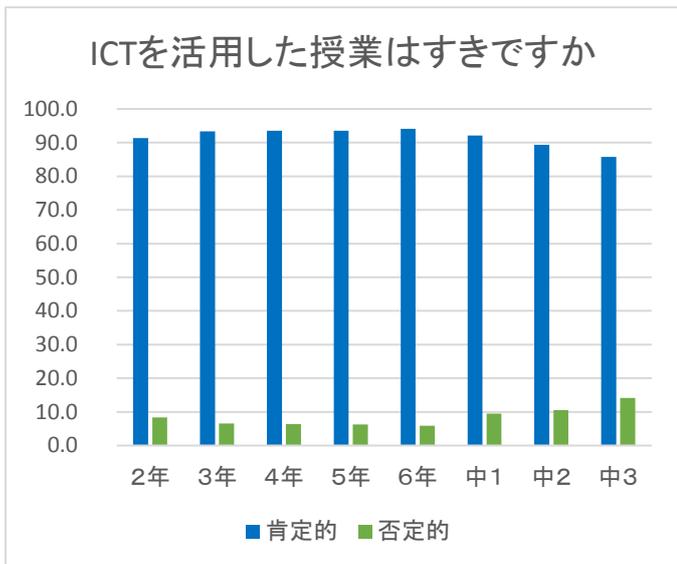
様々な方法で学習に役立つ図書を探ることができます。

### \* パスファインダー





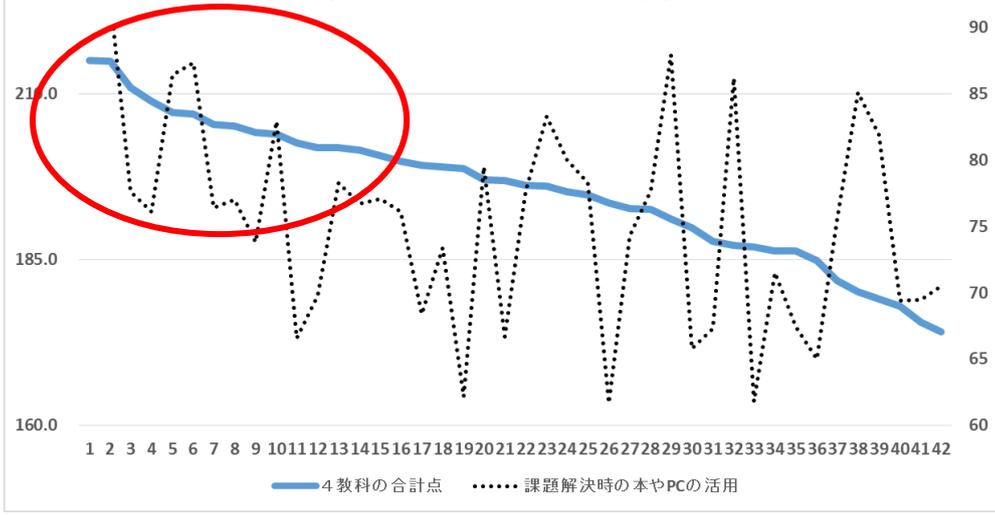
# ICT活用に関する意識と課題



上記データからわかるとおり、授業でのICT活用は、どの学年においても「児童生徒の学習意欲向上」「学習内容の定着や深まり」に寄与できることが見て取れる。特に注目すべき点は学力（4教科の合計得点）とICTを活用した授業のわかりやすさの関係のデータにおいて、中位・低位層にとってもICTを使った授業はわかりやすいと答えている点である。教師は授業の中でICTを積極的に活用し、コンテンツ使ったり、写真・動画などで提示したりして、わかりやすい授業を展開していくことが求められる。

そして、もう1つ注目しなければならないデータとして、子供たちがICT機器を授業で使うことに学年が上がるにつれ、抵抗感が増している点である。機器の扱いは慣れてきているはずだが、自分の思いを効果的に表すことに難しさがあると推測できる。児童生徒の表現力の育成とともに、教師が児童生徒のICT活用を指導する能力の向上が望まれる。

### 学力(4教科の標準スコアの合計)と課題解決意識の関係



学力と課題解決時に本やPCを活用する児童の割合は、特に上位層において正の相関関係にあることがわかる。次期学習指導要領では言語能力とともに情報活用能力がこれからの子供たちに必要とされる資質・能力と位置付けられた。ICTを日常的に授業で活用するようにしたい。

柏市教育委員会では、ICTの効果的な活用に向けて、様々なコンテンツを用意しています。デジタル教科書は小学校で算数・社会、中学校については英語科が今年度導入されます。また、柏市教育委員会が制作している社会科副読本のデジタル版も導入されています。そしてITアドバイザーOnlineの学習メニューの中には、無料で活用できるコンテンツも多数そろえていますし、柏市ICT活用実践事例集を各学校に配付しています。先生方の授業デザインに合ったコンテンツ等を選び、児童生徒にとって楽しく、そしてわかりやすい授業になるように、ICTを効果的に活用して授業改善をお願いします。

**デジタル教科書**  
新編 **新しい算数**  
**6**

デジタル教科書算数(小1~小6)

**デジタル教科書**  
新編 **新しい社会**  
**5**

デジタル教科書社会(小5・小6)

**わたしたちの柏**  
この本を愛するみなさんへ  
『わたしたちの柏』は、3年や4年生のみなさんの総合の学習に活用していただくために作りました。わたしたちの市の歴史や人びとの暮らし、仕事についてこの本を手がかりに学習しましょう。  
○歴史を調べるためにまちの人びとと話をしましょう。  
○柏のまちの特色はどんなところか。  
○柏に生きている人たちは、どんな仕事をしているか。  
○柏の自然は、どんなふうにかわってきたか。  
○柏のまちを愛する人びとがどんなことをしているか。

社会科副読本デジタル版  
(小3・小4)

**郷土かしわ**  
社会科副読本デジタル版  
(地歴編・公民編)

**柏市立教育研究所**  
～自他を結び支え合い学び合い高め合う教育～

研究分野	基本方針	活動目標	関係支援機関	協賛機関	情報機関	ICT活用事例
ICT活用事例集(平成27年度)	◆平成27年度(詳細は添付資料を参照してください)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42	内容: 世界の国の日本 教科: 社会 詳細: <a href="http://www01.kashiwa.ed.jp/ICTE/001/">http://www01.kashiwa.ed.jp/ICTE/001/</a>	内容: 命と心とつながり 教科: 生活 詳細: <a href="http://www01.kashiwa.ed.jp/ICTE/002/">http://www01.kashiwa.ed.jp/ICTE/002/</a>		

授業での効果的なICT活用場面を多数収録  
※教育研究所HPで閲覧も可能

**柏市ICT活用実践事例集**  
柏市立教育研究所

**ITadviser Online**  
柏市IT教育支援アドバイザーによる教職員向けのサポートページです

ITアドバイザーOnline

学習メニュー (小学校用・中学校用・特別支援学級用)

**小学校の学習メニュー**

**中学校の学習メニュー**

**特別支援学級の学習メニュー**

# レーダーチャート分析シート利用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体や同一集団の前年度、昨年度の同学年の結果と比較するためのものです。

- ① ファイル名  
 小学校用 「2017 小学校用レーダーチャート分析シート」  
 中学校用 「2017 中学校用レーダーチャート分析シート」
- ② シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- ③ 柏市平均正答率は既に入力してあります。
- ④ 入力データは、各年度の次のファイルを開いてコピーして貼り付けてください。  
 「柏市立〇〇〇学校 ①学力 (00) C1.xlsx」

★集計結果					★正答率の比			
	目標値	平均正答率	中央値	達成率	[確認・活]			
校内	81.1	87.0	75.9		100%			
市町村	78.0	80.1	82.6	74.7	90%			
全国	81.2	84.8	76.7		80%			

	目標値	平均正答率		
		校内	市町村	全国
78.0	81.1	80.1	81.2	
82.6	86.1	85.6	86.5	
74.7	57.3	54.4	55.9	
87.0	86.2	86.1	88.8	
75.9	75.5	75.9	77.8	
76.8	76.8	73.8	76.3	
83.5	83.5	83.1	82.7	
73.9	73.5	72.9	74.0	
86.2	86.2	86.1	88.8	
71.3	71.3	70.9	72.6	
70.6	70.6	67.5	68.7	
90.5	90.5	90.8	90.9	
78.4	78.4	76.3	78.0	
90.5	90.5	90.8	90.9	
68.0	68.9	67.9	69.5	

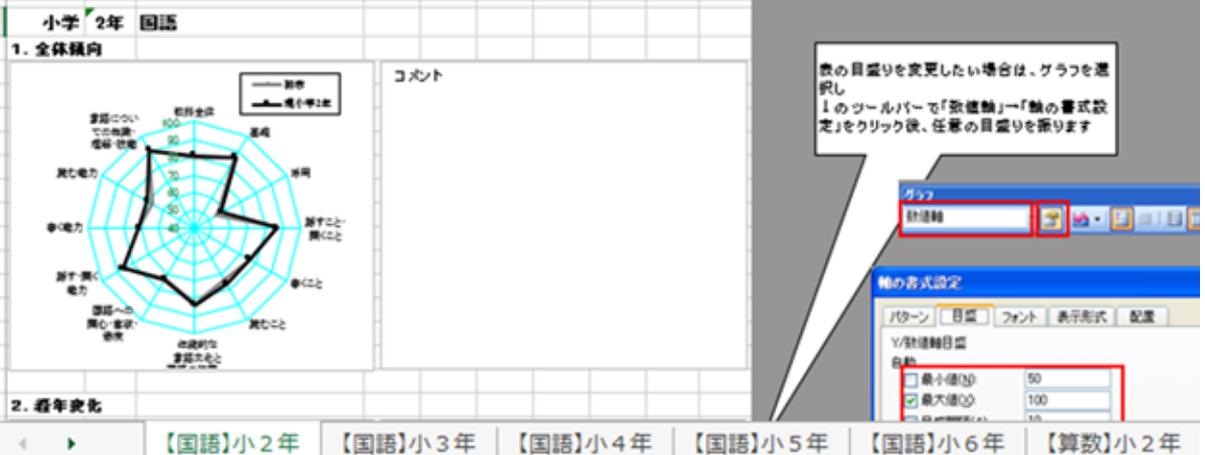
このデータを  
貼り付ける

学年の数字を入力(赤矢印)すると、表に学年が入ります。校種をまたぐ場合は手入力してください

	教科全体	標準	前年度
基礎	基礎	80.1	81.1
応用	応用	55.6	56.2
応用	応用	54.4	55.9
領域	話すこと・聞くこと	98.1	98.2
	書くこと	75.9	75.5
	読むこと	73.5	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度	83.1	83.5
	国語への関心・意欲・態度	72.9	73.9
	話す・聞く能力	98.1	98.2
	書く能力	70.9	71.3
	読む能力	87.5	70.8
	言語についての知識・技能	90.8	90.5

項目名とそれぞれの平均正答率を入力します。エクセルシートから「ただコピー」すると使いやすいです。

表の目盛りを変更したい場合は、グラフを選択し「1」のツールバーで「数値軸」「軸の書式設定」をクリック後、任意の目盛りを振ります

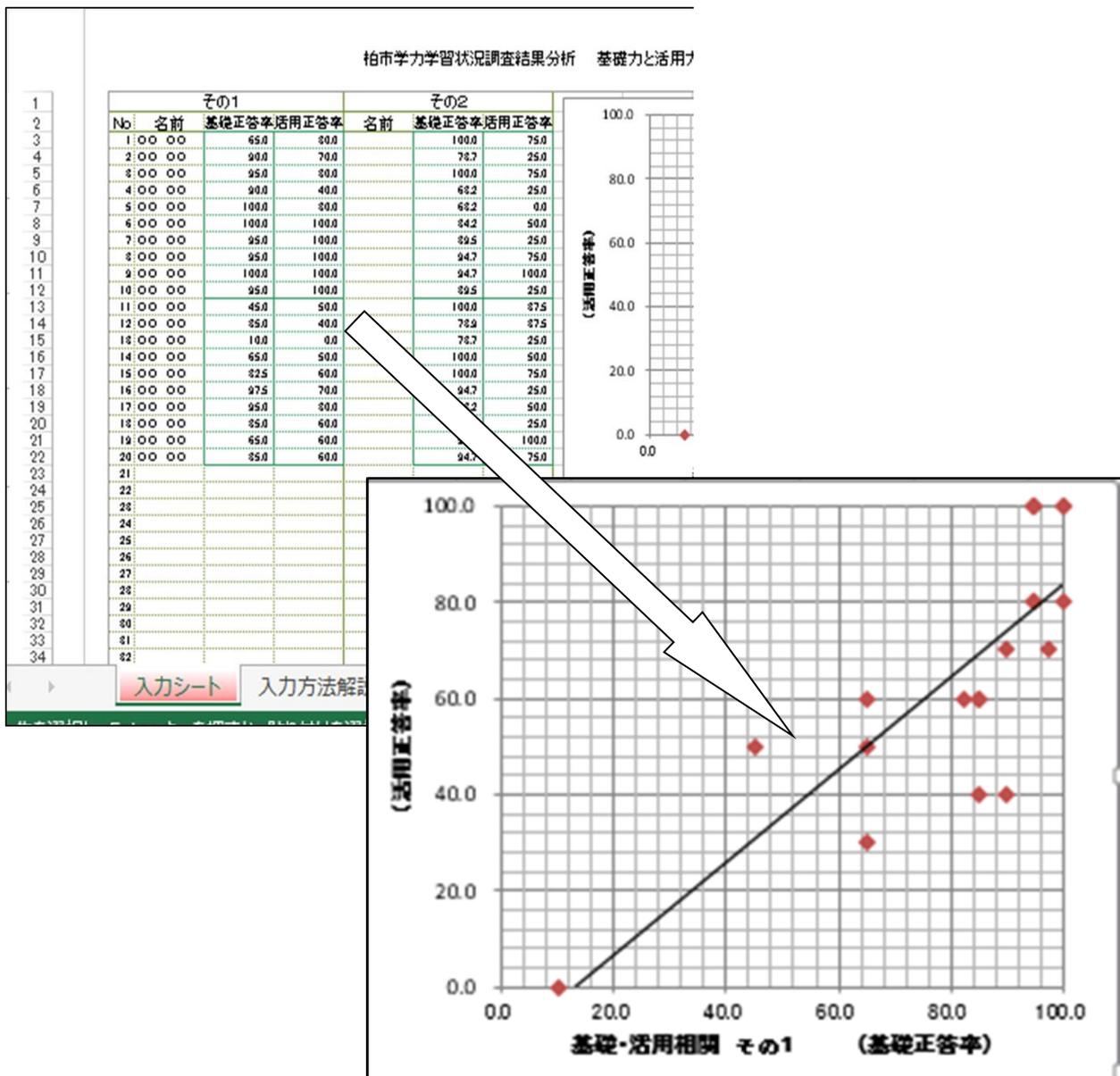


## 基礎と活用相関関係分析シート利用方法

このシートは、学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、学級や一人一人の状況を分析するためのものです。

- ① ファイル名  
「基礎と活用相関関係分析シート」
- ② シートは必要数をコピーしてください。
- ③ 各学校に配付された「柏市立〇〇〇学校〇学年①学力 (\*\*) C1.xlsx」より、学級ごとのデータをコピーして貼り付けてください。
- ④ その1, その2の欄は、国語と算数, 昨年度と今年度など, 比較したいデータを組み替えて利用してください。

**※ 子供の名前を転記する際には、取り扱いに十分注意をしてください。**



平成 29 年度 柏市学力・学習状況調査  
調査結果及び改善案  
「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」

編集 柏市教育委員会 学校教育課  
指導課  
柏市立教育研究所

発行 2017 年 8 月 1 日